

稲田妃命を祀る。境内は水川公園で松や櫻が多い。東方の見沼用水は螢の名所である。

旅館 八重垣、萬松樓、石州樓、遊園地ホテル。

蓮田 (はずだ) 武州鐵道接續點。蓮田、武州

大門間一四軒一。

久喜 (くき) 四五軒三 東武鐵道接續點。

甘棠院(臨濟宗) 西北一軒半、永正年間(約四三〇年前)足利政氏の創建、寺寶の貞巖和尚の畫像は國寶に指定されてゐる。(東武鐵道は總武本線龜戸驛參照)

栗橋 (くりはし) 東武鐵道日光線接續點。

▲靜御前の墓 驛前、尙北三軒三の光了寺にはその遺物を存するといふ。

古河 (こが) もと土居氏八萬石の城下で室町時代には古河公方足利成氏がゐた。▼鮭延寺 南約三軒二、熊澤藩山の墓がある。▼古河城址 西南二

新渡良瀬川の沿岸にある平城で足利成氏、土居氏等の據つたところ。▼篠山貝塚 西北八軒半、石器時代にはこの邊まで海水が入つてゐたことを證するもので史蹟に指定されてゐる。

小山 (をやま) 七七軒 兩毛線、水戸線分岐點。

關ヶ原の役に家康が上杉景勝を征するため東下した折、石田三成が事を擧げたのを聞いて旗を旋した地である。▼小山城址 北約七〇〇米、鮎漁に適する思川の西岸にある。旅館 角屋、伊豆倉。

水戸線

小山から右に岐れて常磐線友部に至つて常磐線に接する。

結城 (ゆうき) もと水野氏一萬七千石の城

下、結城紬を産する。附近に玉日姫の廟、源翁禪師の墓があり、町内の稱名寺には結城朝光の墓がある。

下館 (しもだて) 眞岡線分岐點。常總鐵道

(下館、取手間三一軒九) 接續點。もと石川氏の城下で附近に晒木綿を産する。旅館 堺屋、廣澤。

眞岡線

下館から茂木まで主に田野の間を走り、眞岡附近の米穀、七井、茂木附近の煙草を輸送する線

であるが、高僧哲人の遺跡が沿線に點在するので曳杖の旅客もまた尠くない。

寺内 (てらうち) ▼高田山專修寺 約四

軒親鸞上人東國化導の古蹟である。後、本寺は伊勢の一身田に移つたが、尙高田派と呼ばれる

のはこの地名に因るのである。如來堂の金銅阿彌陀三尊は國寶に指定されてゐる。▼二宮尊徳翁遺蹟櫻町陣屋 三軒三。

眞岡 (まをか) もと豪族芳賀氏の居城地

五行川の西にあり、眞岡木綿の名を以て知られたところ。旅館 松田屋。

益子 (ましこ) 陶器製作所 約三軒。

▼西明寺(眞言宗豊山派) 東南三軒、高館山の中腹にあり、山門及三重塔婆は國寶に指定。

七井 (なゝゐ)

附近に煙草を産する。

茂木 (もてぎ)

煙草(野州達磨)の産地で専賣局の工場がある。

岩瀬 (いはせ)

筑波鐵道(岩瀬、土浦間四

〇) 〇(一) 接續點 ▼富谷觀音(天台宗) 北二軒、觀音山の中腹にあり、本堂に僧行基の作と傳へる祕佛觀音菩薩を安置してゐる。その西側にある三重塔婆は室町時代の特徵を具へ國寶に指定されてゐる。▼雨引觀音 西南約六軒自動車の便がある。

筑波鐵道によれば雨引驛下車(常磐線土浦驛参照)

▼加波山 西南一〇軒、筑波鐵道によれば樺穂驛の東四軒。

羽黒 (はぐろ)

三二軒八

▼櫻川の櫻 西北一軒餘、花期には岩瀬驛から自動車がある。古來名高い名所で、磯部の櫻ともい

ふ。櫻は木花開耶姫を祀つた磯部神社境内にあり、社前の馬場に老木が多い。紅花櫻、匂櫻、毛櫻など東北地方に固有な櫻の變種が多い。花期は四月十五日から二十日まで。指定の天然記念物。社殿の後方にある小流が昔の櫻川で謠曲櫻川に知られてゐる。

福原 (ふくはら)

▼大覺寺 南四軒、親鸞上人西念寺にある時、教を受けられた後鳥羽天皇の皇子正懷親王の創建といふ。

稻田 (いなだ)

附近一帯に花崗岩を産する。▼西念寺 西北約九〇〇米、自動車の便がある。稻田禪坊または稻田御坊と稱へられ親鸞上人が一宗開立の基を始めた地で門徒の最も神聖視するところである。▼玉日御廟 西南一軒半餘、親鸞上人の内室玉日姫の石塔がある。▼縣社稻田神

國寶である。▼石寺彌勒像 北約六軒、藤原時朝の造立で國寶に指定されてゐる。旅館 井筒屋、恵比壽屋、笠間館、大阪屋。名物 稻荷籠。

社 西約六〇〇米、自動車の便がある。稻田姫を祀り式内の古社である。

笠間 (かさま)

もと牧野氏八萬石の城下で城址は驛の東北三軒にあり、山城である。

笠間稻荷

北一軒半、軌道及自動車の便がある。俗に胡桃下稻荷又は紋三郎稻荷とも呼び、宇迦魂命を祀る。社宇宏壯賽者の多いこと成田不動と並稱され年約百萬人に達するといふ。祭日は舊二月の初午祭、九月の煙火祭競技會、十一月の獻花祭などである。▼佐白觀音 東北二軒、笠間城址の山麓、玄勝院内にあり坂東三十三所第二十三番の札所である。▼岩谷寺薬師 西南二軒、建長年間笠間城主藤原時朝の造立で國寶に指定されてゐる。▼楞嚴寺(臨濟宗) 西北約七軒、佛頂山の麓にあり、藤原時朝の創建で、山門及本尊千手觀音は

友部 (ともべ) 常磐線接續點。小金井 (こがねい) 下野國分寺址 西四軒半 附近に琵琶塚古墳があり、共に史蹟に指定せられてゐる。石橋 (いしばし) 薬師寺址 南四軒餘、自動車の便がある。古は奈良東大寺、筑前觀世音寺と共に海内屈指の靈場であつたが、後世廢絶して僅かに安國寺、龍興寺があるのみで、寺址は史蹟として指定されてゐる。薬師寺別當として貶せられた道鏡の墓も竹林中にある。▼愛宕塚古墳 西約六軒、指定の史蹟。▼車塚及牛塚古墳 北約半軒、指定の史蹟。

宇都宮 (うつのみや) 一〇五軒九 上野から普通約二時間五十分、急行約二時間、もと戸田氏七萬



石の城下で古來奥羽に通ずる要路であつた。今第十四師團司令部、高等農林學校がある。人口七萬六千(四、三調)米、麥、製麵、干瓢、石材、木片織を産し米、麥、石材の取引が盛んである。

▲國幣中社二荒山神社 西約一軒七、自動車あり、豊城入彦命を祀る下野國一ノ宮である。市の中央に地を占め眺望佳、境内は今公園となり櫻多く、蒲生君平の碑があり、一月十五日と十一月十五日の春渡祭、冬渡祭は賑かである。▼宇都宮城址 二荒山神社から南半軒餘、康平年間(約八七〇年前)から宇都宮氏の居城であつたが、その後蒲生氏の時に大に城

壘を修めたといふ。釣天井の傳説のあるところ、今は市の公園となつてゐる。▼清巖寺の鐵塔婆 西北八〇〇米、鐵製の鑄物は鎌倉時代のもので國寶に指定されてゐる。▼縣社蒲生神社 西北二軒、市の北方八幡山の中腹にあり、勤王家蒲生君平を祀る。君平は寛政三奇人の一人である。また市内清澄町の桂林寺には君平の供養碑がある。▼八幡山 市の北端にある丘陵で頂上の見晴しがよい。▼軍道の櫻 西三軒自動車あり、花期四月上旬。旅 館 清水屋、白木屋、藤江屋、丸井屋、丸治。市内廻遊自動車貸切二圓、俵一圓。大谷觀音 西北九軒餘、自動車及軌道二十五錢。宇都宮附近第一の名勝地で丘陵の岩窟内に十體の佛像を彫つたもので、弘仁時代(一、一一〇年前)の作もあり史蹟に指定されてゐる。

日光線

附近に屏風岩、天狗投石などの巍峨とした岩石並列し洞窟も多く風景奇絶、野州妙義と呼ばれてゐる。躑躅及紅葉の季節は更に美觀を呈する。旅館 丸屋。

鹿沼 (かぬま) 麻の産出多く帝國製麻會社の工場がある。▼成就院の枝垂赤幣 南二軒、指定の天然記念物である。

旅館 橋田屋、小松屋、中野屋本店、伊勢屋。

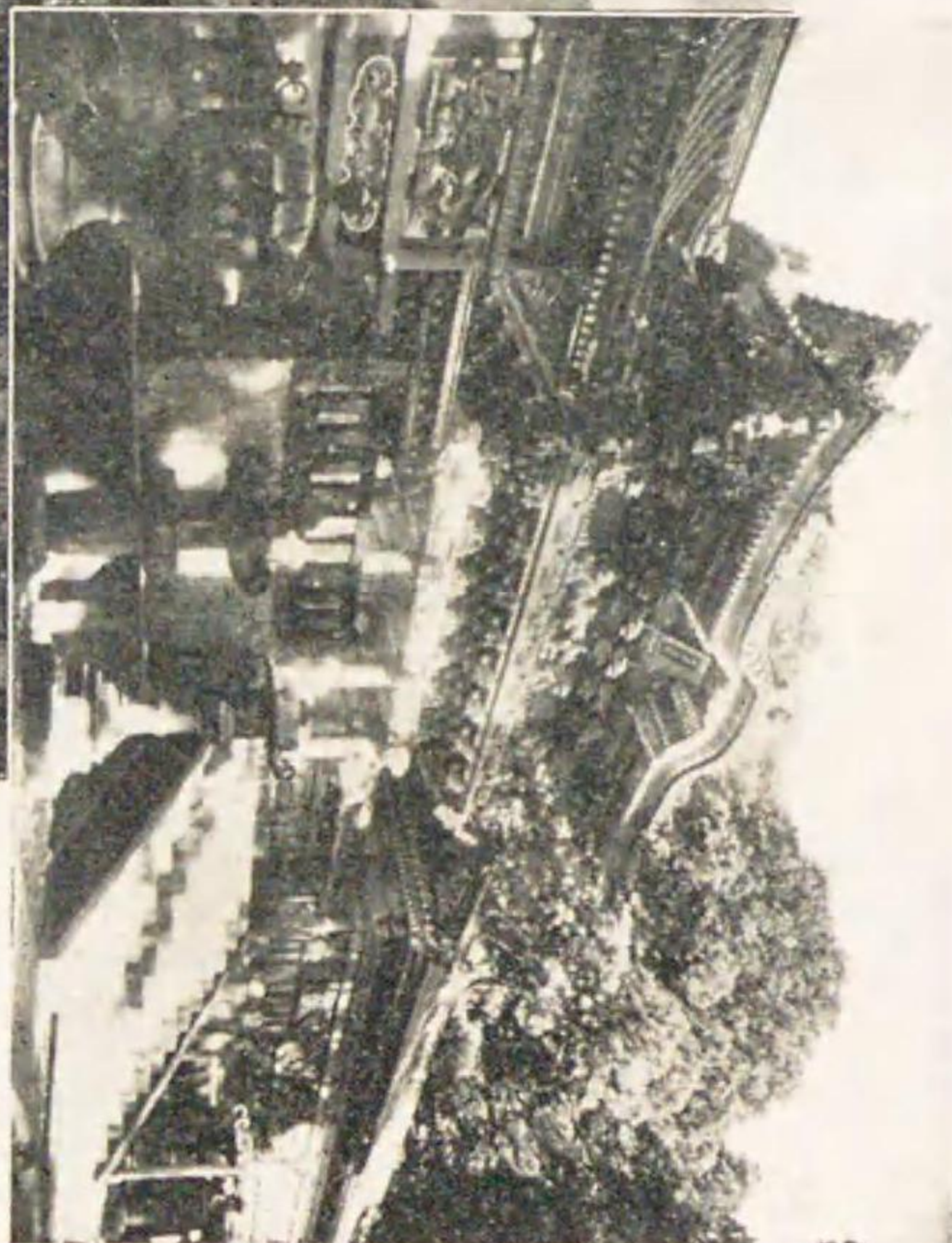
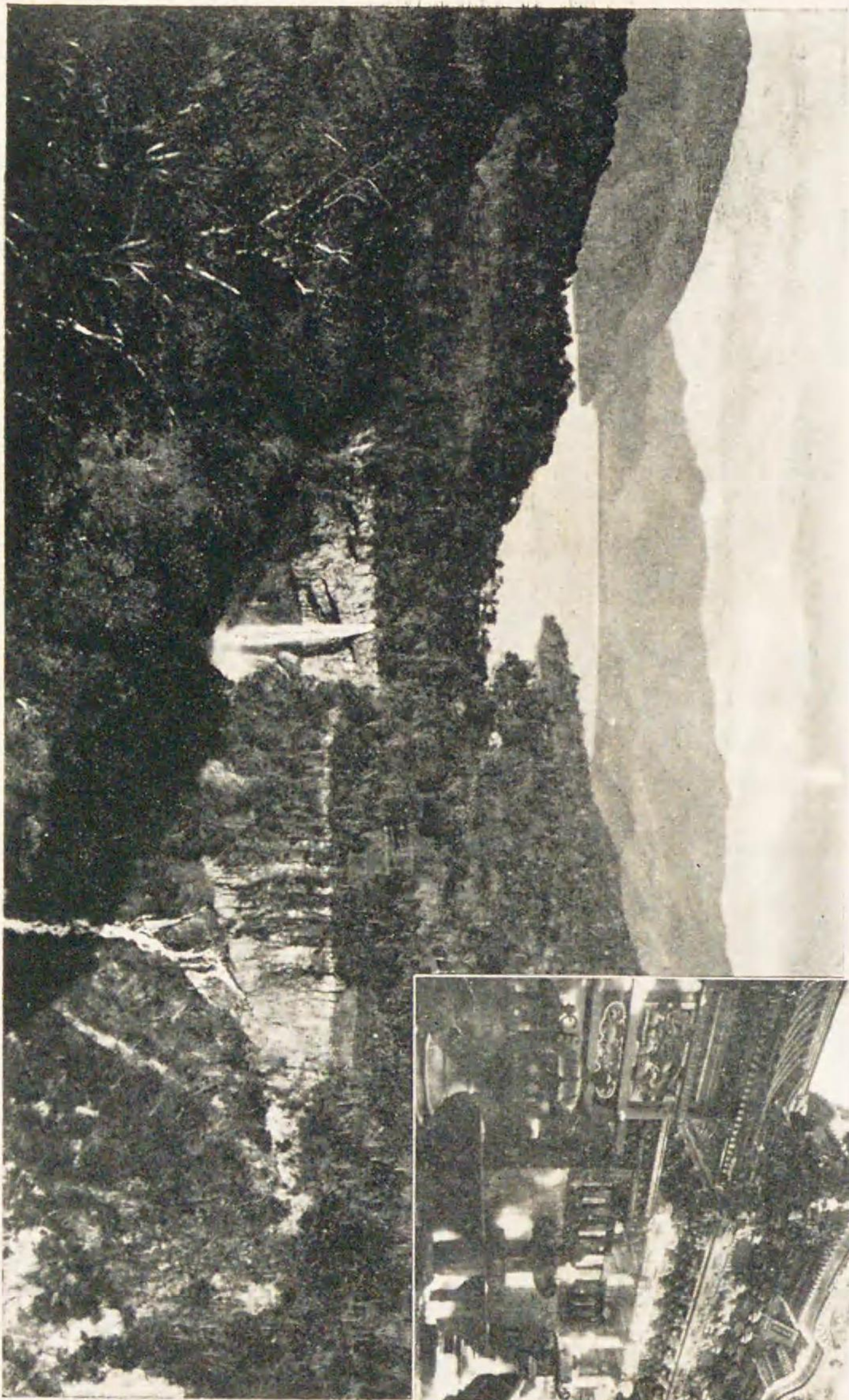
栃木縣廳は宇都宮市にあつて、縣は下野國を管轄してゐる。縣の西北境は山嶽重疊し、男體山麓には山水の名區日光あり、日光の西南足尾は銅山所在地として名高く、北部には高原、那須嶽あり、往時狐狸の跳梁にまかされた那須野ヶ原は次第に開墾せられて面目を改めつゝある。鬼怒川の上流には發電所があり、那珂川沿岸には煙草の産多く、中部の平野には大麻、干瓢を産し、鹿沼は大麻産地の中心地となつてゐる。南部は養蠶、機業盛んに、栃木は繭、生絲を集散し、足利は絹綿交織を多く産出してゐる。

▼古峯ヶ原から足尾へ 古峯ヶ原神社は西二八軒一ノ鳥居まで二四軒自動車の便がある。一圓二十錢。古來修験道場の靈地として知られ、夏季の登山者多く、山中の風光亦美しい。この神社に一泊して翌日足尾に出られる。足尾まで東へ一四軒途中一〇軒は山路で徒歩、四軒は馬車が通つてゐる。今市 (いまいち) 下野電鐵接續點。▼縣社報徳二宮神社 北一軒、二宮尊徳を祀る。境内に報徳文庫がある。

下野電氣鐵道 今市から東北本線矢板まで三〇
 軒六、途中新高徳から岐れて新藤原まで九軒二、
船生 (ふにふ) ▼佐貫石佛 二軒、高さ
 約六〇米の石英粗面岩に線彫で大日如來の坐像
 を現したもの、高さ約一八米、他に比類のない
 大石佛で史蹟に指定されてゐる。その上方の岩
 窟は古來六十年毎に開帳されることになつてゐ
 る。**鬼怒川温泉** (きぬがはをんせん) ▼鬼怒
 川温泉 驛附近、今市驛から自動車もある。一
 名下瀧温泉ともいふ。鬼怒川溪谷中最も形勝の
 地を占め、春は野州花(つゝじに似た花)秋は紅
 葉が美しい。湯は火傷、切傷、打撲傷などによい。
 旅館 麻屋、大瀧館、鬼怒川館、星野屋。新藤原
 (しんふぢはら) ▼川治温泉 西北八軒馬車
 がある、河畔の岩角を抉つて浴槽が出来て居り、

原始的の温泉である。創傷と眼疾とに效がある。
 こゝから高原山を越えて鹽原の新湯へ一四軒、
 また會津若松へ出るには會津裏街道を経て四日
 位を要する。また鬼怒川上流に溯れば二八軒に、
 川俣温泉、別に男鹿川の支流湯西川を溯れば二
 二軒にして湯西川温泉がある。

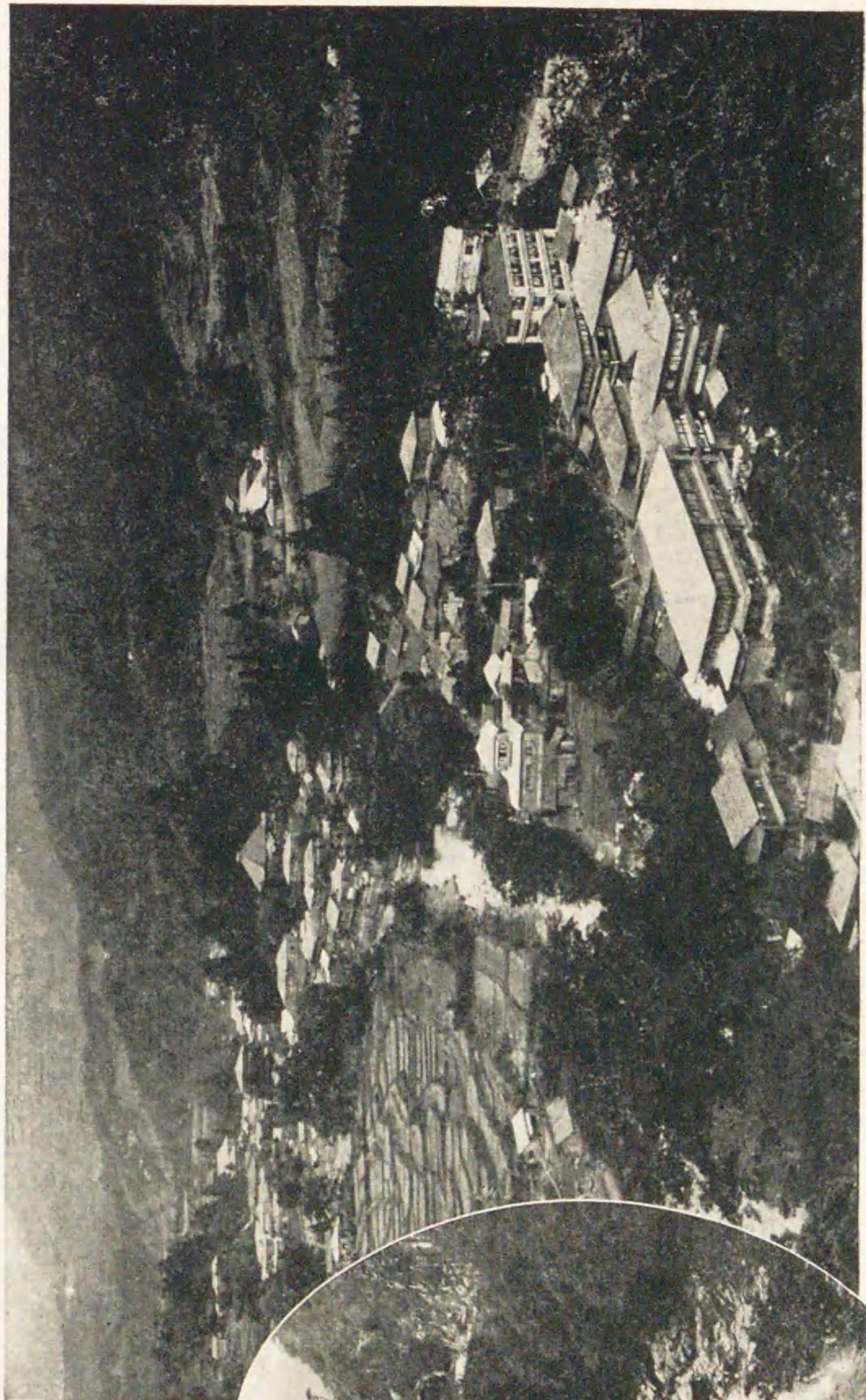
日光 (につくわう) 四〇軒五 この線の終
 端驛で東京淺草を起點とする東武鐵道日光線及中
 禪寺口まで九軒七を走る日光電氣軌道の接續點で
 ある。神橋まで電車十錢、自動車二十錢、中禪寺
 口まで電車三十錢、自動車五十錢、神橋から東照
 宮まで約六〇〇米、東照宮拜觀料一圓、案内料六
 十錢、日光廟及霧降瀧廻遊、日光廟から裏見瀧、
 清瀧、中禪寺廻遊の自動車がある。
 日光の一區は本邦山水美のあつまるところ、峯



陽明門

中禪寺湖と華嚴瀧

鹽原温泉畑下戸門前附近



洞見兒維

巒あり、瀑布あり、湖水あり、溪流あり、叢原あり、温泉あり、これに加ふるにその多くは國寶に指定されたる殿堂樓閣の美があり、自然の秀麗、人工の精華、相俟つて雙美の名を獨占してゐる。鹿沼附近から日光街道の左右には長大なる杉並木が亭々として美觀を呈してゐる。この杉並木は松平正綱の寄進にかゝり、約二十餘年間の苦心經營になるものでその數約一萬八千本といはれ、樹齡三百年に近く、日光今市間は特に趣がありここを自動車によれば壯快この上ないものがある。日光驛に下車して、一路鉢石町通を過ぎれば大谷川の急湍があり、左に神橋を望む、神橋の手前左側に板垣退助の銅像がある。維新の際東照宮を以て兵火を免れしめた功績を記念するため昭和四年十一月有志によつて建設されたものである。橋

東北線

を渡つて右へ坂を登り
輪王寺 境内に入れば三佛堂がある。輪王寺の本堂で、九間六面の建築である。傍の相輪櫓は青銅製で高さ一七米五。寺を出て老杉の間を行けば石の鳥居が高く眼前に聳えて、その前に五重の塔がある。
門を入つて三神庫、水屋を過ぎれば金碧を盡した陽明門がある。こゝから
別格官營社東照宮 で徳川家康を祀る。初め二代將軍秀忠が造營した靈廟を三代將軍家光が寛永十一年十一月から同十三年四月(約三〇〇年前)までに改築したもので高良豐後守宗冬かみらふんごのかみむねふゆの設計に成るものである。
陽明門 は日光東照宮諸建築中最も華麗を盡したもので一名日暮門ともいふ。入母屋造で四方に軒

唐破風を附けた樓門、柱は皆樺の白木の圓柱、天井には狩野安信筆昇龍八方睨み狩野探幽守信筆の降龍四方睨みの畫がある。陽明門を距ること十數米で

唐門がある。四方唐破風造で、正面破風上の屋棟に青銅で製した猿といふ蟲の形が裝置してある。門の左右一道の瑞籬があり、長く本殿及拜殿を圍み、鍍金を以て疊んで五級の殿階直ちに拜殿に通じてゐる。

拜殿はその結構更に壯麗、黒蠟色の高欄及濱縁、惣金だゝみの殿内の柱、高彫金で彩色した承塵、唐草の蒔繪を描いた唐戸、折揚二重に重ねた格天井、その内に描いた紺青色の丸龍、承塵の上に掲げた土佐光信の三十六歌仙の額、探幽の筆に成つた竹に麒麟、牡丹に獅子の襖、拜殿と石ノ間

過ぎれば慈眼堂がある。天海僧正の墓で、近年その近くに北白川宮の廟が築造せられた。

大猷院は三代將軍家光の遺骨を葬つたところで東照宮と共にその殿堂の美を以て聞えてゐる。常行、法華二堂を西に距ること數十米、二王門を入つて御手洗屋を過ぎれば、石階の上に二天門が聳えてゐる。丹堊にして處々に黄金を鏤めてある。鼓樓、鐘樓を過ぎれば、夜叉門、丹堊黄金を以てこれを飾り、左右の廻廊甚だ美麗である。唐門はその構造東照宮と均しく、鏤刻の精あり、彩畫の妙あり、瑞籬の拜殿を圍繞する黒蠟色の殿階を設けてあるなど、皆東照宮と同じである。拜殿は東方に面し、柱は皆白地で縁に黄金を鏤めてある。正面扉内には家光の木像を安んじ格天井は蠟色、格子の内は百間百色、紺地に金の

に界した堆黒の卷柱など、その美の極みを盡してゐる。

唐門を出て左すれば奥ノ院の入口に猫門がありその上に刻める眠猫は左甚五郎の作と傳へられてゐる。それから約一五〇米ばかりの石階を登れば東照宮の奥社がある。寶塔はその拜殿の正面にあつて、家康の靈は永へにこゝに眠つてゐるのである。東照宮の表門を出て西に一〇〇米ばかり行くと、

國幣中社二荒山神社がある、大己貴命を祀る。

社は一千年の古社である。本殿、拜殿共に總朱塗、兩妻千鳥破風、二軒繁樑である。境内にある唐銅燈籠は世に名高い化燈籠で今國寶になつてゐる。社前の石階を下れば常行堂、法華堂が相並んで立つてゐる。二堂の門から更に古杉鬱鬱たる間を

蟠龍を彫刻し、承塵は花鳥を刻して金の彩色を施してある。正面の破目には金地に獅子を畫き、筆頭には二十四箇の鍍金の釣燈をかゝげてある。こゝに金色燦爛として殆んど人目を眩するばかりなのは、中央にかゝげられた金製の天蓋で、その下に金梨地の高机及三具足の善美を盡したものが据ゑてある。本殿は佛殿造二重屋根で、その周圍は朱塗の欄と黒塗の縁を遶らしてある。唐門を出て更に右の瑞籬を遶れば、龍宮に擬した皇嘉門があり、これから奥ノ院に行くのである。

日光廟の拜觀がすんだら寶物館を見るのが順序である。同館は三百年祭記念に建築したもので從來日光廟各處に散在してゐた寶物を一堂に蒐めてある。この見物を終へたなら足を瀧廻りに向けるがよい。

日光諸瀑

霧降、含滿、裏見、方等、般若、華嚴、布引、白絲、相生などいはゆる日光七十二瀑といつて多數の瀑が懸つてゐる。中にも偉觀なのは華嚴(日本八景の一)である。瀑は大谷川の源で、中禪寺湖水の決するところ直下約一〇〇米、之を観るには瀧見茶屋又は五郎兵衛茶屋からするがよい。殊に後者は下方から仰ぎ観るので極めて壯觀である。

霧降は日光神橋から東北約六軒自動車が行く。裏見、方等、般若、華嚴など何れも日光から中禪寺湖に到る道の附近にある。

旅館 小西、神山、神橋館、古橋、上州屋、中野屋、金谷ホテル(洋式、スケートリンクがある)。名物 漆器、羊羹、挽物細工、唐辛。

中禪寺湖 は中禪寺口(馬返し)から中禪寺まで

三、四時間で登れる。山頂からは白根山を始め奥日光及奥上州の重疊たる山峯、脚下に中禪寺湖を俯瞰し、遠く富士、秩父、關東平野などの眺望が勝れてゐる。毎年夏季の登山者多く、殊に八月一日から一週間の間は山開きといつて萬を數へる行者が絡繹として續く。

▼戰場ヶ原、湯ノ湖 中禪寺湖の北岸に沿うて四軒行けば菖蒲ヶ原で、こゝから地獄川を渡り龍頭瀧を過ぎれば戰場ヶ原に出る。附近一帯花菖蒲とあやめとが大群落を成して美しい。白樺の疎林を行詰めたところに湯瀧があり、急坂を登れば湯ノ湖の風光が眼前に展開する。湯ノ湖は温泉嶽、白根山を背にして幽邃の地を占め、水位海拔一、四七八米である。

▼湯元温泉 中禪寺湖から一二軒、自動車がある。

八軒半餘、自動車一圓五十錢、華嚴からは約一軒半、男體山の麓にあり、幸ノ湖ともいふ。湖は東西八軒、南北三軒三、中央に上野島がある。湖水の周遊にはモーターボートの便がある。湖水からは養鱒の漁獲が多い。

湖畔には紅櫻多く、五月中旬に花を開く、秋は紅葉が美しい。湖畔には中宮祠があり、日光二荒山神社の別宮で勝道上人の勸請と傳へられてゐる。湖の東岸に中禪寺がある。勝道上人の創建と傳へ、桂の立木を以て造られたといふ立木觀音(千手觀音像)は國寶に指定され、その他斧、銅鏡、錫杖などの國寶を藏してゐる。

旅館 レーキサイドホテル、蔦屋、米屋、和泉屋
男體山 中宮祠背から登る路がある。頂上まで約八軒。海拔二、四八四米。日光山臺の主峯で、約

温泉は湯ノ畔湖にあり、リウマチス、皮膚病、花柳病などによい。地は海拔一、五五〇米、白根山、温泉嶽、三嶽を繞らし、南の一方が開けて湯ノ湖に面し男體山を望む閑寂の境である。

旅館 南間、板屋、渡邊。
日光山地の旅 温泉から金田峠を越えて川俣温泉や鬼怒川奥の溪谷、または鬼怒沼山、尾瀬沼方面への山旅は太古の様な森林や原始的な景觀が味へる。また金精峠を越えて上州に下り、菅、丸、大尻の三湖を探り白根温泉を経て上越南線沼田に出るのは紅葉期に特に興が多く、丸沼から沼田までは自動車の便があり、途中には老神温泉がある。尙中禪寺湖畔から足尾へは約一六軒、主に下り坂である。

白根山 湯元温泉から西へ前白根山を経て約八軒

で山頂に達する。山は栃木、群馬の二縣に跨り男體山と共に關東の雄峯で海拔二、五七七米。登路は湯元方面からと上州片品方面からの二途あるが主に湯元から登る。山腹には白根葵、白根人參など特有の高山植物がある。頂上には白根山神社の小祠がある。山頂の眺望は雄大で、東に中禪寺湖を見下し、その北に男體山の全容が聳え、戰場ヶ原を隔て、大眞名子、小眞名子、太郎山、温泉嶽の連山が見え、北は金精峠から鬼怒沼山、帝釋山、田代山、尾瀬沼及奥上州の諸山、西は武尊山を間近に、遠く上越國境の連峯、南に富士、秩父を望んで、關東平野が東南に涯なく廣がつてゐる。

寶積寺 (はうしゃくじ)

烏山線分岐點。鬼怒川の沿岸にあり、小兒の家傳藥として古くから世に聞えた宇津救命丸製造所は南四軒。

烏山線

寶積寺から烏山に至る短距離支線である。

烏山 (からすやま) もと大久保氏三萬石の城下那珂川に臨み、風光がよい。附近は煙草の栽培が盛んでその集散地をなしてゐる。

旅館 久保田屋。

名物 鮎。

矢板 (やいた) ▼縣社木幡神社 南四軒餘、

途中まで自動車が行く、室町時代の建築で、本殿及樓門は國寶である。

西那須野 (にしなすの) 東野鐵道、鹽原電軌の

接續點。

東野鐵道 西那須野、那須小川間二四軒五。

大田原 (おほたはら) もと大田原氏一萬一千

石の城下。▼縣社乃木神社 二軒、別に西那須野

から自動車もある十錢。金丸原 (かなまるはら)

▼金丸原練兵場 半軒。黒羽 (くろばね) も

と大關氏一萬八千石の城下。▼雲巖寺(臨濟宗)

東約一二軒自動車がある。後嵯峨天皇の皇子佛國

國師の開山。佛國國師像佛應禪師像の二幅は國寶

湯津上 (ゆづがみ) ▼那須國造碑 南約二軒、

本邦最古の有文碑で陸前多賀城の碑、上野多胡の

碑と共に日本三古碑の稱があり、國寶。上部に笠

石を置くので俗に笠石ともいふ。附近に侍塚の

古墳がある。

鹽原電氣軌道 西那須野、鹽原口間一四軒四。

沿線には三島驛に櫻の名所烏ヶ森公園、鹽原開發の恩人三島通庸を祀る三島神社。千本松驛に松方農場などがあり、約五十分で終點鹽原温泉の門戸

鹽原口に著く。

鹽原温泉 大網、福渡戸、鹽釜、鹽ノ湯、畑下戸

門前、須卷、古町、新湯、元湯、袖ヶ澤のいはゆる

鹽原十一湯をいふ。何れも箒川の清流に枕み景勝の

地を占め、特に春は野州花、秋は紅葉の美を以て知

られてゐる。鹽原口から大網、福渡戸、鹽釜、畑下

戸、門前を経て古町まで自動車があり、別に驛前から古町まで直通の自動車もある。湯はリウマチス、

婦人病、胃腸病などによい。

▼大網 鹽原口から二軒餘、箒川溪谷の岩石の間から湧き、石間、河原の二湯がある。石間の湯は皮膚

病、花柳病などによい。旅館 佐藤。▼福渡戸 大

網から約三軒、鹽原温泉の中心地、人家は箒川に沿

うて街をなしてゐる。鹽釜への途中には直立一〇〇

米の天狗巖や三島通庸の道路開鑿記念碑などがある

旅館 満壽屋、磯屋、松屋、和泉屋、叶屋。▼鹽釜 福渡戸から約一軒、白倉山の麓、湯は箒川の兩岸から湧く、附近に高尾塚、蓬萊山などがある。旅館、橋本屋。▼鹽ノ湯 鹽釜から一軒半、鹿股川に沿うて最も幽邃なところ、紅葉の美が勝れてゐる。旅館 玉屋、明賀屋、柏屋。▼袖ヶ澤 鹽釜、畑下戸間を左へ遊園橋を渡つて約一軒、大浴槽萬人風呂がある。旅館霞上館。▼畑下戸 鹽釜から三〇〇米餘、箒川に臨む低地で還境がよい。附近に普門淵がある。旅館清琴樓、紙屋、大和屋。▼門前 畑下戸から八〇〇米餘、古町と相連り鹽原物資の集散地、小松内府重盛の姨妙雲尼の開基と稱する妙雲寺(臨濟宗)があり、堂後にその墓がある。門前の名は妙雲寺の門前にあるためである。旅館宮田屋、福田屋、坂本屋。▼須卷 畑下戸、門前から約九〇〇米、袖ヶ澤から

山路三〇〇米餘、こゝには湯瀧と名物の團子があるので知られてゐる。旅館須卷館。▼古町 蓬萊橋を隔て、門前に續いてゐる。附近に八幡神社、逆杉などがある。旅館中會津屋、楓川樓、米屋、上會津屋。▼新湯 古町から西南二軒、皮膚病、神経諸病、リウマチスなどによい。こゝから高原山の裾を廻つて川治温泉まで一四軒、旅館下藤屋、大黒屋、上藤屋、君島屋。▼元湯 古町から西八軒、新湯からは山路約三軒三、赤川畔にある紅葉の勝地、胃腸病、呼吸器病などによい。旅館湯本館、元泉館、恵比壽館。以上十一湯の附近には名勝舊跡多く、詳しく巡遊するには三日を要する。健脚の人は更に山越しで、那須温泉に浸るのも面白いし、新湯または元湯から山路一六軒の高原山を越えて川治温泉または鬼怒川温泉に廻り、今市に出て日光の勝を探つて歸るのも

興がある。鹽原、日光間には一日二回の定期自動車があり、三圓五十錢。

黒磯 (くろいそ)

那須温泉 湯本、北、辨天、大丸、三斗小屋、高雄股、板室の那須七湯を指すもので、古來有名な温泉場である。近年八幡、旭、新那須、飯盛などの諸温泉も新しく開かれ那須十一湯と稱するに至つた。那須野の展望、春のつゝじ、秋の紅葉、那須餘一や殺生石に關する古蹟など人の心を惹く。驛前から自動車は新那須を経て湯本まで一圓三十錢、別路板室へも行く、一圓五十錢。

▼新那須 西北一六軒餘、湯は大丸から引いたもので胃腸病によい。旅館山樂、靜觀樓。▼湯本 西北一七軒、那須温泉の中心地で、物資の集散地である。花柳病、皮膚病、腦病などによい、附近には日蓮上

人の遺蹟喰初庵、東公園、「飛ぶものは雲ばかりなり石の上」(芭蕉)の殺生石などがある。旅館小松屋、松川屋、常磐屋、立花屋、清水屋。▼八幡 湯本から二軒、那須高原の展望第一の地、旅館五十嵐。▼北 湯本から北四軒半、紅葉の大觀は那須第一、胃腸病、婦人病、眼病などによい。旅館旭屋。▼旭 八幡から二軒、北への途中から左折する。▼辨天 湯本から西北三軒三、旭からは約八〇〇米、胃腸病によい、旅館小林。▼大丸 湯本から西北四軒、辨天から約六〇〇米、胃腸病によい。旅館大丸屋。▼三斗小屋 湯本から西北一二軒、那須温泉中の最高地、牛の背によつても米三斗以上の重量品を運搬することの出來ぬといふところ、花柳病によい。旅館大黒屋、煙草屋。▼高雄股 湯本から西北二軒、皮膚病、腦病などによい。近くに紅葉瀧の勝がある。旅館葭屋。

▼板室 驛の西北二〇軒半、自動車の便がある。湯川の溪流に沿ひ秋は紅葉がよい。温度は低いがリウマチス、神経諸病、中風などによい。旅館大黒屋、加登屋、一井屋。▼那須岳登山 湯本から頂上まで約六軒、茶臼岳、南月山、黒尾谷岳、朝日岳、三本槍岳の火山群を那須の五岳と稱し、茶臼岳(一、九一七米)の別稱を那須岳ともいつてゐる。湯本から北に出て殺生石の傍から岩塊多い坂路を登る。山頂からは吾妻山、磐梯山、帝釋山脈の諸峯から高原山、日光群山を見渡される。

▼高館山 東九軒、那須氏の城址で那須野ヶ原を見晴す展望が広い。

田植歌

那須餘一は三國一の男美男で旗頭

白河 (しらかは) 一八四軒六 白棚鐵道接続

點、白河、磐城棚倉間二三軒三。白河は奥羽の咽喉を扼し、阿武隈川に臨み、古來馬市場として名高く樂翁松平定信の嘗て藩主であつたところ、城址小峰城は町の北端にあり、戊辰の役には會津兵がこゝに據つたところである。人口二萬、福島縣南部の物資集散地で製絲、釀酒などが盛んである。

旅館 榊屋、勇屋、中村屋、階樂園、白河ホテル、角金。名物 翁餅、南湖餅、南湖豆、紅葉羊羹。

白河關址 西約一〇軒、白棚鐵道古關驛の西南七軒、奥羽三關の一で、阿武隈川の支流白川の谷頭にあり、松平定信の建てた「古關蹟」と題する碑がある。「都をは霞と共に立ちしかど秋風ぞ吹く白河の關」の古歌によつて今昔の感が深い。關址に白河神社があり、附近からは石器時代の遺物を發見する。

▼南湖公園 東南約三軒、白棚鐵道南湖驛前、樂翁

公が衆人偕樂の爲に築いたもので指定の史蹟である。湖畔に樂翁を祀つた縣社南湖神社がある。湖を廻つて十九景があり、春花秋葉の美がある、▼友月山公園 南約一軒、小丘陵で櫻樹が多く、展望が広い。

▼甲子温泉 西二四軒、自動車は四軒手前の馬立まで通じてゐる、一圓九十錢。温泉は阿武隈川の上流甲子山の麓にあり、胃腸病、神経諸病によい。附近には八十八瀧の勝があり、秋季紅葉の美も知られてゐる。旅館 甲子旅館。▼母畑鑛泉 東二七軒、須賀川驛からは東南二四軒、共に自動車がある。リウマチス、皮膚病、婦人病、創傷などによい。旅館元湯八幡屋、下之湯、主として自炊制である。▼棚倉 もと阿部氏六萬石の城下で白棚鐵道が通じてゐる。棚倉驛の南約七〇〇米の城址はもと丹羽長

重の築いたもので龜ヶ城公園となつてゐる。公園の北數百米には國幣中社都々古別神社があり、味耜高彥根命を祀る。又棚倉驛から南五軒餘には磐城國一ノ宮國幣中社都々古別神社がある。自動車は神社の側を過ぎ水郡線の常陸大子驛に通ずる。旅館 龜文館、吉田屋。

須賀川 (すかがは) 地方物資の集散地で、煙草清酒、生絲の産がある。人口一萬七千。

▼牡丹園 東約三軒三、株數千五百に及び中には二百年以上の古木もある。▼岩瀬森 東半軒餘、古來歌の名所。▼亞歐堂田善の墓 南約半軒、長祿寺境内にある。田善は文政年間(約一〇五年前)に銅版術を盛んにした。▼縣社榊衝神社 西約一四軒、自動車の便がある。龜井山々腹にあり、武甕槌命を祀る。名物生柿(蜂屋柿といふ) 東京、名古屋、大阪、

北海道方面に送出され形が大きくて一箇三七五瓦に達するものがある。尙麵類も好評がある。

笹川 (さゝかは) 水郡北線分岐點。

水郡北線

笹川から谷田川まで通じてゐる。將來は常磐線水戸から岐れて北進しつゝある水郡南線と合する豫定である。

谷田川 (やだがは) ▼宇津城址 二軒二、吉

野朝の史蹟。

郡山 (こほりやま) 二二三軒 磐越東線、磐越西線の分岐點。市内商業股賑を極め、附近は養蠶業が盛んで、片倉組、小口組、橋本、鈴木の各製絲場日東第一、第二絹絲紡績、名古屋綿絲工場、地方



專賣局、日本化學會社、東洋曹達會社、鐵道工場などがある。福島縣下第一の商工業地で人口四萬八千、附近に安積開墾地がある。昔から不毛の地とされてゐたのを明治十二年猪苗代湖からの疏水工事を起し原野を開墾したもので現在ではこの地方の産米を安積米と稱し中央市場に於ても認められてゐる。▼麓山公園 西一軒餘、もと二本松藩主が遊樂の苑地。▼開盛山公園 西三軒二自動車三十錢。園内に上池、開盛池があり、その周圍に櫻樹が多く、東北における櫻の名所で花期は四月中旬から下旬まで、池畔に縣社開盛山大神宮がある。社前の池を繞つて競馬場があり、四月下旬に開催される。旅館 太田屋本支店、和久屋、木村屋本店、布袋館、

旭館。

名物 安積豆、薄皮鰻頭。

本宮 (もとみや) ▼蛇ノ鼻公園 西二軒、櫻

及牡丹の名所。名物 生柿。

二本松 (にほんまつ) もと丹羽氏十萬石の城下

戊辰の役の激戦地。旅館大宗、扇屋。▼二本松城址

西約一軒、石垣が整然と残つてゐる。寛永年間より

丹羽氏の居城であつた。▼安達ヶ原黒塚 東約二軒

自動車二十錢。安達驛からは東南一軒半、阿武隈川の

東岸、杉の大木の下にある丸塚が傳説の黒塚である。

▼嶽温泉 西六軒、自動車八十錢。安達太良山の

腹にある温泉で皮膚病、リウマチス、婦人病によい。

旅館 佐藤屋、安達屋。

▼安達太良山・海拔一、七〇〇米の火山で、温泉から頂上まで八軒登山は平易である。

名物 生柿。

松川 (まつかは) 川俣線分岐點。同線は岩代

川俣まで一二軒二の間開通してゐる。川俣は輸出羽

二重の産地として古い歴史をもち、特にその薄絹は

米國、英國、印度などに送られてゐる、年産額五百

五十萬圓。

旅館 川俣ホテル、岩代屋。

▼土湯温泉 西一四軒自動車往復二圓(往一圓二十

錢復八十錢)(金谷川驛参照)

金谷川 (かなやがは) ▼土湯温泉 西約一二軒

自動車の便がある。福島からは西南一八軒。吾妻火

山の麓にある、海拔四三五米、荒川の溪流に臨んでゐ

る。湯は上ノ湯、中ノ湯、不動ノ湯、下ノ湯などに

分れ婦人病、皮膚病、打撲傷、腦病などによい。附

近の榎ノ森に登れば福島盆地一帯から吾妻富士、一

切經山さいきやうやまから藏王嶽ざおうだけまで見渡され展望雄大である。旅館 木村屋、富士屋、蔦屋、井桁屋、扇屋。

福島ふくしま（ふくしま） 二六九軒二 奥羽線分岐點

福島電鐵接續點。福島電鐵は東と西に分れ、東は福

島飯坂間、伊達梁川間、保原掛

田間、西は福島飯坂温泉間に通

じてゐる。上野から普通七時間

半、急行六時間、もと板倉氏二

萬八千石の城下で阿武隈川あぶくまの左

岸を占め人口四萬五千、生絲、絹織物、繭、真綿の

取引が盛んで、羽二重會社、山十組製絲場、日本絹

撚會社、日東及鐘淵紡績工場などがあり、また福島

高等商業學校もある。市の大體を見るには驛から北

一軒半の信夫山しのぶやまに登るがよい。▼信夫山 北一軒半

山は海拔二五七米、石英粗面岩から成り、巨然とし



て平野の中に聳え、山上から福島の市街を見下すこ
とが出来る。中腹に信夫山公園がある。

▼文字摺石あじざりいし 東北六軒、福島電鐵岩谷觀音いはや前の東約

二軒半、觀音寺境内にある。石上に草花を載せ布を

打つて模様を造つたともいひ、麥の青葉で石面を摺

ると相思の人の面影が見られるとも傳へられる。河

原左大臣の「みちのくのしのぶ文字摺誰ゆゑに亂れそめにしわれ

ならなくに」の詠がある。今、後山を開いて公園とし

てゐる。▼大森城址おほもりじやうし 西南四軒、天文年間（三八〇

年前）伊達種宗だてたねむねの築いたもので、今は公園となつて

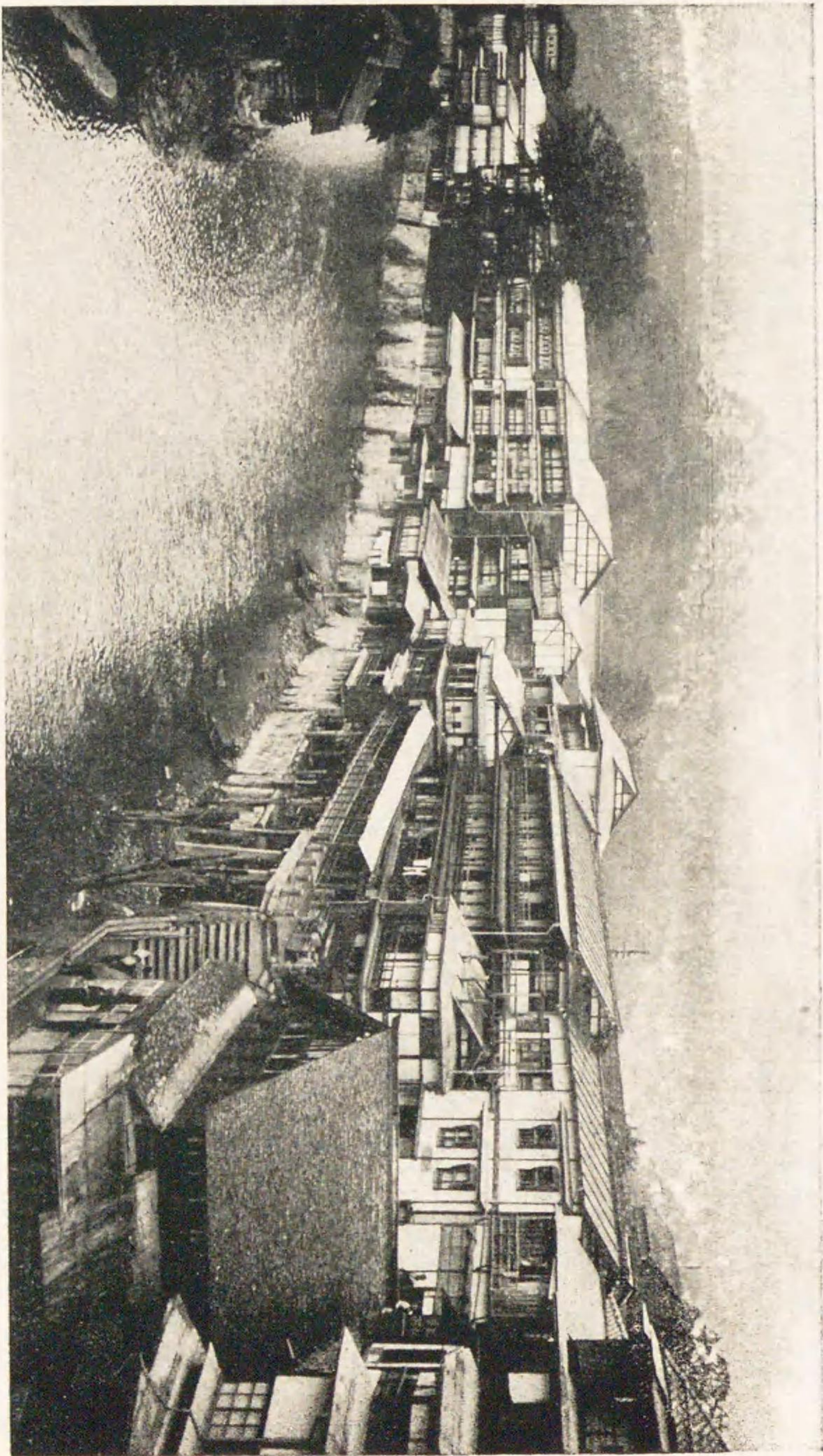
ゐる。

旅館 松葉館、福島ホテル、藤金、福島館、辰巳屋、

平松館。

飯坂及湯野温泉 北約一軒、電車及自動車の便

がある。電車二十六錢自動車五十錢。昔から著名な



飯坂温泉泉

磐梯山と猪苗代湖



温泉郷で遊樂郷としても知られてゐる。飯坂と湯野とは摺上川を隔て、相對し旅館は軒を列ねて河畔の斷崖に沿うて浴室を設け、その構造が變つて居り、燈火が水に映つてゆらぐ風情がよく、特に十綱橋からの眺めがよい。赤川の溪流摺上川に注ぐ邊にも温泉の湧出が多い。そこから更に數軒、摺上川の上流には天王寺温泉と穴原温泉とが相對して泉郷の奥をなしてゐる。附近には古の佐藤庄司の鵬城址、佐藤氏の菩提寺で繼信、忠信などの墓がある醫王寺、湯野の愛宕山公園、東公園、天王寺公園、赤川の千人風呂などがある。

旅館 (飯坂) 花水館、角屋、柵屋、赤川筋に赤川屋、泉州閣、金瀧、飯坂ホテル。(湯野) 龜屋、稻荷屋、佐藤屋、泉屋。(天王寺) 立花屋。(穴風) 泉屋、吉川屋。

東北線

▼公認競馬場 東北約三軒、電車六錢自動車三十錢、毎年六月と九月に競馬が行はれる、東京方面から來る人が多い。

名物 梨、櫻桃、柿、文字摺、陸奥の梅、さくらんぼ羊羹。

福島縣廳は福島市にあつて、岩代國及磐城國の大部を管轄してゐる。縣の東部には阿武隈山脈あり、中部には吾妻山、磐梯山の活火山聳え、阿武隈川この兩山脈の間を流るゝあり、川の沿岸平野は養蠶、牧馬が盛んである。郡山、二本松地方は製絲業盛んに、又品質優秀の柿を産する。福島は繭、生絲の市場である。又福島地方に産する柿及櫻桃は全國的に好評を博してゐる。福島島の東南川俣は盛んに羽二重を産し、わが國主産地の一として知られてゐる。白河、三春は馬

市を以て名高い。久田野、須賀川附近から出る石材は加工に容易で耐火、耐寒性に富み建築材に適する。阿武隈山脈の東麓地方からは多く石炭を産し、平はその中心地である。縣の西半は山嶽多く、その中央に會津盆地あり、若松市その主邑をなし、漆器の産がある。

瀨ノ上 (せのうへ) 附近は櫻桃の産地。

伊達 (だて) 福島電鐵接續點。同線は一方は飯坂、他は梁川、保原、掛田及福島へも通じてゐる。驛附近からは精米用の白土が出る。▼飯坂及湯野温泉 西約三軒、電車十四錢及自動車三十錢。(福島驛参照) ▼別格官幣社靈山神社 東北一二軒、掛田まで電車の便あり、更に徒歩東北約四軒自動車がある。尙驛から自動車賃切五圓、北畠顯家父子その他を合祀してある。

靈山は社の東方にあり、頂上からは太平洋の煙波が見られる。

白石 (しろいし) もと片倉氏の城下で、驛の西約一軒に城址がある。戊辰の役には奥羽二十餘藩はこゝに盟約を結んだのである。旅館岡崎ホテル。名物饅頭(年産額七十萬圓)。▼鎌先温泉 西北八軒餘、自動車五十錢。神経痛、創傷などによい。旅館一條、木村屋、最上屋。▼小原温泉 西南約九軒、自動車五十錢。神経諸病、婦人病、眼病などによい。その西八軒、白石川の岸に村木岩の勝がある。旅館 枕流閣、桂屋。

遠刈田温泉から青根温泉へ 遠刈田温泉は驛の西北約二二軒、自動車一圓二十錢。大河原驛からは西北二一軒、仙南温泉軌道(一圓)の便がある。別に自動車があり一圓二十錢。不忘山の中腹にあり、神経

諸病、リウマチス、胃腸病などによい。ラヂウム含有量東北温泉中第一の稱がある。

旅館 我妻、遠藤、大沼、大源、いろは、大忠、三浦、大宮。
名物 小芥子這子

青根温泉は遠刈田から西北五軒、自動車六十錢、白石からは二八軒自動車一圓八十錢。(遠刈田乗換) 藏王山の一峯、名號山の山腹にあり、自動車の便がある。海拔約五〇〇米の高燥の地を占め、金華山、松島、太平洋まで展望する景勝の地である。神経諸病、胃腸病、婦人病などによい。

旅館 佐藤、丹野、名號館、不忘館。
峨々温泉は青根から二軒、海拔約八〇〇米の高處にあり、冬はこゝを根據とする藏王山腹の廣大なるスキー場があり、隨所に好斜面多く、雪質もよく、

樹水の美觀もあり、東北有数のスキー場である。旅館 竹内。

青根温泉から最上高湯へ 一夜を青根に明し、翌日藏王山を越えて最上高湯に出る山旅も健脚家には面白い。藏王山は東北の名山で海拔一、八四一米、山頂は刈田嶽、熊野嶽を最高として群峯をなし、火口湖の御釜があり、高山植物も多く、吾妻、朝日、月山などの眺望がよい。青根から行程二四軒、不案内者は注意して歩まねばならぬ。高湯から奥羽本線金井驛まで約一〇軒、自動車の便があり、山形へも自動車を通ふ。

大河原 (おほかはら) 仙南温泉軌道(大河原、遠刈田間二六軒七)接續點。▼郷社大高山神社 西約四軒、自動車の便がある。日本武尊及橘豊日尊を祀る。この地方白鷺を崇拜する風があり、白鷺の繪馬

が眼を惹く。

船岡 (ふなをか) ▼四保山 西六〇〇米、山腹平坦の地は柴田氏二百年居城の跡で原田甲斐の舊地である。

槻木 (つきのき) ▼富澤磨崖佛 北約三軒、丘陵岩壁に阿彌陀如來の坐像を半肉彫にしたものがある。▼高藏寺(新義眞言宗)角田町の東北一二軒、阿彌陀堂及阿彌陀佛は國寶である。

岩沼 (いはぬま) 三三〇軒九 常磐線分岐點 ▼竹駒神社 東南約一軒、奥羽に於ける名社でもとは武隈大明神と稱され社殿宏麗である。毎年舊二月の初午祭が賑かで、古來馬市を開く。

増田 (ますだ) 増東軌道接續點。▼實方中將の墓 西四軒。

長町 (ながまち) 秋保電氣軌道接續點。▼秋

保温泉 西南一六軒、秋保軌道湯本停留所の西南約一軒、名取川の岸にある。古來有名な温泉で胃病、脚氣に效がある。旅館 佐藤、岩沼屋、水戸屋。

岩沼から長町まで及岩切驛附近は白菜の産地。仙臺 (せんたい) 三四八軒五 仙山東線分岐點、宮城電鐵接續點。上野から普通十一時間、急行八時間。宮城電鐵は榴ヶ岡、宮城野原、多賀城址、鹽釜などを経て松島公園、新富山、富山(松島灣展望臺)を経て石巻まで開通してゐる五〇軒五。

仙臺市はもと伊達氏六十萬石の城下で、人口十七萬一千、北東第一の都會である。四周に鬱蒼たる樹林を控へ森の都とさへ呼ばれる。教育地及兵營地として知られ、東北帝國大學理學部、法文學部、工學部、高等工業學校、高等學校、放送局、第二師團司令部、

令部、鐵道局、遞信局などがある。

遊覽地 小廻りは大學、高等學校、瑞鳳殿、青葉城址、林子平の墓、大學病院、青葉神社、支倉六右衛門の墓、縣廳、物産陳列館、櫻ヶ岡公園、政岡の墓を廻る貸切自動車があり約二時間、五人乗四圓。

大廻りは物産陳列館、縣廳、市役所、支倉六右衛門の墓、青葉神社、林子平の墓、大學病院、大崎八幡宮、青葉城址、公會堂、櫻ヶ岡公園、大學、瑞鳳殿、愛宕山、高尾の墓、谷風の墓、政岡の墓、藥師堂、榴ヶ岡公園を廻る貸切自動車あり、約三時間半、五人乗十圓。

上記の内その主なるものは ▼櫻ヶ岡 驛の西北二軒、廣瀬河畔にあり、西公園ともいふ。▼青葉城址 伊達政宗の築城で榴ヶ岡の對岸にあり、今第二師團司令部がある。その山上からは全市の大觀が得られる。▼瑞鳳殿 西南約三軒、伊達政宗の靈廟。

▼愛宕山 南約二軒半、全市を俯瞰するによい、市民の行樂地。▼青葉神社 北三軒半、政宗を祀る。

▼支倉六右衛門の墓 青葉神社の東隣の光明寺内にある。六右衛門は慶長十八年(三一〇年前)羅馬への使節として名高い。その西數百米には寛政三奇人の一人林子平の墓がある。▼大崎八幡宮 西北四軒

社殿の彫刻は左甚五郎の作と傳へられる。▼榴ヶ岡公園 東一軒半、枝垂櫻の老樹多く、花期は四月下旬、岡の下は宮城野である。▼政岡の墓 公園から數百米を隔てた孝勝寺の境内にある。

旅館 仙臺ホテル、針久本支店及別館、菊平、瀬戸勝、大泉、境屋、中村屋、奥田。

名物 埋木細工、堤人形、鯛味噌、九重(菓子)、鮪、八橋織、仙臺平、仙臺平は袴地として品位の高雅なものと地質の強いので好評があり、年産額四十八萬圓。

宮城縣廳は仙臺市にあつて、陸前國の大部及磐城國の一部を管轄する。縣の西境には奥羽山脈があり、藏王山、駒ヶ嶽が聳え、又東部には北上山脈が延びて牡鹿半島となつてゐる。東西兩山脈の間は平野が開けて北上川、阿武隈川の下流之を灌ぎ米の産出が多い。又東海岸一帶特に牡鹿半島附近は我國有數の漁場として知られ鯨も獲れる。

さんさ時雨 (陸前)

さんさ時雨か菅野の雨か

昔もせで来て濡れかゝるシヨウガイナ。

この家屋敷は目出度い座敷

鶴と龜が舞ひ遊ぶシヨウガイナ。

雉子のめん鳥小松の下で

つまを呼ぶ聲千代くミシヨウガイナ。

宮城音頭 (陸前)

わしが國さで見せたものは

むかし谷風、今伊達様様

ゆかしなつかし宮城野、信夫

うかれまいぞや松島ほこり。

千代萬、恵みつきせぬ日本の本

おほなもいつか五大洲の

陸奥の名所、千賀の浦、

神がきあふく鹽釜や

見わたす景色、千松島。

仙山東線

愛子 (あやし)

作竝温泉 西北約二〇軒、

自動車がある。胃腸病、リウマチス、婦人病など

によい。旅館 岩松、森谷。▼定義温泉 西北約

二〇軒、途中白澤(一〇軒)まで自動車がある。そ

こから駄馬又は徒歩。神經系諸病によい。旅館石

垣。▼定義如來 西一六軒、途中白澤(一〇軒)

まで自動車がある。平貞能、平家壇の浦に滅んだ

とき蓮絲蔓茶羅の靈軸を守護してこゝに遁れ如來

を安置して安德帝及平重盛の冥福を祈つたのに創

まるといひ、近郷の信仰厚く參詣者が多い。

岩切 (いはきり)

鹽釜線分岐點。▼多賀城址

と多賀城碑 東三軒餘、城址は聖武天皇の神龜元年

(約一、二〇〇年前)蝦夷征討のために築き、鎮府守

を置き陸奥國府をも併置せられた處、今史蹟に指定されてゐる。

碑は壺の碑ともいひ城址の南麓にあり、城門に建

てた里程表で京、蝦夷、常陸國界、下野國界、靺鞨

國からの里程が刻してある。

▼蒙古の碑 南三軒餘、碑は高さ約二米、元の歸化僧

祖元が弘安の役における元兵の靈を弔ふために建て

た弔魂碑であるといふ。

方言唄

奥州の仙臺名物、おらやんだ、そうずしや、そでがず、そで

かいんか、ホウカイ、ちよつこ、がいまつまたでよがんべち

や、いけすかねア、あねーやろ、はげーやろ。

しいたお方にさかじきさゝれ、はいこへんずもくつのうち。

鹽釜線

鹽釜（しほがま） 松島灣に面する仙臺の門港で、三陸沿岸に對する海上交通の起點。出入の船舶多く商況活潑である。特に鮮魚の市場として全國的に聞えてゐる。

▼國幣中社鹽釜神社 西一軒、一森山の老杉に圍まれ社殿壯麗、左宮に、武甕槌命、右宮に經津主命、志波彥神社に鹽土老翁大神を祀り兩社を併せて奥州一ノ宮、正一位鹽釜大明神と號する。航海及安産の神として一般の信仰があつた。
▼菖蒲田海水浴場 南約七軒。旅館 大東館、翠松館。旅館（鹽釜） 太田屋、鹽釜ホテル、海老屋。
名物 牡蠣（松島灣内で養殖するもので年産額七萬圓）、しほがま（菓子）。

鹽釜じんく（陸前）

鹽釜街道に白菊植ゑて

何をキク〜アリヤたより聞く

ハットセ〜。

千賀の浦風身にしみじみと

語り逢ふ夜のアリヤ友千鳥

ハットセ〜。

さあさヤツコラサト乗り出す船は

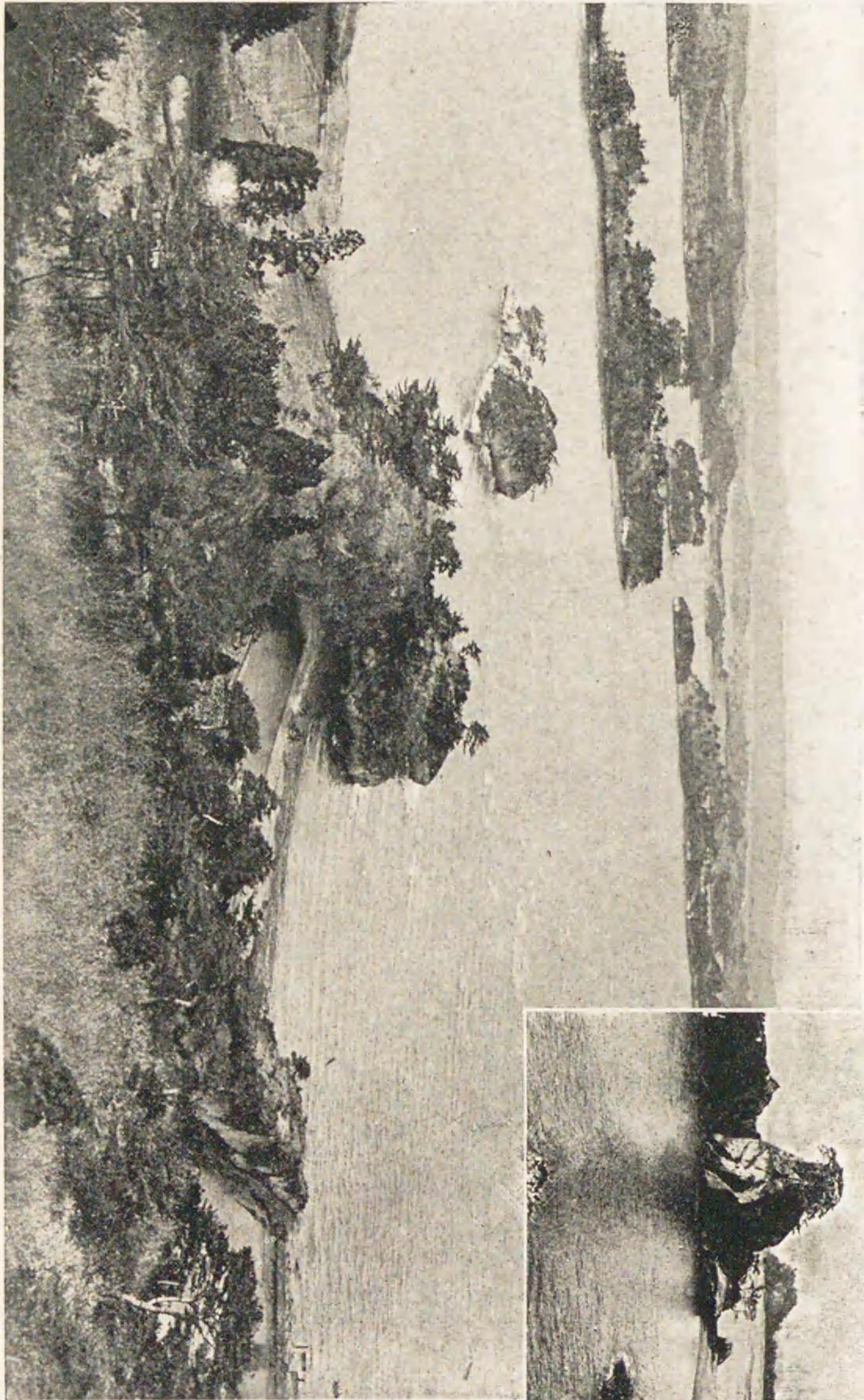
命帆をかけアリヤ涙まくら

ハットセ〜。

末の松山末かけまくも

神のはじめしアリヤ海のさち

ハットセ〜。



不老山

藏王スキー場の樹氷



松島めぐり

鹽釜から定期船並遊覧船が出る。又別に海岸に沿うて走る宮城電鐵もある。然し時間に餘裕のある人は遊覧船によつて島めぐりをするがよい、松島で見るべき主な處は

▼五大堂 坂上田村麿の創建、國寶に指定されてゐる、海岸に近い小島の上に立ち、古雅な建物がまはりの老松と共に波に映じて風致に富む。

▼瑞巖寺 臨濟宗の巨刹、伊達氏の菩提寺、主要の建造物は國寶になつてゐる。伊達政宗が甲冑を着けた木像がある。

▼觀瀾亭 伊達政宗が豊太閤から桃山城の一字であつたのを受けてこゝに移したもので、海岸の突端小丘の上にある眺めがよい。

▼雄島 海岸の小松崎から渡月橋によつて渡る。

東北線

小松崎に行く途中に宮城電鐵經營の遊園がある、島は灣内の展望によい。

▼新富山 海岸の背後にある丘、脚下には灣内一帯が盆石のやうに布置されてゐる。

▼大鷹森 灣内宮戸島にある丘、見下ろせば松島圖繪そのまゝの姿が展げ、東方遠く煙波の間に牡鹿半島と金華山とが浮ぶ。

▼桂島 灣内唯一の海水浴場、砂濱に立ち並ぶ松樹の風情もよい。

▼富山 宮城電鐵富山驛から約一軒、海拔一一七米、山上の大仰寺から松島の全景を見晴し後には富山觀音がある。島々の彼方には太平洋が茫洋とひろがつてゐる。

▼不老山 宮城電鐵野蒜驛から約三〇〇米、砂濱には奇趣に富む小丘が点在し勝れた景觀をもつ、附近

は好適な海水浴場。

金華山詣て

金華山は牡鹿半島の東側、茫洋とした蒼海に屹立し、海拔四四五米、麓から頂上へ約五軒、周圍約一五軒、全山花崗岩から成り、山形五峯を六十八區、溪谷四十八に分ける、千年の老木列び立ちその下を山鹿が群を爲し、その數約四百頭に及ぶといふ。眞に塵外の別境で、山腹に延喜式内の古社黄金山神社がある。

參詣路は鹽釜と石巻の二つがある。鹽釜から山西及三陸汽船の便があり賃一圓五十錢、別途石巻からは山西汽船の便によつて賃一圓五十錢、又鹽釜から金華山、石巻廻遊船賃二圓八十錢。信仰による參拜者は獻膳料を納めて社務所に泊り、お山廻りをするを例とする。社務所からお山の頂上大

海祇神社まで登路二軒、風光頗る雄大で、太平洋を瞰下するところを無双峯といふ。お山廻りに表廻りと裏廻りと二つあるが後者は健脚の人でない困難である。

尙女川港から參詣する船便もある。(石巻線石巻驛參照)

松島 (まつしま) ▼松島(鹽釜驛參照)

小牛田 (こぶた) 陸羽東線、石巻線分岐點。

上野から普通約十一時間半、急行約九時間。▼齋藤報恩農業館 北二軒、農業に關する陳列品がある。

▼山神社 西北一軒七、自動車二十錢、木花開耶姫を祀り安産の神として知られてゐる。

旅館 小牛田ホテル、旭館。

名物 子持饅頭。

瀨峯 (せみね) 仙北鐵道接續點。本石巻の主

産地。

仙北鐵道 瀨峰、築館間一二軒六、同登米間二

八軒六。

築館 (つきだて)

町は、一迫川の南邊にある小繁華地である。▼雙林寺藥師堂 西約一軒、本尊藥師佛と二天像とは鎌倉時代のもので、國寶になつてゐる。毎年舊正月、四月、九月の祭日は賑ふ。

登米 (とよま) 附近の物資集散地で、名産

にスレート瓦がある。▼柳津虚空藏 約四軒、本尊は行基の作、創建は聖武天皇の神龜三年(一、二〇〇年前)の創建で岩代の柳津及周防の柳井津と共に我國の三虚空藏と稱せられる。

石越 (いしこし) 栗原軌道接續點。この地方

で造る蚊帳は耐久力に富むので好評を博してゐる。

栗原鐵道 石越、岩ヶ崎間一八軒二。

岩ヶ崎 (いはがさき) ▼高田鑛山 驛の西南

一二軒。

一ノ關 (いちのせき) 四四一軒四 大船渡線分

岐點。もと田村氏二萬七千石の城下、古の磐井で、陸中の咽喉に當り歴史上有名な地である。▼蘭梅山公園 西北三軒、櫻の樹が多く山上は眺望がよい。

山腹に延喜式内配志和神社がある。

旅館 石橋ホテル、清水屋。

▼嚴美溪 西約九軒自動車がある。磐井川の上流で溪流美の勝れたところ、特に天工橋附近がよい。こゝから平泉の中尊寺まで約八軒自動車三十錢、旅館

熊清、千葉。▼酢川温泉 西四軒、途中嚴美溪の西方一二軒の瑞山までは自動車が行く。温泉は酢川

岳の八合目、海拔一、一〇〇米のところであり、鳥海

山の秀峰を望み展望大きく、附近には高山植物がある。温泉から栗駒山に登山が出来る。山は一名酢川岳ともいひ二重式火山で外輪山の大日岳は海拔一、六二八米、中央火口丘は劔山といひ海拔一、一〇〇米、夏季には登山者が多い。

田植唄 (陸中)

十七ござれれや、駒の湯に

病ならはなぐさみに。

目にやつかは抱いても寐るよ

小脇差を枕に。

大船渡線

陸中松川 (りくちゆうまつかは)

狢鼻溪 北三籽半、途中長坂まで自動車がある。砂鐵川が石灰層の斷層に沿ひ、浸蝕されて出来た延長二籽餘の峽谷である。水清く岩壁削るが如く、殊に壯夫岩は峽中第一の稱がある。上流に獅子の鼻のやうな岩面があるので、古くは獅子ヶ鼻といはれ、新しくは狢鼻溪といはれるやうになつた。

折壁 (をりかべ) ▼室根山 八籽、海拔三〇〇米、山容秀麗「陸奥の小富士」と呼ばれ、春は躑躅、秋は紅葉の眺めがある。

氣仙沼 (けせんぬま) 前に氣仙沼灣を控へ、この附近の漁場の中心地で鮮魚貝類の年産額百七

十五萬圓。人口一萬二千、鹽釜方面からは汽船の便もある。節類、燒竹輪、蒲鉾、罐詰類、海苔、

干魚及海苔で六十一萬圓、罐詰類三十二萬圓、燒竹輪及蒲鉾三十七萬圓に上る。

▼神明崎 東約三籽、自動車十錢。八幡太郎義家が奥州征伐の折、戦勝を祈るため建てた五十鈴神社がある、境内からは港出入の船を一々指顧されて風光がよい。▼管絃窟(おなりあな) 神明崎の西端が内海に面したところ、鍾乳洞が海水に浸蝕されて出来た洞窟で潮水の干満に際し岩に激して微妙な音響を發するのでこの名がある。窟内には石乳が垂れて自然の柱梁となり、人物や鳥獸の像が彫まれてゐる。

尙附近一帶には景島、尾崎海岸、岩井崎などの

海岸美を具へた所が多い。

三陸沿岸

▼小原木の大理石 氣仙沼町の東北一五籽、海岸に沿ひ約一籽に互る雪白結晶の大理石が露出してゐる。

▼高田町 氣仙沼町の東北二四籽、廣田灣北岸の平野にある商業地、大船渡線摺澤驛の東三〇籽、鹽釜から汽船便がある。旅館 伊東、高忠。

▼高田松原 高田町の南一籽半、氣仙川の河口から東に連る弓形の砂濱で、背後の古川沼に至る間松林がつづく。

▼盛町 高田町の東北一六籽、大船渡線の終點となる豫定地で大船渡灣を控へた商業地、灣は水深く、風波穏かで三陸沿岸中の良好な錨地として知られ、鹽釜から汽船便がある。旅館 今里。

▼石器時代遺跡(高田町盛町附近) 廣田灣に沿うては、氣仙村長部、小友村門前瀬澤、廣田村中澤濱。大船渡灣に沿うては、末崎村細浦、大船渡村下船渡、赤崎村舞良(大瀬)などの貝塚があり人骨、骨角器その他の遺物が出る。

平泉 (ひらいづみ) 四四八軒六 上野から普通十三時間。一ノ關を後にすれば北上川を帯にして聳える東稻山の秀容車窓にせまり「三代の榮耀一睡の中にして」と芭蕉の筆を遺した約八百五十年前の古墟、平泉の近づいたことを知る。藤原清衡が治府をこゝに構へてから基衡、秀衡、泰衡まで四代九十九年の間、居館とした平泉館址、清衡、基衡の柳の御所址秀衡、泰衡の伽羅の御所址は今平泉驛のある附近一帯の地であるといふ。

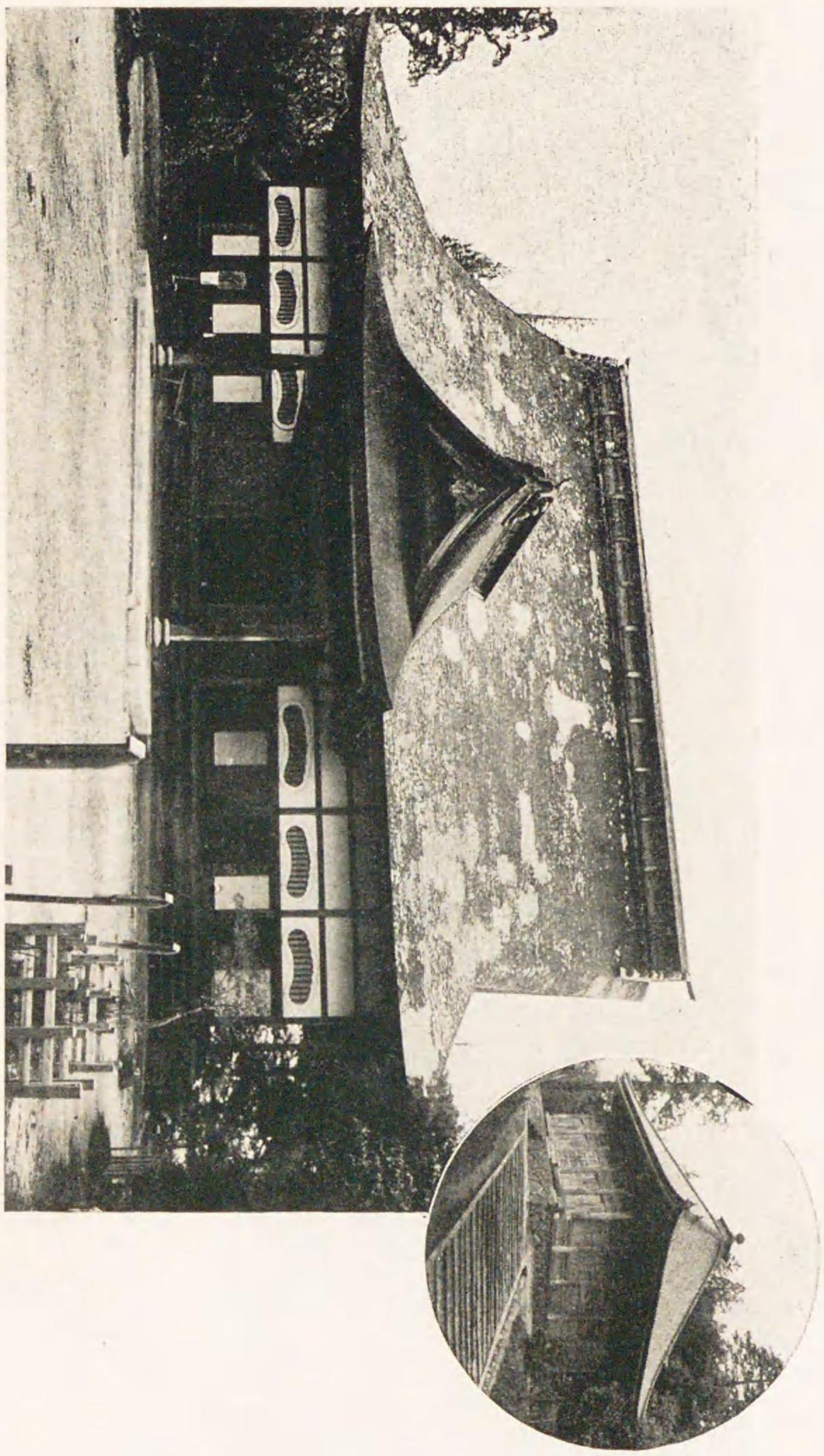
驛を出てから北約八〇〇米、中尊寺に至る途中左

手の田圃の中に「無量光院址」があり史蹟に指定されてある。

尙行くこと約二〇〇米、右手に樹木繁る小丘を見る、そこは義經の判官館址(高館)である。丘上に判官堂といふ小堂があり義經の木像を安置する。北上川は今河道を變へてこの丘の直下を流れてゐる。ここから更に進めば左手に金鶏山があり、そこを過ぎると程なく老杉繁る丘陵の坂路にかゝる、坂を登りつめた所、驛からの道程約二軒半にして中尊寺本坊の門前に著く。

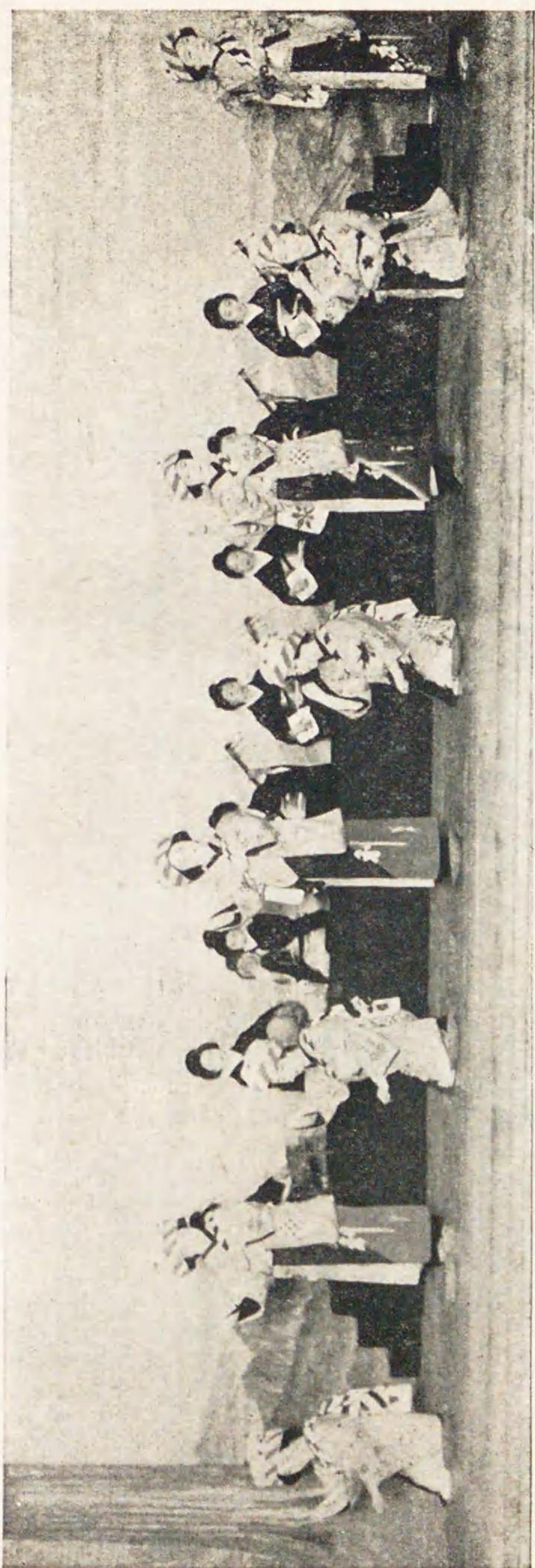
中尊寺は慈覺大師の開基で、清衡平泉に居を移すに當り、壯麗な堂塔を建立し一時は寺塔四十餘、坊舎三百餘に及んだが今は唯金色堂及經藏に昔の面影を残すのみである。

金色堂(光堂)は清衡の遺骸を収めるために造營



金色堂

坊本寺尊中



からめく〜
 親父が責める
 なんぼからめても
 からめたアアならぬ。
 ハアからめて〜
 からめて千貫
 親父の借金年賦ですませ。
 金が出る出る
 白金黄金
 鐵もなまりも赤がねも。
 く〜つり〜
 ぶつしり掘出せ
 お國の名物。

金山頭

した葬堂である、堂は方三間に過ぎないが、その装飾は藤原時代の工芸美術の粹を蒐めたもので精美を極め、四壁、内殿、軒、屋蓋など悉く漆を塗り、金箔を押ししてある。今金箔は大部分剥落してゐるが内部には尙金色燦爛たるものがあり尙所々に螺鈿が點じてある。

内陣には中央及左右に須彌壇があり何れも上に阿彌陀三尊、二天、六地藏（悉く定朝の作といふ）などの像が安置してあり、中央に清衡、左に基衡、右に秀衡の遺骸を葬つたと傳はる。堂及鎌倉時代に出來たその覆堂共に國寶である。

五月雨の降り残してや光堂

芭蕉

經藏（國寶）は金色堂の西北にあり、清衡の建立にかゝる、内陣には國寶の八角須彌壇があり、その他國寶に、禮盤、燭臺、卓、磬架がある。又左右兩

東北線

側に經架を設け、黒漆の經筒二百六十合が納めてあり、清衡の納めた紺紙金銀泥の一切經（現在二十卷）、基衡の納めた紺紙金泥の一切經（現在六百餘卷）が藏してある、秀衡の納めた宋版一切經（現在九十卷）は經架の下の唐櫃に入れられてある。以上何れも國寶である。尙その外に國寶の古文書もある。

寺境にはなほ辨財天堂（國寶の最勝王經十界寶塔曼荼羅あり）、寶物館（一字金輪坐像外數點の國寶あり）鐘樓、中尊寺本坊などの見るべきものが多くある。

丘を下つて北すれば、一條の小流が北上川に注いでゐる。これが即ち衣川で、上流半軒餘に安倍頼時父子の據つた衣川の柵址がある。

道を返して更に驛の西半軒なる毛越寺の遺蹟に至れば、蘆荻徒に大泉池畔に茂り、南大門の斷礎離々

として叢裡に埋れてゐる。

夏草やつはものごももの夢の跡 芭蕉

句碑は門址の東端にあつて芭蕉翁の自筆だといはれてゐる。寺は主として基衡の建立に成り宏壯なる規模は中尊寺を凌ぎ平泉第一の伽藍であつたが、今僅かに常行法華の二堂をとゞむるに過ぎない。指定の史蹟である。

毛越寺から四軒、達谷窟には坂上田村麿が報賽のために建立したといふ毘沙門堂がある。こゝは驛から嚴美溪を經、一ノ關に行く廻遊自動車によつて探勝することが出来る。

三代の榮耀一睡の中にして大門の跡は一里こなたに有、秀衡が跡は田野に成て、金鶏山のみ形を残す、先高館にのほれば、北上川南部より流る、大河也、衣川は和泉が城をめぐりて、高館の下にて大河に落入、奉衡が舊跡は衣ヶ關を隔て、南部口をさし堅

め、夷をふせぐと見えたり、借も義臣すぐつて此城にこもり功名一時に叢なる。國破れて山河あり城春にして草青みたりと、笠打敷て時のうつるまで涙を落し侍りぬ。

芭蕉

水澤 (みづさは) ▼水澤公園 西南約一軒、園内に國幣小社駒形神社、高野長英の碑があり、櫻樹が多い。園の西半軒に世界四觀測所の一である緯度觀測所がある。▼岩谷堂城址 東北八軒、自動車がある。岩谷堂町の東北端の丘陵にあり、本丸、二之丸、櫓形の址などが残つてゐる。

金ヶ崎 (かねがさき) ▼古の鎮守府址膽澤城址 東二軒半、延暦二十一年(一、一五〇年前)坂上田村麿の築くところ、多賀城に於ける鎮守府をこゝに移したもので、指定の史蹟である。城址の東北隅に縣社鎮守府八幡宮がある。社務所に古文書及膽澤城内

横黒線

岩澤 (いはさは) ▼綱取鑛山 東北二軒三 三菱鑛業會社經營の金銀銅山。▼水澤鑛山 南約

半軒、古河鑛業會社經營の銅山。▼夏油温泉 西南一五軒、夏油川に臨む、リウマチス、婦人病などによい。

旅館 高橋 (自炊制)。

大荒澤 (おほあらかさは) ▼卯根倉鑛山 南一

二軒、藤田鑛業會社經營の銅山。▼本ノ松鑛山、外五鑛山 西南一四軒、日本製鋼會社の經營。

陸中川尻 (りくちゅうかはじり) ▼湯川温泉

南五軒、徒歩の外なし、旅館清風館 (自炊制)。

▼湯本温泉 北四軒、自動車がある。胃腸病、皮膚病によい。旅館 湯本ホテル、吉野館。

出土の古瓦、陶器、土器などを多く藏してゐる。

▼鳥海柵址 西南約一軒半、金崎村二ノ宮の丘上にある。前九年の役に安倍頼時はこゝで歿した。

黒澤尻 (くろさはじり) 横黒線分岐點。

▼立花の櫻 東八八〇米、北上川沿岸一帯の花の名所、國見山に登れば山河の眺觀雄大である。▲嶽温泉 西二〇軒。▼和賀展勝地 東約二軒餘。▼染黒寺 東六六〇米、曹洞宗の名刹、宋代の經卷などがある。

▼土畑鑛山 南約二軒、銅山。▼赤石鑛山 北約九軒、銅山。

花卷 (はなまき) 花卷温泉電氣鐵道、岩手輕便鐵道接續點。

▼花卷城址(鳥谷ヶ崎城) 東六六〇米、城壁及外濠が残り、規模雄大なものである。天正年間(約三五〇年前)南部氏の領で城代が置いてあつた。

花卷温泉電氣鐵道 一方は花卷温泉まで七軒四、一方は志戸平、大澤、鉛、西鉛温泉まで一八軒。

▼花卷温泉 電車二十五分、臺温泉の湯を引いた新温泉郷、萬壽山、堂ヶ澤山、小櫻山などを負ひ、臺川に臨み、東は廣濶な平野が展けてゐる。胃腸病、神經諸病によい。遊園地や文化的の施設や、娛樂機關が備つてゐる。附近に釜淵ノ瀧、緒ヶ瀨瀧などの勝地がある。附近に素人向のスキー練習

場もある。

旅館 松雲閣、紅葉館、千秋閣、花盛館。その他貸別荘もある。

▼臺温泉 花卷温泉から二軒餘、自動車三十錢、皮膚病、脚氣によい。附近に時宗の光林寺、臺焼製陶場などがある。

旅館 金矢ホテル、阿部ホテル、樂知館。

▼志戸平温泉 電車約一時間、リウマチス、皮膚病、胃腸病などによい。豐澤川に臨み附近に太田清水觀音、薄衣ノ瀧などがある。旅館久保田。▼大澤温泉 電車約一時間十五分、リウマチス、神經諸病、胃腸病などによい。旅館大澤温泉旅館。

▼鉛温泉 電車約一時間半、效能大澤に同じ、旅館藤三、藤友。▼西鉛温泉 電車約一時間半、效能大澤に同じ、旅館秀清館。大澤、鉛、西鉛は何

れも豐澤川に沿うた靜かな所、西鉛附近の高倉山ではスキーが出来る。

岩手輕便鐵道 花卷から遠野を経て仙人峠まで

六五軒五。約六軒の峠越えをすると大橋から釜石への(釜石鑛山會社線大橋、鈴子間一六軒)鐵道があり、東海岸に出る捷路となつてゐる。線路は多く猿ヶ石川に沿ふ。

土澤(つちさは) ▼北成島毘舍門堂 西南四

軒、御山の山上にあり、中に高さ六米餘の巨大の毘舍門天像が安置されてゐる。この他に吉祥天と二鬼の木像がある。何れも國寶になつてゐる。

この東隣の熊野神社經塚からは貴重な平安時代の遺物を發見したので知られてゐる。遠野(とほの) 八戸氏の移り鎮めた處で、舊城址には鍋倉神社がある。北上山脈の山間に於ける一中心

地で、盛岡、花卷から三陸沿岸に出る交通の要衝に當つてゐる。▼早池峯山 北一六軒。(石鳥谷驛参照)

釜石鑛山線 大橋、鈴子(釜石)間一六軒一。

大橋(おほはし) ▼釜石鑛山 西北約三軒

半、新山と佐比内との採鑛場を總稱して釜石鑛山といふ。この鑛山の發見は享保年間(約二〇〇年前)で確實に採掘を開始したのは嘉永年中(約八〇年前)である、今釜石鑛山會社の經營に係り町の南部鈴子に製鍊場が設けてある、製品年産額銑鐵約四萬匁、銅約五萬匁。

鈴子(すゞこ) ▼釜石町 釜石灣に臨み、

釜石鑛山製鍊場、三陸汽船、水産冷蔵會社などがある。人口約二萬三千。

▼大槌町 釜石から八軒餘、大槌灣に臨んだ港町。

石鳥谷 (いしどりや) ▼**早池峯山** 登山は驛から大迫へ一二軒自動車あり、そこから岳まで一八軒、岳から頂上まで約九軒 山は岩手縣第二の高峯で、岩手山の次である、頂上に早池峯神社があり瀨織津姫命を祀る、南部氏の祈願所であつたところ、七、八月に登山者多く年々約五、六千に及ぶといふ。

日詰 (ひづめ) ▼**斯波城址** 東北二軒、延暦年間(約一、一六〇年前)坂上田村麿の築いたものといふ。▼**縣社志和稻荷神社** 約一二軒、毎年舊初午には參詣者が多い。

矢幅 (やはば) ▼**南昌山** 西八軒、夏季登山者が多い。山腹に南昌山神社がある。▼**乙部の枝垂桂** 東八軒、瀧源寺境内にある。指定の天然記念物である。▼**大萱生鑛山** 東一二軒、住友合資會社經營の金山。

盛岡 (もりをか)



五三五軒三 橋場線、山田線分岐點。上野から普通十七時間、急行十二時間半。市は北上川畔の平野にあり、もと南部と稱し南部氏十三萬石の城下であつた。人口五萬八千(三、一二調)を有し、鐵器、木綿織を産し、特に南部鐵瓶の名高く、牛馬市が亦盛んである。高等農林學校、騎兵第三旅團などがある。

▼**盛岡城址** 東約一軒半、市の中央にあり、今は岩手公園となつてゐる。園内櫻が多く南部氏の始祖を祀つた縣社櫻山神社がある。慶長年間(約三三〇年前)南部利直の築城で、殘存の石垣、濠などを見て規模雄大であつたことがわかる。▼**石割櫻** 東一軒半、地方裁判所構内にある。花崗岩の割目に根を下

した彼岸櫻で指定の天然記念物である。▼**大慈寺** 東南二軒、境内に原敬の墓がある。▼**厨川柵址** 北二軒自動車がある。安倍館ともいひ、北上川西岸の斷崖に臨み、三面に濠を繞らせるもの五ヶ所並んでゐる。▼**大館** 西北三軒餘、秋田街道諸葛橋の北方丘陵にある、この東隣にも大館に似た黒館と呼ぶ館址がある。その他東南二軒に俗に馬檢場と稱する常設家畜市場があり、毎年九月二歳牡馬の糶賣がある。旅館 高輿、陸奥館、三島屋、齋藤、大村。

岩手縣廳は盛岡市にあつて、陸中國の大部及陸前國陸奥國の一部を管轄してゐる。東半は北上山脈連互し、西境には奥羽山脈あり、岩手山之に接して高く聳えてゐる。この兩山脈の間を北上川は南に流れ、馬淵川は北に流れ、沿岸の

平野には牧馬の業が盛んである。盛岡は鐵瓶の産地として聞えてゐる。海岸地方には大船渡、釜石、宮古の諸港あり、近海鮪、鮑、烏賊の漁獲が多い。釜石の西方にある釜石鑛山は鐵を産すること日本第一である。

盛岡からめ節
金の牛に錦の手綱
おらもひきたい ひかせたい
ハアからめてからめてしつかりからめて
にぎつた手綱をうっかり放すな。
勵め勵め親父か責める
なんほからめても からめたてアならぬ
ハアからめてからめてからめて千貫
親父の借金年賦ですませよ。

橋場線

小岩井 (こいはる) ▼小岩井農場 北約一軒半、面積四〇、〇〇〇アール(四千町歩)規模の宏大なること本邦第一といひ、馬、羊、牛などを飼育して居り岩崎氏の經營である。▼繫温泉 南四軒、自動車五十錢。雫石川に臨み、胃腸病、リウマチス、皮膚病などによい。旅館佐藤、村山。

▼網張温泉 西北一六軒、馬車の便がある。海拔約七六〇米、岩手山頂上まで一二軒、瀧澤口から登山した人は歸途この温泉へ下るがよい。旅館 大久保。

名物 バタ、アルペン(乳製飲料)。

栗石 (しづくいし) ▼鶯宿温泉 約一〇軒。

旅館 青山。

橋場 (はしば) ▼國見温泉 西北約一四軒

駒ヶ嶽登山者の宿泊地で、冬はスキーの根據地である。

旅館 石塚。

山田線

この線は盛岡から北上山脈を横断して太平洋岸の宮古を経て山田に接する豫定である。

上米内 (かみやない) ▼上米内石器時代遺跡

東一軒餘、米内川の南岸の丘陵中に石器、土器などを發見する。その東に米内氏の居館址と傳へる空濠などがある。

大志田 (おほしだ) ▼岩手縣種馬場 東約一二軒。

區界 (くざかひ)

▼宮古町 東七七軒、自動車がある、宮古灣に臨み商業が盛んである。附近に淨土濱、日出島の潮吹孔などの奇勝がある。區界からの途中閉伊川の溪谷は紅葉の美がある。

▼山田町 宮古町から約二〇軒。山田灣の西岸に位し三陸沿岸で宮古に次ぐ港である。

瀧澤 (たきざは) 驛附近一帶鈴蘭が多い。

岩手山 山頂まで二二軒、山は海拔二、〇四一米、實に南部の鎮山で、形狀端麗なので南部富士、岩手富士などと呼ばれる。

登路は網張温泉からする西山口、瀧澤口、田頭口の三つあるが瀧澤口が一番近い、驛から一〇軒(自動車五十錢)の山麓柳澤に遙拜所がある。そこから山頂まで約一〇軒内五軒は緩やかな登りである。登山路は十合に分け一合目毎に石標が設けてある。九

合目に不動平の平地があり、休憩小屋がある。火口壁のお鉢廻をして火口底に下ると岩手山神社の奥社がある。歸途網張温泉に浴し、小岩井に出るのは二日間の旅行としてよい。山頂から網張温泉まで一二軒、温泉から小岩井まで約一八軒である。

好摩 (かうま) 花輪線分岐點。

▼姫神山 東六軒、海拔一、二五米、山姿秀麗、岩手山と合せて夫婦岳といつてゐる。山頂に姫神社がある。山は鈴蘭が多いので知られてゐる。▼石川啄木の碑 東二軒餘。

花輪線

將來陸中花輪に達する線である。

大更 (おほぶけ) ▼松尾鑛山 西北一六軒 松尾村にある硫黄鑛山である。

田山 (たやま) ▼ダンブクロ長者屋敷跡
北四軒、米代川の上流長者前にあり、繼體天皇の御代(約一、四〇〇年前)ダンブクロ長者の居住地であつたと傳はる。この線の終點から花輪町(秋田縣)まで自動車があり、そこから秋田鐵道で毛馬内に行き十和田湖遊覽の自動車に連絡する。

川口 (かはぐち) ▼巻堀神社(金勢明神) 南二軒餘、昔は陽形崇拜で有名であつたところ。

沼宮内 (ぬまぐない) ▼仙波堤堅穴住居址 西約四軒、約三十箇所あり、よく正圓形の舊態を残してゐる。こゝから西四軒の一方井村今松にも十數箇の堅穴址がある。

奥中山 (おくなかやま) 中山峠以北は古の奥の細道で、車窓から見る附近の溪山の風色は東北線第一といはれ、特に紅葉の美を謳はれる。尙驛附近に

はスキー練習に好適な場所がある。▼弓狛の清水約三軒餘、北上川の水源で、源頼義が弓狛で突いて湧出せしめたといはれる。

一戸 (いちのへ) ▼末の松山、浪打峠 北五軒、海拔三〇二米、頂上に砂岩が露れて貝化石がある。古歌の名所である。峠を峯傳ひに北進すれば鳥越觀音に出る、直立數十米の岩窟中にある。驛からは約三軒餘。▼西方寺毘舍門堂 西半軒、福聚山と稱する丘上、老杉中にある。鎌倉時代の優秀な木彫である。

北福岡 (きたふくをか) ▼末の松山、浪打峠 東南約五軒。▼八葉山天台寺 西一六軒、自動車六十錢。もとは天台宗の一大靈場であつたが今は廢れて觀音堂と四、五の小堂を見るばかりである。本尊鉈彫聖觀音は國寶である。▼福岡城址 東北約二

軒五日市の東方丘陵にあり、壘壁、濠などが残つてゐる。城は天正年間(約三八〇年前)九戸政實の居城後、南部氏が盛岡に移るまでゐたこともある。

▼横山石器時代遺蹟 東約四軒、土器、石器、石劍、土偶などを發見した。尙附近に遺物を發見する所が多い。

名物 桑茶。
三戸 (さんのへ) 十和田湖々畔宇樽部まで四四軒、自動車の便がある。旅館(湖畔)東湖館。▼縣社糠部神社 西南三軒、舊南部藩祖南部光行を祀る。
尻内 (しりうち) 八戸線分岐點。

▼縣社櫛引八幡宮 南三軒餘、慶安元年(二八〇餘年前)南部重直の造營、門前には流鏑馬の馬場がある。國寶の鎧、兜がある。例祭は舊四月十五日と八月十五日、社前に市が立つて、色々の玩具などを賣

る。八月十五日と十六日には男女老幼夜を徹して踊る渡島子踊がある。

戸の語原

この地方には一戸から北へ、三戸、五戸、七戸、八戸、九戸など、戸の字の付く地名がある。戸は一家の部の意か、又は家の意か、或は籠のへかで、部落邑里の意味を指す古語であつてアイヌ語から來たものではないといふ。

八戸線

八戸（はちのへ）もと南部藩の支封地、人口五萬馬淵川口の南に位し、陸中東海岸久慈方面への交通の要路に當り近く海港をもつ、附近の物資集散地で、特に木炭、鮮魚などの取引が盛んである。

▼縣社三八城神社 南二〇〇米、舊城址にあり、南部藩主の祖南部光行と南部直房を祀る。▼郷社新羅神社 南約一軒半、祭神素盞鳴尊と新羅三郎義光を祀る。九月一、二、三の三日間の大祭日は八戸の三社大祭といはれ、神輿の渡御、打毬などが催される。尙舊正月の十四、五、六日にはエンブリ（豊年祭）がある、それは種蒔から收穫まで或は漁獵の所作を笛や太鼓に合わせて踊る野趣に満

ちたものである。▼八戸公園 南約一軒半、梅櫻桃柳などが植ゑられ競馬場や、御覽打毬の碑などがある。

旅館 江渡、若松ホテル。

名物 干菊、八戸煎餅、玩具八幡駒。

えんぶり

- 一ツ人目も知らず、をんな心で吉野がさ
- 二ツ二つに二節いさしさに、一夜た、ないで別れがさ
- 三ツみもせの仲なれや、深くおもへや三度がさ
- 四ツよなく門に立つ、人が通ればかくれがさ
- 五ツいつまで通へど、逢はぬくころで曇りがさ

（後略）

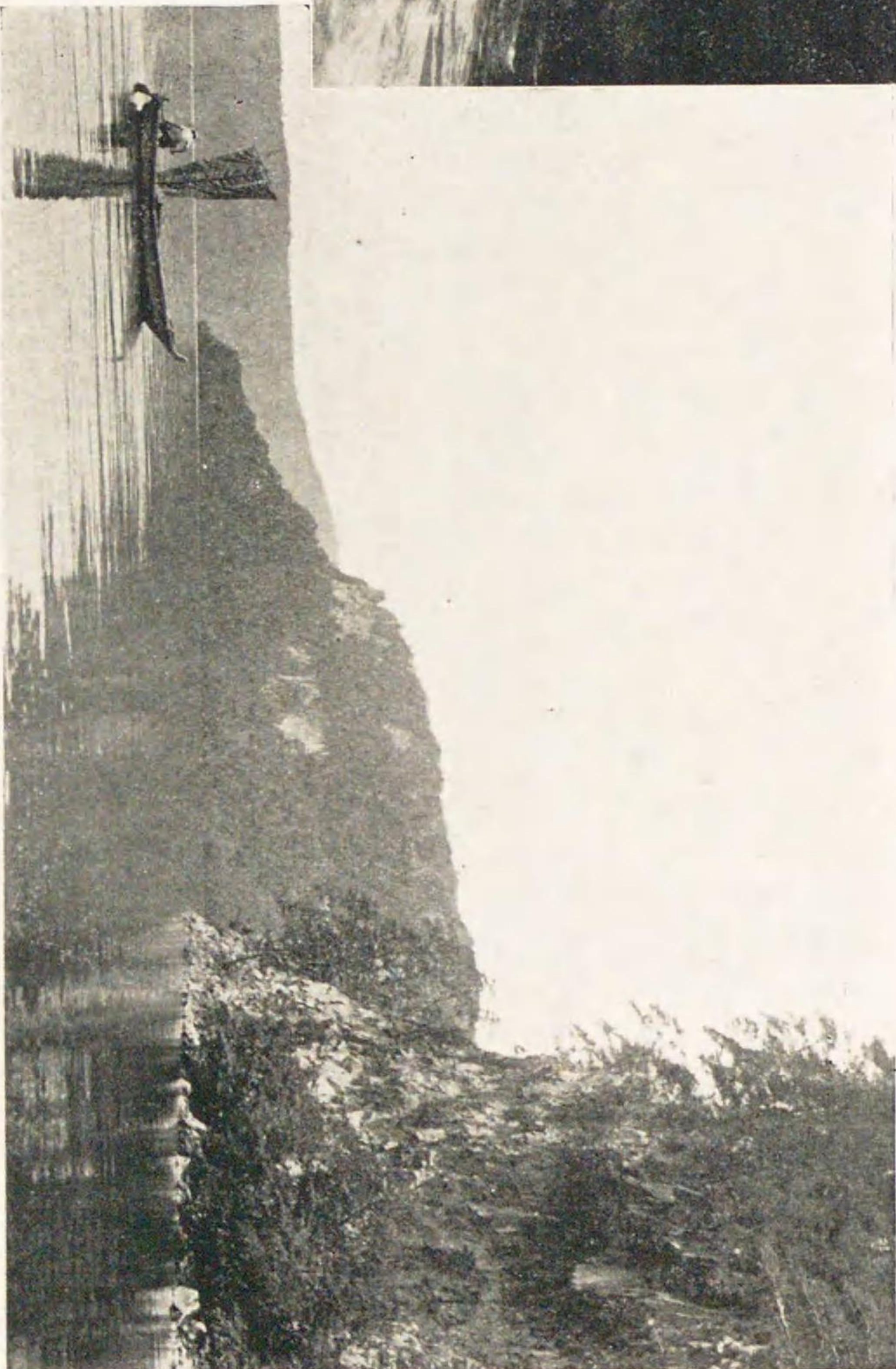
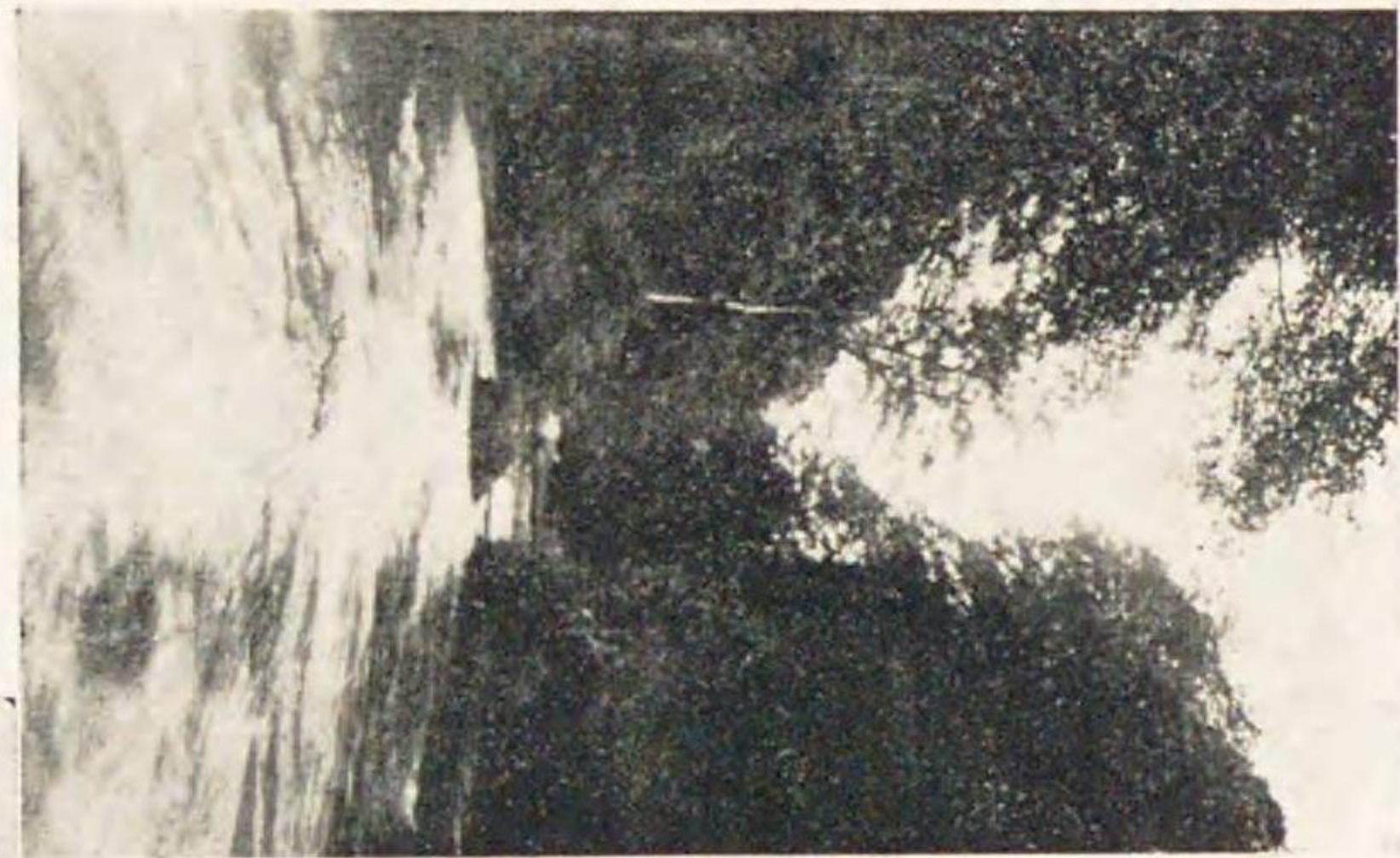
陸奥湊（むつみなと）

▼館鼻岬 西北半軒、

八戸灣を見晴す眺めがよい。▼白銀海水浴場 東

一軒。▼磐城セメント會社工場 驛前。

奥入瀬



湖田和十



旅館 三島館、浪打館、湊館。

鮫 (さめ) ▼蕪島 北一籽、鮫港の前にあり海岸を距ること三三〇米、全島蕪草繁茂し、春は花が波に映つて美しく「黄金花咲く蕪島」の俗謡がある。「うみねこ」の蕃殖地で指定の天然記念物である。「うみねこ」は鷗の一種で冬は北方の海に棲み春から秋にかけてこの島に来て産卵し雛を育てる。島及附近の海面には幾千羽となく群棲し里人は辯才天のお使であるとして害を加へない。

旅館 石田屋、橋本、鷗鳴館。

陸中八木 (りくちゅうやぎ) ▼久慈町 南二

〇籽、九戸郡の中心地。▼久慈製鐵所 久慈町の東部、常磐商會の經營。

古間木 (ふるまき) 十和田鐵道接續點。

十和田湖 西五六籽、奥羽線から入る裏口に對し

東北線

てこゝを表口といふ。三本木まで一四籽八、十和田

鐵道(賃四十六錢)の便がある。別に自動車(賃四十錢)も通ずる。三本木は安政年間(約八〇年前)南部藩士新渡戸傳の經營した新開地の街で軍馬補充部の支部がある。こゝから湖畔子ノ口まで自動車(賃二圓)がある。その途中の焼山から別路四籽餘にして蕪温泉がある。焼山から湖畔までは奥入瀬の溪流で最も風景美に富んでゐるから徒歩する方がよい。(奥羽線大館驛参照)

沼崎 (ぬまざき) ▼郷社新館神社 東南八籽

自動車があり、七戸町に通ふ街道の南側にある。古例祭は九月十五日で流鏑馬がある。神社の東一籽に古墳が十二基ばかり群集してゐる。▼盛喜山堅穴住居地 西南一二籽、こゝは數十箇群集し、發掘品などにより石器時代以後の文化的住民の遺跡であると

いはれてゐる。

野邊地 (のへぢ) 大湊線分岐點。

▼馬門温泉 西六軒、眼疾、創傷などによい。
旅館 田中屋。

十和田湖の傳説

その昔十和田湖附近に八郎太郎といふものがゐて、谷川の水を飲んで自分の姿が龍身に化したので、山を割き水を堰き止めて一大湖を作りその湖の主になつてゐた。ところがその後南祖坊といふ僧が神の告により、身を龍身に變へて湖水に飛込んだ。然るに前から湖の主になつてゐる八郎太郎が南祖坊を拒み七日七夜の間大格闘をなしたが、遂に南祖坊のために八郎太郎は追はれ、別に海岸に八郎湯を造つて住んだといふ。かうした湖沼が湖沼を退治したといふ一種の傳説が今にいひ傳へられてゐる。

火口は頗る大きく中に直徑二軒弱の宇曾利湖があり、水は起伏の多い火口壁を破つて火口瀨となつて流下する、瀨のところを三途川といひ、下流は、正津川となる。火口壁の内面に通ずる湯坂を北に下れば樹林の間に宇曾利湖の碧水が隠見し、樹木の盡きた所で湖岸に出る。

湖は東南に屏風山、南に小盡山、大盡山、西に丸山を廻らして火口の形を具へ、又西の彼方には恐山の寄生火山朝日奈岳が見える。湖の北岸に恐山温泉がある。

恐山温泉 西一二軒、自動車の便がある。圓通寺(地藏堂靈場あり)の境域八、〇〇〇アール(二十四萬坪)に古瀧ノ湯、新瀧ノ湯、薬師ノ湯、冷拔ノ湯、花染ノ湯などあり、リウマチス、婦人病皮膚病などによい、寺内に數百人を宿泊させるこ

田名部 (たなぶ) 田名部町は下北半島の物資集散地、町の東方斗南は明治三年舊會津藩主松平氏が封ぜられたところ。▼常念寺 北三軒、慶長年間(約三〇〇年前)の創建と傳へ木彫の本尊阿彌陀佛は國寶になつてゐる。

恐山 下北半島にある活火山で田名部から頂上まで約一六軒、安政年間に建てた里程表が一丁毎に残つてゐる。檜の美林、谷間の「ハウ」「ナラ」赤松などが登路に沿うて繁る、町から約六軒のところで大湊から来る道と會ふ。そこからは南に陸奥灣、東北に太平洋が見え、田名部町一帯の山野が脚下に展開する、更に針葉樹と闊葉樹の混生林を分けて行けばやがて火口壁の頂に著く。

とができる。旅館は恐山ホテル。歸路は途中から大湊への道を取るがよい。大湊まで一二軒。南方に周回八軒の宇曾利湖がある。その落口を三途川といひ、そのほか血ノ池、極樂ノ濱、胎内くぐり、畜生道、賽の河原、八大地獄などの稱がある。

▼薬研温泉 北二七軒半、途中大畑まで自動車一圓七十錢、大畑から八軒、トロリーの便を借りることが出来る。幽邃の境で、紅葉の美がある。旅館 牧、小畑、主として自炊制。▼下風呂温泉 西北三〇軒、自動車二圓九十錢。津輕海峽に臨む海岸温泉でリウマチス、皮膚病、婦人病などによい。夏季烏賊釣船が長蛇の陣を布き漁火數軒に續いて美觀を現ずる。旅館 角長、丸本、同支店、森脇(以上内湯なし)。▼佛ヶ浦 下北半島の西

岸、福浦岬の南方にある岩石の奇勝。

大湊（おほみなと） 大湊要港部所在地 恐山（一二号）（田名部驛参照）、青森へ七五号五汽船便がある。

旅館 大湊ホテル、菊池。

小湊（こみなと） ▼椿山 北一二号、夏泊半島の絶端、満山椿を以て蔽はれ、椿自生北限地で椿神社があり、面白い傳説もある。▼白鳥保護地 北

約一軒半、自動車十銭、野邊地灣西岸の浅所の海岸に冬期白鳥群棲し天然記念物となつてゐる。

浅虫（あさむし） 七二四号 ▼浅虫温泉

驛前、三面山を負ひ、北は海に望んで山光水色の美があり、東北屈指の好温泉場である。腎臓病、婦人病、神経諸病などによい。湯島、裸島、鷗島など指呼の間に浮んで島廻りも興が深い。

鳥廻り料金モーターボート
十人乗全島十八圓、湯島、裸島、鷗島十三圓
四人乗同八圓同七圓五十銭

同 和船 四人乗 全島 八圓 湯島、裸島、鷗島 七圓五十銭

驛から八八〇米の久栗坂には古の善知鳥前の棧橋跡があり、裸島に近く驛から東北約一軒半に東北大學臨海実験所内に水族館がある。

温泉場まで夏は青森から自動車を通ふ。貸切四圓乗合五十銭。

旅館 東奥館、仙波館、南部館、椿館、丸山館、北見館、泉遊館、清遊館。

名物 久枝良餅。

青森（あをもり） 七四〇号 奥羽本線及東北本線終點。北海道との交通の要路で鐵道省經營の連



絡船があり、一日三回往復し約四時間を要する。現在は翔鳳丸（三、四六〇噸）、飛鸞丸（三、四五九噸）、津輕丸（三、四八四噸）、松前丸（三、四八四噸）などが就航してゐる。

市は人口八萬九千九百（四、三調）。貿易港の一で昭和三年度貿易額輸入一千五十八萬圓、輸出十八萬八千圓である。

▼縣社善知鳥神社 東一軒半、市杵島姫命、多岐津姫命、多紀理姫命を祀る。南部氏及津輕氏の崇敬が篤かつた。▼合蒲公園 東四軒、浪打驛からは半軒相生松、傘松などの老松があり、青森灣に臨み、海濱は海水浴場である。▼雪中行軍遭難記念碑 東南八軒、明治三十五年一月二十三日、歩兵第五聯隊の

將校下士卒、約二百名が田代、茂木野を経て三本木に至る雪中行軍中、茂木野で大吹雪に遭ひ、悲惨な死を遂げたその記念碑である。▼ねぶた祭 津輕地方特有の行事で舊七月の初一週間行はれる。「ねぶた」とは張子の人物、悪鬼などの繪姿を屋臺又は車に載せ或は舁いで、花笠などで著飾つた男女が笛太鼓で市中を練り歩くのである。

旅館 中島、かぎや、鹽谷。

名物 飴、昆布羊羹。

八甲田山 山頂まで南約三二軒、驛から二八軒、

山腹酸ヶ湯温泉まで自動車が行く、片道三圓、往復五圓。温泉は高燥の地で岩木山、青森灣の眺望がよく附近に東北大學の高山植物研究所がある。呼吸器病、リウマチス、神経諸病、婦人病などによい。ここから蕨温泉へは山道約一六軒。旅館 酸ヶ湯温泉

旅館。

温泉から山頂まで四軒、山は那須火山脈に属する火山で、前岳(一、二五二米)、八甲田茂麓岳(一、三二四米)、赤倉岳(一、五四八米)、井戸岳(一、五五〇米)、大岳(一、五八五米)、小岳(一、四七六米)、高田大岳(一、五五一米)、雛岳(一、二四〇米)などの諸峯から成り、野内、青森間にその重疊たる山谷を望むことが出来る。普通八甲田登山は八甲田大岳に登るのである。

青森口の外、蕨温泉方面からも登れる。

青森縣廳は青森市にあつて、本州島の東北端に位し、陸奥國の大部を管轄してゐる。三面海に臨み下北、津輕兩半島北に斗出し、その間陸奥灣を抱き西南岸に青森市あり、北海の渡津となつてゐる。那須火山脈は縣に入つて中部に八甲田山、北部に恐山を起し、西方津輕平野には別に岩木山が屹立してゐる。弘前市は津輕平野にあり、林檎の産地として名高い。東部の平原は牧馬盛んにして三本木、七ノ戸の牧場が殊に開えてゐる。

常磐線

驛名の下に記せるは上野からの行程

この線は上野驛を發し、日暮里で東北本線と岐れ、常總の平野を貫いて水戸に至り、それから太平洋に沿ひ、岩沼に至つて東北本線に合する線で、上野からこの線を通じて青森へ二回の直通列車があり、内一回は急行である。上野仙臺間普通十一時間、急行八時間、上野青森間普通二十三時間、急行十七時間を要する。

日暮里から東北本線に岐れると、やがて南千住に至る。こゝは陸羽街道の起點で荒川を隔て、千住と相對してゐる。千住は陸羽街道と濱街道との分岐點で、これから汽車は殆んど濱街道に沿うて走るので

ある。金町から中川を渡つて松戸に至れば下總國で小金原を過ぎれば更に利根川の大鐵橋を渡つて取手に出る。佐貫からは常陸國、これから汽車は牛久沼を左に見て女化原の荒涼たる曠原の間を走る。曠原を過ぎれば低地現はれ、前に筑波の双耳峰を望み眼下に浩蕩たる霞ヶ浦を見る。土浦は即ち霞ヶ浦の西岸に於ける繁華の地で、驛は直ちに湖光に接して風趣掬すべきものがある。

水戸以北は鐵路概ね濱街道に沿ひ、久慈川を渡つて海岸に近づき、その間幾多の海水浴場あり、多賀山脈の海に迫る所、小崖、小岩壁多く松樹亂立して風情ある景致が多い。高萩、南中郷、磯原は無煙炭の産地で、綴、湯本の磐城炭と共に世に常磐炭と稱せられてゐる。關本から一隧道を過ぎれば勿來、地は既に磐城國で、岩石の起伏、松林の連續、波濤の

跳躍、風光の美、目を拭はしめるものがある。綴湯本、平附近は磐城炭の産地で、車窓からその盛況を見ることが出来る。四ツ倉に至れば再び海光に接し木奴美ヶ浦あたり勝景が多い。久ノ濱から木戸に至る間は小隧道多く木戸からは更に金山隧道を過ぎて富岡に出る。隧道は長さ約一、六四五米。常磐線中第一の長隧道である。大野以北はいはゆる相馬の地その首邑は中村である。新地に至れば三たび海岸に近づき、亘理から阿武隈川を渡り、岩沼に至つて東北本線に接するのである。

上野 (うへの) この線の列車始發驛。

日暮里 (につぼり) 東北本線との分岐點。(東北本線参照)

南千住 (みなみせんぢゆ) 驛の附近には東京毛織物會社、富士製紙會社、大日本紡績橋場工場、千

馬橋 (まばし) 流山鐵道接續點、流山まで五七軒。▼東漸寺 北東の小金町にあり、淨土宗の名刹、文明十三年(約四六〇年前)の創建、東國十八檀林の一である。▼萬滿寺(臨濟宗) 東三三〇米、仁王門の仁王像は鎌倉時代のもので國寶になつてゐる。▼流山町 流山鐵道の終點流山驛附近、町は古來味淋の醸造地として知られ、近年は醤油も聲價を高めた。町は江戸川に望んで風光がよい。

柏 (かしは) 總武鐵道接續點。

柏、清水公園間一六軒四、別に柏、船橋間一九軒六、野田線運河驛から西北一一〇米には利根運河西岸の櫻が八軒ばかり續いてゐる。野田町は醤油醸造地として知られ、驛から西二軒には、座生沼があり、舟遊によい。尙附近に岡部城址、金乘院などがある。船橋への途中六實驛附近に六實ゴルフリンクがある。

住製絨所などがあり、一帯に工場が多い。

北千住 (きたせんぢゆ) 東武鐵道接續點。

金町 (かなまち) 京成電氣鐵道接續點。▼柴又帝釋天 東南一軒三、京成電氣鐵道の便がある。

日蓮宗の流行佛で、經榮山題經寺と號し、寛永年間(三〇〇年前)の創立である。本尊帝釋天は日蓮上人が自ら梨板に彫刻したものと傳へ、申の日が縁日であるが殊に庚申の日は雜沓を極める。旅館 川甚。

名物草餅。▼江戸川堤の櫻 東南約一軒、染井吉野櫻の並木があり、花時は人出が多い。▼國府臺 東南四軒、京成電氣によれば賃十三錢。

松戸 (まつど) 松戸町は江戸川に臨む交通の要路で、南約八八〇米に高等園藝學校、東五五〇米に陸軍工兵學校などがある。▼國府臺 南約三軒半旅館 松榮館。

旅館 角松。

取手 (とりで) 常總鐵道接續點。

▼長禪寺(眞言宗) 驛前、平將門の創建、内口佛師安阿彌作と傳ふる十一面觀音を安置する。

旅館 三橋亭、取手館。

常總鐵道線 取手、下館間五一軒三。太田郷、三所間六軒。

寺原 (てらはら) ▼岡堰の櫻 東二軒。守

谷 (もりや) ▼將門館址 西北一軒二。▼板

ある。

旅館(野田町) 待月樓。

我孫子 (あびこ) 三三軒五 成田線分岐點。

▼手賀沼 南七七〇米、沼畔に子ノ神權現あり、風光の勝を占めてゐる。▼布施辯天 北三軒三、櫻が多く眺望がよい。

旅館 角松。

取手 (とりで) 常總鐵道接續點。

▼長禪寺(眞言宗) 驛前、平將門の創建、内口佛師安阿彌作と傳ふる十一面觀音を安置する。

旅館 三橋亭、取手館。

常總鐵道線 取手、下館間五一軒三。太田郷、三所間六軒。

寺原 (てらはら) ▼岡堰の櫻 東二軒。守

谷 (もりや) ▼將門館址 西北一軒二。▼板

ある。

旅館(野田町) 待月樓。

我孫子 (あびこ) 三三軒五 成田線分岐點。

▼手賀沼 南七七〇米、沼畔に子ノ神權現あり、風光の勝を占めてゐる。▼布施辯天 北三軒三、櫻が多く眺望がよい。

旅館 角松。

取手 (とりで) 常總鐵道接續點。

▼長禪寺(眞言宗) 驛前、平將門の創建、内口佛師安阿彌作と傳ふる十一面觀音を安置する。

旅館 三橋亭、取手館。

常總鐵道線 取手、下館間五一軒三。太田郷、三所間六軒。

寺原 (てらはら) ▼岡堰の櫻 東二軒。守

谷 (もりや) ▼將門館址 西北一軒二。▼板

橋不動尊 東七軒三、不動は國寶に指定されてゐる。水海道 (みづかいだらう) ▼弘經寺 (淨土宗) 西北三軒三、境内に徳川家康の孫で豊臣秀頼夫人天樹院 (千姫) の墓がある。▼累の遺蹟 北三軒三、院本で知られた累の碑がある。大寶 (だいはう) ▼大寶城址 南一軒一、吉野朝の忠臣、下妻氏累代の居城であつた。それに隣つて縣社大寶八幡神社がある。本殿は天正四年 (約三五〇年前) の再建で、國寶になつてゐる。次驛騰波ノ江附近は萬葉の古歌に知られたところ。黒子 (くろこ) ▼千妙寺 北三三〇米、天台宗の巨刹。▼關城址 西南二軒、北畠親房が有名な關城書を書いたところ。

藤代 (ふぢしろ) ▼不動院 (眞言宗) 西北約一一軒、自動車の便がある。俗に安産不動といふ本

ぎ我國第四位の大湖 (海跡湖) で周回一四四軒、北浦と通じ利根川に連絡して、長汀曲浦の風趣に富み具に水郷の美を備へてゐる。沿岸には勝地多く、官幣大社たる香取、鹿島はいはずもがな、麻布の天王崎は湖畔第一の眺望地として聞え、潮來は菖蒲咲くの歌に名高く、加藤洲の十二橋亦古から知られてゐる。現在では銚子行は午前九時三十分 (潮來泊) 鹿島行は午前五時 (鹿島泊)、湖來まで八十三錢、大船津まで九十三錢、銚子まで一圓二十七錢、大船津から鹿島神宮へ二軒である。佐原は利根川の要津、本邦地理學者の泰斗伊能忠敬の出身地で、伊能家には地圖、測量器などが傳つてゐる。佐原から香取神宮へ南三軒三自動車がある。▼阿見飛行場 東南四軒、常南電氣鐵道の便あり、賃十五錢。毎週金曜日に公開する。

堂、三重塔婆、仁王門などがあり、本堂内には國寶の不動像が安置されてゐる。佐貫 (さぬき) 龍崎鐵道接續點。佐貫、龍崎間四軒五。牛久 (うしく) ▼牛久沼 驛附近、北方が二つに分れ、半島狀の丘阜があり、風景よく、湖中鰻鯉、鮒などを産する。荒川沖 (あらかはおき) 霞ヶ浦飛行場は東四軒自動車の便がある。東京方面から同所へ行くのはこの驛下車が便利である。土浦 (つちうら) 六六軒 筑波鐵道接續點。もと土屋氏九萬五千石の城下で、霞ヶ浦の西岸にあり、淡水魚、蓮根、砂利などを産し、特に公魚を名物とする。また繭の集散全國第一位を占めてゐる。霞ヶ浦 霞ヶ浦は琵琶湖、八郎潟、多來加湖に次

旅館 櫻井、山本。名物 公魚。筑波鐵道 土浦、岩瀬間、四〇軒一。筑波 (つくば) ▼筑波山 驛から約二軒二 (自動車あり) 進めば、筑波山の山腹に筑波町がある。町の背後に縣社筑波山神社の拜殿がある。ここから山嶺まで約三軒、筑波山鋼索鐵道の便がある。賃四十五錢、山上は男體、女體の二峯に分れ宛然馬の兩耳のやうである。女體は海拔八七六米、男體は八七〇米、四邊に之に次ぐ峰嶺がないので、四望濶大、鹿野山、大山、富士山、武甲山、赤城山、淺間山、日光男體山、那須岳など關八州の山河襟帶、悉く双眸の裡に萃まるのである。古今集に「筑波山、葉山繁山おほけれ君がみかけにますかけはなし」とあるやうに、全山鬱蒼たる森林に蔽はれ

常磐線

檜、樅、楓、椋、檜などの種類に富み、もうせんごけ、つくばねなどの珍奇な植物があり、植物學研究の資料が豊富である。

山上に筑波山神社及故山階宮殿下の御經營になられた高山觀測所がある。

旅館（筑波町）江戸屋、筑波館、山水莊。

常陸小田（ひたちをだ） ▼小田城址 驛附近

上大島（かみおほしま） ▼椎尾薬師 一軒半。

眞壁（まかべ） ▼眞壁城址 驛附近。眞壁平

四郎創建の傳正寺がある。 ▼足尾山 東四軒、こ

ゝから登れる。海拔六二八米、頂上に足尾神社が

ある。 榊穂（かばほ） ▼加波山 東四軒、海

抜七〇九米、山上に加波山神社があり、加波禪定

と稱し、夏季登山する信者が多い。 雨引（あま

びき） ▼雨引山觀音 二軒半、山は海拔四〇九米

中腹に延命安産子育の觀音があり參詣者が多い、本尊觀音像及前立觀音像は國寶に指定されてゐる又櫻の名所。

高濱（たかはま） 霞ヶ浦に臨んで鹿島方面へ

汽船便がある。 ▼舟塚山古墳 西北一軒、前方後圓

墳で規模雄大、史蹟に指定されてゐる。

石岡（いしをか） 鹿島參宮鐵道接續點。

石岡はもと府中と稱し、古へ常陸の國府があつた處

で、町の西端には或は古の國府址かといはれる府中

城址、町の北端には國分寺があり、驛から西南一軒

餘の平福寺境内には常陸大掾平國香の墓がある。

町は醬油、清酒の醸造地として、又穀物、桐材、

繭の産出地として知られ、生栗の産も多い。

旅館 橋本屋、七會屋。

鹿島參宮鐵道 石岡、銚田間二六軒九。

玉造（たまつくり） ▼西蓮寺（天台宗） 南約

六軒、仁王門は室町時代の特徵を有し、國寶に

なつてゐる。毎年九月二十四日から三十日まで常

行三昧といふ古來の法會が行はれて賑ふ。 銚田

（ほこた） ▼福泉寺（臨濟宗） 東南一二軒、途

中まで自動車がある、本尊釋迦像は鎌倉時代の作

で國寶である。 ▼無量壽寺（眞宗） 西北五軒、承

久年間の創建と傳へ、法然上人の繪傳、拾遺古德

傳は國寶になつてゐる。

友部（ともべ） 一〇一軒 水戸線分岐點。

▼國民高等學校 約一軒。

赤塚（あかつか） 一一一軒五 茨城鐵道接續

點。

茨城鐵道線 赤塚、御前山間 二五軒一。

石塚（いしづか） ▼薬師寺 東約二〇〇米



本堂に安置されてゐる薬師三尊像は鎌倉時代の優作で國寶である。 御前山（ごぜんやま） ▼御

前山 西半軒、山麓に那珂川の流があり、新緑紅

葉の眺めよく、嵐山の景に似てゐるので常陸嵐山

の稱がある。

旅館 西村屋。

水戸（みと） 一一七軒五 水郡南線分岐點。

水濱電軌（袴塚、海門橋間二〇軒）及水戸電鐵（下水

戸、常陸長岡間七軒六）接續點。上野から急行二時間

半、普通三時間半、もと徳川氏

三十五萬石親藩の地、北に那珂

川を控へ、南は千波沼に臨み、舊

水戸城址を中央にして上市、下

市の二つに分れてゐる。上市の

南町、泉町は市内の最も繁華な街路である。今人口

五萬(三、一二調)を有し高等學校あり、麥、鮭、雛人形、提燈、納豆などを産する。

水戸城址及舊弘道館

西五五〇米、その一部を第二公園としてゐる。水戸城は東北約一軒、南北三〇

〇米。東部は本丸、中央が二ノ丸、西部が三ノ丸で現在水戸中學校、師範學校、圖書館並武德殿などの所在地である。初は常陸大掾の築城で後に江戸氏及佐竹氏の居城となり、次いで徳川頼房の居城となつた。明治四年火災に罹り現在は南方崖際に天守閣のみが残つてゐる。

舊弘道館はもと徳川齊昭その祖義公の遺志を繼承して建て、藩中の子弟に文學を講じ、武術の教練を施した處である。

公園内に鹿島神社、孔子廟、八卦堂などがあり、堂内には烈公自撰の弘道館記碑を藏してゐる。いは

ゆる水戸學の大本はこれにある。その他要石ノ碑、種梅記ノ碑があり、園内の梅樹數十株は昔のまゝの清香を放つてゐる。弘道館及其の庭園は指定の史蹟となつてゐる。

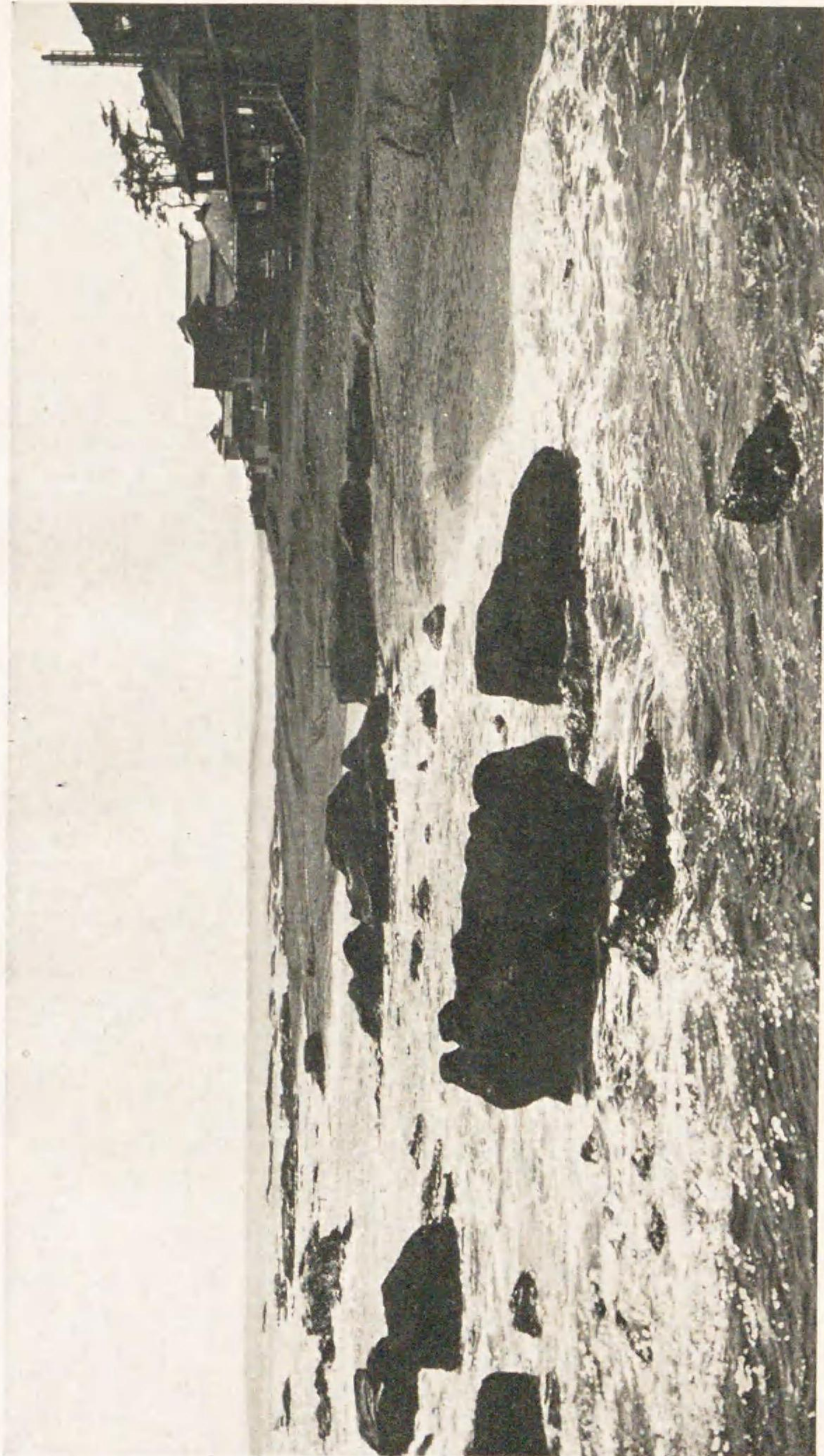
常磐公園 西約二軒餘、電車、自動車がある。第一公園ともいひ、日本三公園の一である。内に好文亭がある、結構古雅、樓上を樂壽樓といひ、千波湖を下瞰し、近く櫻山及丸山と相對し、遙に筑波山、加波山を仰ぎ、四方の展望がよい。

園の東北は梅林で、老櫻數千株、幹枝參差として薜苔厚く之を蔽ひ、松翠その間に點綴して雅致を添へてゐる。

別格官幣社常磐神社は園の東隣にあり、徳川光圀及徳川齊昭を祀る、寶物に大砲、熔解爐、臺場砲、舶來測量器などがある。



好文亭



附近の彰考館文庫は大日本史を編纂した参考書約七萬冊、大日本史の草稿などが藏されてある。大日本史は明暦三年（二七〇餘年前）徳川光圀が着手し明治三十九年に完成したもので、神武天皇より後小松天皇に至る史實を編述し、三百九十七卷、二百二十六冊に及んでゐる。

▼縣社東照宮 西二二〇米、元和七年（約三一〇年前）徳川頼房の創建で、東照三所権現を祀る。本殿は権現造の優作で國寶になつてゐる。

▼藤田東湖の墓 三籽半、自動車がある。水濱電軌谷中停留場、又は茨城鐵道上水戸驛から共に約半籽。東湖は尊王の大義を唱道した水戸藩士で維新後正三位を贈られた。

旅館 芝田屋、鈴木屋、太平館、菊屋。
名物 吉原殿中（菓子）、納豆、梅羊羹。

常磐線

三濱廻り 浪の花咲く大洗附近磯濱、湊、平磯の三濱廻りは一日の行樂として夏は行く人が多い、巡遊には水戸驛前から水濱電軌により、大洗、海門橋に至り、橋を渡つて那珂湊に到り、湊鐵道で平磯、阿字ヶ浦に廻り、同所から引返して勝田驛に出てもよい。阿字ヶ浦、勝田間一四籽三。

▼大洗 海水浴場としてよりも磯節の本場として知られ、後は丘陵、前は太平洋の怒濤に面する景勝地である。▼國幣中社大洗磯前神社 大洗の後山にあり、大己貴命、少彦名命の二神を祀り、日の出の眺望がよい。神社の背後の東光臺に常陽明治記念館があり、明治天皇の御東帶その他が陳列されてゐる。旅館 大洗ホテル、魚來庵、金波樓、小林樓、いけす。

磯節 (常陸)
水戸を離れて東へ三里、波の花ちる大洗。

常磐線

實の平磯、情の湊、男伊達なる磯の濱。

三十五反の帆を巻上げて行くよ仙臺石の巻。

磯で名所は大洗さまよ松が見えますほのくゞこ。

磯で曲松、湊で女松、中の祝町男まつ。

平潟沖から帆を巻上げて那珂の川口はしりこむ。

▼湊 湊町は那珂川の河口に臨み那珂湊の稱もある。江戸時代に榮えた處で、今人口一萬三千、西北の湊公園に徳川齊昭の反射爐の址がある。園内櫻や柳が多い。

旅館 恵比藤、水港館、高安。

▼平磯 海水浴地で町の北方の海濱に、國幣中社酒列磯前神社がある、大己貴命、少彦名命を祀る、

舊正月七日の競馬祭は俗に「やんさまち」と稱し徳川光圀が武藝奨励のために始めたものといふ。

旅館 平磯館、平野屋、開運樓。

水郡南線

額田 (ぬかた)

▼上宮寺 東約四軒、親鸞上人の弟子明法房證信が住持となつた處、聖徳太子繪傳一卷は鎌倉時代の優作で國寶になつてゐる。

常陸太田 (ひたちおほた) 常北電氣鐵道接續點。常北太田、大甕間一軒六。

近郷は煙草の栽培が盛んで水府煙草の聲價は天下に名高い。北方金沙村赤土は御料煙草の産地、年産額一、五九八、七五二疋五、品質は概して香氣に富み仙臺、名古屋、熊本、鹿兒島方面に移送される。

近くの眞弓山から産出する寒水石(大理石)は加工精磨の上東京、仙臺方面に移出される。年産

常磐線

▼阿字ヶ浦 阿字ヶ浦附近の海岸で、遠淺で海水浴に適してゐる。旅館 千尋屋。

茨城縣廳は水戸市にあつて常陸國及下總國の一部を管轄してゐる。縣の南部は千葉縣に連る平野で霞ヶ浦、北浦などの湖沼多く水運灌漑の便あり、土地豊沃にして麥、大豆、蕎麥の産出多く、鹿島灘沿岸は鱈、鯉、鮭、秋刀魚などの漁利がある、縣の北部は阿武隈山脈連互して、石炭、大理石を産し、日立鑛山には銅を産し、金銀を製鍊してゐる。久慈川、那珂川の流域には煙草を産し、その集散地は太田である。石岡、土浦は醸造業盛んに、筑波山の北面からは花崗岩の産がある。

額三〇〇疋。

▼西山莊 西北三軒三、徳川光圀隠棲の地、閑雅な柴門茅屋がある。屋前の「心字ノ池」には蓮花咲き奥庭の土藏には公の木像が安置されてゐる。

▼瑞龍山 西北四軒半、水戸家歴代の墓地で、規模は壯大だが墓形は皆一定し、何等の粉飾も加へてない。城内の低地に「明徴君子朱子墓」と記した朱舜水の墓もある。その他附近には若宮八幡宮久昌寺、佐竹寺、正宗寺など見るべきものが多い。旅館 江幡屋、美吉屋。

名物 粽

瓜連 (うりつら) ▼常福寺 東北約一軒、淨土宗鎮西派、拾遺古徳傳繪九卷及法然上人畫像は國寶である。

靜 (しづ) ▼縣社靜神社 西南約一軒半、延

喜式にある古社で、建葉槌命を祀り、水戸藩主歴代の崇敬が厚かつた。毎年舊一月元旦と舊正月五日の節句祭と舊十月の例祭には参詣人が多い。

常陸大宮 (ひたちおほみや) 大宮甲明神がある。

山方宿 (やまかたじゆく) 久慈川畔にあり、西に陰陽山を負ふ。陰陽岩の前には徳川光圀の創建せられた小祠がある。

袋田 (ふくろだ) 袋田鑛泉 東約二軒、単純泉で皮膚病、神経痛によい。旅館榮屋。▼袋田ノ瀧 東約二軒半、月居山中にあり、高さ一二〇米、幅八〇米の巨瀑で四段となつて流下するから四度ノ瀧ともいふ。徳川光圀こゝに遊び「いつの世に包みおきけん袋田の、布引き出す瀧の白絲」の詠がある。

附近櫻楓が多い。
常陸大子 (ひたちだいご) 五五軒六附近は久慈の溪谷美に恵まれてゐる。久慈川の清流からは鮎が豊富に獲れる。
旅館 榮屋、菊屋。
▼矢祭山 北一四軒、自動車の便がある。久慈川を挟む奇巖の勝地で、赤松、つじ、かへで、櫻樹などがある。▼八溝山 白光山ともいふ、海拔一、〇二二米、茨城、福島の二縣に跨り、山頂に八溝嶺神社があり、その東南下に坂東三十三番の札所二十一番の日輪寺がある。登山口は大子口、棚倉口の二つあるが、大子口から登る方が便利である。大子から途中の町附まで一〇軒、自動車があり、そこから蛇穴へ一〇軒、そこから山頂まで四軒餘である。

勝田 (かつた) 湊鐵道接續點。勝田、阿字ヶ浦間一四軒三。(水戸驛三濱廻り参照)

石神 (いしがみ) ▼村松虚空藏 東南二軒半、村松軌道の便あり、眞言宗日光寺といひ、風光明媚の海濱にあり、毎年陰曆三月十三日には「十三詣り」といつて十三歳の子女に智慧を授けるといふので参詣人が多い。

大甕 (おほみや) 常北電氣鐵道接續點。大甕、久慈間二軒一。驛附近海水浴場が多い。

▼水木濱 東一軒三。▼久慈濱 南二軒、電車の便がある。▼古防地 東約一軒、それらの浴場を巡り尙海岸に沿うて河原に行つて下孫驛に出るのも面白い。

▼泉ヶ森 北一軒、丘陵の北端にあたり、泉神社があり、天速玉姫命を祀る。
▼甕ノ原 北東六六〇米、那珂通達が北畠顯家を授

けて佐竹貞義を破つた戦蹟である。

下孫 (しもまご) ▼河原子海水浴場 東一軒半、自動車がある。

旅館 岩崎樓、聽松閣、樂遊樓。▼鮎川海水浴場 北約三軒、自動車がある。
旅館 島崎館、海風館。

助川 (すけがは) ▼助川海水浴場 東半軒、海水浴地として名高く、町營の諸設備がある。
旅館 常磐館、東曉館、天地閣。

南約一軒の會瀨、西北二軒餘の宮田濱皆海水浴の適地である。
▼日立鑛山 西北四軒、金、銀、銅、硫化鐵を産出する。

金銀塊は電氣分解を行ひ、鈍金及純銀を製出する。
鑛區二七、二四七アール(八十一萬七千坪)その取扱

量一ヶ月約三、八〇〇吨、鑛夫三千六百名、製品年額、金一、八〇〇吨、價額二百六十萬圓、銀二〇、〇〇〇吨、價格百萬圓、精鋼二二、〇〇〇吨、價格六百八十萬圓である。

▼日立製作所 西北二軒二、規模宏大専ら電氣機械及銅線を製造する。従業員三千七百人。

川尻 (かはじり) ▼法鷲院 約一軒、新義真

言宗豊山派に屬し、大同二年の創建である。▼蠶養神社 二軒半、祭神は稚産靈命、宇氣母知命及事代主命で、日本最古の蠶養神社と傳へられてゐる。

高萩 (たかはぎ) 驛附近は海水浴の適地。

▼玫瑰 (はまなす) 東約一軒、海岸の松林中にある。株數約二百、薔薇科に屬する灌木で、地上一五種乃至九〇種あり、初夏の頃、美しい紅花を開く、天然記念物に指定されてゐる。▼栢楨 (いぶき) 櫛形村にある天然記念

物。▼千代田炭礦 西北四軒、この石炭は茨城無煙炭と稱して黒煙を發しない。▼大日本炭礦 西六軒産出の石炭は黒褐色で、光澤に富み、發熱量が多く發煙が少い。

旅館 松風樓、松陽館。

磯原 (いそはら) ▼天妃山 東北七七〇米、

大北川の河口にあり、風光よく海水浴場がある。

旅館 小松屋、富加。

關本 (せきもと) 一八〇軒九

平瀨海岸及勿來巡り 驛の東南約二軒に大津海水

浴場がある。旅館八勝園、金澤屋、大津館。大津の北八八〇米に五浦の勝がある、海岸の奇岩怪石に白波が碎けて風景がよい、印度の詩聖タゴールも曾つて來遊し、この風光を推賞した。こゝから平瀨まで東北約二軒餘、平瀨は風景の勝を以て聞えてゐる。

泉 (いづみ) 磐城海岸軌道(泉、江名間一一軒

一) 接續點。▼小名濱 東三軒餘、磐城海岸軌道及自動車の便がある。常磐屈指の良港で、鮮魚の水揚げ多く、附近からは鰹、鱈、鯨などがとれる。各種冷凍魚の年産額三七五萬吨、その全額八十萬圓に達する。また良好の海水浴場である。

旅館 新米、錦成館、吉田屋。

▼江名濱 一一軒一、磐城海岸軌道の終點。小漁

港で鹽屋岬燈臺があり、眺望美がある。

湯本 (ゆもと) ▼湯本温泉 西北三三〇米、

皮膚病、胃腸病などによい。

旅館 松柏館、山形屋、大瀧館。

▼小名濱海水浴場 東南八軒、磐城海岸軌道の便がある。▼磐城炭礦 西北二軒半。▼入山炭礦 北二

軒。▼三井炭礦 六軒。▼田島鑛泉 四軒。旅館

左方からは岬角突出して關門の狀をなし、海水深く灣入して囊形をなし、右方の岬端は、峭巖海に枕んで藥師堂あり、右方の岬角には八幡神社あり、一島一岬皆佳趣に富み、狩野派の山水畫を見るやうである。旅館 住吉、大正館。

勿來の關址は平瀨から東北三軒、その中二軒は濱街道で俥の便がある。關は白河の關と共に古へ奥州に入る關門であつた。今古松蒼鬱とした九面の丘上に嘉永四年に立てた碑がある。前面には碧波展け、この海岸線中風光第一といはれる松川磯が横はつてゐる。關址から勿來驛へは東北二軒餘である。以上は一日の行程である。

▼花園山 西一六軒、石楠花の名所である。

勿來 (なこそ) ▼勿來關址 西南約二軒餘。▼勿來海水浴場 西南一軒半。▼大日本炭礦 四軒。

若松屋。

纒 (つづら) 本州第一の産炭地、いはゆる磐城炭はこの附近から出る。年採掘高 一三二萬噸。驛の北西四軒に古河、小田炭礦、西方二軒餘に磐城、入山、津川、磐前、朝鮮などの諸炭礦がある。

白水阿彌陀堂 西約二軒餘、藤原秀衡の妹徳尼御前の建立にかゝり、平泉の光堂を模した八百年前の古建築である。阿彌陀堂及阿彌陀三尊竝二天像は國寶になつてゐる。

平 (たひら) 二一軒六 磐越東線分岐點。

上野から急行約四時間半、普通約五時間半、濱街道中水戸以北第一の都市で、もと安藤氏三萬石の城下、今人口二萬六千を有してゐる。

▲平城址 驛の北方丘上にある。慶長七年(約三二〇年前)鳥居氏の築造で、市街を瞰下するによい。

▼縣社飯野八幡宮 西北約二軒。▼專稱寺 東四軒、淨土宗名越派の總本山である。▼如來寺 專稱寺の東約一軒半、奥州淨土宗最初の本山であるといふ。寶物に絹本着色阿彌陀三尊來迎佛、阿彌陀如來及兩脇士立像三軀(共に國寶)がある。▼松ヶ岡公園 西南一軒、花卉多く櫻の名所で、安藤對馬守信正の銅像がある。

旅館 丸新館、住吉支店、山本屋、尼子亭。

草野 (くさの) ▼新舞子 東南一軒六、海濱

の松林で舞子に似た風情がある。

四ツ倉 (よつくら) 四ツ倉町はこの地方有数の

漁港で近海には鯉、秋刀魚の漁獲が多い。▼磐城セ

メント會社 驛前、年産額五百十萬圓。▼木奴美ヶ

浦 東一軒餘、自動車がある。海水浴場で風光がよい

旅館 柏屋、金芳。

▼藥王寺(新義眞言宗)

西約九軒、門前、參道附近に多くの供養碑が散在してゐる。本堂の文殊菩薩の木像、及絹本着色の彌勒菩薩像は何れも國寶である。▼玉山鑛泉 西約六軒、俣がある。胃腸病によい。旅館 藤屋、玉屋。

久ノ濱 (ひさのはま) ▼波立藥師 南二軒半。

▼海水浴場 東半軒。旅館 吉田屋、鶴屋。

廣野 (ひろの) ▼高田、廣野炭鑛 四軒。

富岡 (とみをか) ▼磐城無線電信局富岡受信

所 北約三軒餘。▼四十八社山神社 約二軒、大綿

津見命を祀る。古來船神として遠近の尊信が篤い。

旅館 龜屋本支店。

浪江 (なみえ) ▼大堀相馬燒製造所 西南約

五軒。▼鮭孵化場 二軒。旅館 百足屋、恵比壽屋。

小高 (をだか) ▼縣社小高神社 北五五〇米

相馬三妙見の一、七月十二日には太田及中村の妙見

神社と共にこの三社聯合の馬追の神事が行はれる。

旅館 小松屋本支店、小丸屋。

磐城太田 (いはきおぼた) 縣社太田神社 西北

一軒半、相馬妙見の本社である。

原ノ町 (はらのまち) 二八八軒二 原ノ町は濱

街道の要路にあたり商業が盛んで、人口約一萬二千。

▼無線電信局原ノ町送信所 東六六〇米、本柱は高

さ二〇〇米、副柱は約六〇米。▼縣社太田神社 南

四軒。

野馬追祭 小高、太田、中村神社を相馬三妙見と

いひ、七月十一日から十三日に互つて野馬追祭が行

はれる。相馬氏の祖平將門が八州の兵を下總國小金

原に集めて訓練したのに濫觴し、中村町、原ノ町、

小高町を通じて南北約二八軒に互る大祭典である。

初日は原ノ町に集つて宵乗を試み、二日は雲雀野で野馬を追ひ、三日は小高野で野馬掛を行ふ。その雲雀野に於ける野馬追の隊列を見れば、純然たる古の武裝で、人馬活躍の状、恰も古繪巻を見るが如き観がある。

旅館 丸屋、中野屋。

中村 (なかむら) もと相馬氏六萬石の城下で相馬焼を産する。▼中村城址 西約一軒半。相馬氏累世の居城址で、縣社中村神社及郷社相馬神社がある。前者は相馬三妙見の一、後者は藩祖師常を祀つたものである。境内に櫻が多い。

相馬甚句 (磐城)

相馬相馬と、コラ、木萱もなびく、ナエエ
なびく木萱に、ジツ、花が咲くミ、ナエエ
竹に雀は、コラ、仙臺さんの御紋、ナエエ



追馬野馬相

相馬六萬石、コラ、ほんまに九曜の星と、

ナエエ

相馬流山踊 (磐城)

五月中の申お野馬追ひ。

枝垂れ小柳なせよりかゝる

いミ心のみだるゝに。

向ひ小山のがんけのつゝじ

及びなけれは見てくらす。

花を見たくは横川入りに

猿が烏帽子の岩つゝじ。

▼二宮尊徳翁の墓碑 西約二軒餘。▼松川浦 東約三軒三、自動車がある。宇田川の河口が開けて一潟湖をなす處に、岩礁が點々と奇態を現し、小松島の景をなし、鶺鴒ノ尾岬の夕顔觀世音からは全島がパノ

ラマ的に見られる。▼はらがま原釜海水浴場 東北四軒、夏季は自動車の便がある。

旅館 丸仙、東洋館。

▼**新地** (しんち) ▼つるしはま釣師濱海水浴場 東南六

六〇米。旅館 大洋館、釣師館。

▼しんち新地貝塚 西南一軒半、遺物、貝殻、堅穴住居址などがある。

岩沼 (いはぬま) 三四五軒三 東北本線の分岐点。

田植唄 (磐城)

鎌倉にのほる道に、女に似たる石がある、男よりて手をかけて見ればなよれかゝる、きーヤレきこえたー。
今日の田植の田主たんぬしごのは、大金持おほかねもちきこたえー、奥は奥州、南部は津輕、そこが漲たぎまできこえた。

常磐線

野馬追の起原

野馬追の起原は相馬藩祖平将門が、八州の兵を下總小金原に集めて馬術の訓練をしたのに起り、後相馬氏がこの地方に移つてから益々盛んになり、寛文年中忠胤の時に軍師大江又左衛門を招き、武田流の軍法を以て之を行ひその祭儀が大成したといふ。維新後一時中絶したが、日清戦役後再び現状に復興した。

延享元年相馬尊胤が將軍家の台覽に供したと傳へる「野馬追之記」の一節を左に抄録して見る。

一 鎮守妙見祭禮野馬追之事先祖下總國居住之節小金原に於て野馬追仕候 其後當領に移り候以來野馬追場所は行方郡原町ニ申所に東西貳里餘南北貳拾町餘之原に四方高土手を築き 西は原之外山林迄かこひ入鎮守神馬として數百疋之駒を放し置先祖より至レテ今毎年五月中の申の日に野馬追仕候 故障も御座候節者前後の申の日に相用申候常々野馬山林深く居候に付野馬追前々日より物頭役之もの足輕等召連罷出原へ追ひ出し候然も山林ふかく居馴野馬は出兼漸百四五十疋或貳百疋追出しあせか原一之渡り戸ニ申所に山林へ戻不申様に結切仕置候 併野馬追前日は原之往來も多其上見物之ものも所々より集り候に付あせか原之邊に溜り居申候 但野馬數年々出方不同御座候

一家中之もの兼而組分け仕 旗本組之外組頭物頭平土郷土足輕等迄組合せ一家家來家老役のものに組宛預置申候 右何も前日中村城下より陣羽織を着し物頭役之ものは組之足輕に弓鐵砲を持せ追々に原の町へ相詰近在迄旅宿仕り面々幕を打廻し指物等飾り候旗本は中村居城より出馬其節祝ひ蝶太鼓有之候 人數押之次第先手物頭旗奉行持弓頭持筒頭持槍奉行組々足輕に旗並弓鐵砲長柄を持せ 八幡大菩薩之旗將軍地藏菩薩之旗次に青黄赤白黒五色の旗黒地日丸之大集並馬印立之陣蝶同太鼓具足箱馬先に兜左右に指物其外手廻り之兵具等持せ旗本組之もの共騎馬仕路次は押太鼓を以總勢行列を定原の町に相詰夕方明日の場所見分として家中之もの共迄原へ罷出見分畢而宵乘と申候而原之内往還にて何も乘馬仕候(以下略)

總武線

- 一 總武本線 兩國橋、銚子間 一一七軒二
- 一 房總線 千葉、蘇我、勝浦、安房北條、蘇我間 二一三軒〇
- 一 成田線 佐倉、我孫子間 四六軒〇
成田、佐原間 二六軒九
- 一 久留里線 木更津、久留里間 二二軒七
- 一 東金線 大網、成東間 一三軒八

その本線は東京市内兩國橋を起點とし、千葉で房總線を岐ち佐倉で成田線を、成東で東金線を岐ち、銚子に至つて止まつてゐる。房總線は循環線で一周に約十時間を要し、北條廻り(西海岸)勝浦廻り(東海岸)とし、便宜安房鴨川で打切つて運轉してゐる。

總武線

總武本線

兩國橋(リヤうごくばし) 東京市内本所區兩國橋の近くにあり、附近に回向院、國技館及被服廠跡納骨堂がある。
龜戸(かめんど) 東武鐵道接續點。驛の附近には日清紡績會社、東洋モスリン工場、日立製作所龜戸工場などがある。

▼龜戸天満宮 西北七〇〇米餘、社殿壯麗、太宰府に擬し境内池を穿つて二箇の太鼓橋を架する。社前の池畔は藤の名所として聞え、紫白の藤多く花房は約一米半に及ぶものがある。毎年一月初卯の日及一月二十五日に鶯替の神事を行ひ、參詣者が多い。
▼萩寺 西北一軒、堂内に聖德太子自作の像といふのがある。疫病除の守護として東京附近からの參詣

者が多い。

東武鐵道

東京市内浅草を起點とし、本線と龜戸、常磐線と北千住、東北本線と久喜で各接続して兩毛線の足利、桐生、伊勢崎に達してゐる。浅草、伊勢崎間一三軒三。

途中杉戸から日光線を岐ち東北本線と栗橋、兩毛線と栃木で接続し日光に達してゐる。浅草、日光間約三時間を要し、東京から日歸りの日光見物に便利とされてゐる。尙別に館林から兩毛線佐野で接続し葛生に行く線がある。

本線 西新井 (にしあらゐ)

▼西新井大師

七〇〇米餘自動車がある。弘法大師の草創、關東高野山の稱がある。武州大澤 (ぶしゅうおほさは) ▼越ヶ谷梅林 驛前、淨光寺境内にあり、古木數

百株。▼越ヶ谷桃林 約半軒。柏壁 (かすかべ)

▼中島の藤 二軒、自動車がある。藤は幹の周圍

九米、花房二米に及ぶ、指定の天然記念物。茂林

寺前 (もりんじまへ) ▼茂林寺 東半軒、寺

は曹洞宗で、文福茶釜の昔噺で知られてゐる。館

林 (たてばやし) ▼躑躅ヶ岡 東四軒、途中

まで自動車の便がある。▼郷社雷電神社 東八軒

自動車がある。火雷神を祀る、境内の八幡及

稻荷の二神を祀れる末社は、國寶に指定されてゐ

る。太田 (おほた) ▼大光院 西北約二軒半

自動車がある。淨土宗で俗に太田の吞龍といふ、

吞龍上人の開山で、舊八月八日、九日が開山忌で

賑ひを呈する。▼縣社高山神社 西北約二軒、祭

神高山彦九郎は寛政年間 (一三〇前) 勤王論を天

下に唱道し、蒲生君平、林子平等と共に寛政三奇

小 岩 (こいは)

▼柴又帝釋天 北二軒餘、東

京からの参拜者が多い。京成電鐵の江戸川停留場又は高砂停留場から電車が来る。

市 川 (いちかは)

▼里見公園 北西二軒、自

動車がある。江戸川に臨み櫻樹が多く四季の眺め佳。

▼手古奈靈堂と弘法寺 北約一軒、手古奈靈堂は安

産の神として名があり、弘法寺は日蓮宗の古刹、仁

王門に安置する黒色の仁王は運慶の作といふ。▼國

府臺 北二軒、自動車がある。北條里見兩氏の古戦

場、高さ二一メートルの隆起に過ぎないが、江戸川に望ん

で眺望の勝がある、古の國府址は今の總寧寺境内に

ある。

旅館 東華亭、菜の花。

下總中山 (しもふさなかやま)

▼法華經寺 北

約半軒、正中山法華經寺と號し、日蓮上人最初の轉

人といはれた。▼縣社新田神社 大光院の北方約

二軒半、金山の頂上にあり、新田義貞を祀る、關

東の山河を見下す社前の展望がよい。▼郷社生品

神社 西北約九軒、途中まで自動車がある。元弘

三年 (五九七年前) この社前で新田義貞が義旗を

擧げたところ。藪塚 (やぶづか) ▼藪塚鑛泉

東約一軒乃至二軒、湯の入、瀧の入、西長岡の三ヶ

所の總稱、胃腸病、リウマチス、婦人病などによい。

旅館 今井、伏島、福壽、長生館。

日光線 幸手 (さつて) ▼行幸堤の櫻 約一

軒、自動車がある。舊權現堂堤で櫻堤延長一六軒

に及ぶ。

東武日光 (とうぶにつくわう)

▼日光と中禪

寺湖。(日光線日光驛参照)

法輪の道場といひ、日蓮宗四大本山の一、堂宇宏麗、五重塔及法華堂は國寶になつてゐる、常唱堂の後に有名な日頂上人の泣銀杏がある、御會式十一月十五日から十八日まで、千部會四月十五日から十八日まで。▼中山競馬場 北二軒餘、毎年春秋二季に本競馬の催しがある。▼八幡不知の藪 一軒七、方半軒民家の間にある一叢の竹藪である。▼原木山妙行寺 南二軒、木刀加持の妙法を以て名高い。

船橋 (ふなばし) 總武鐵道(船橋から常磐線柏を経て清水公園まで三六軒) 接續點。▼海軍無線電信所 北二軒。▼姥山貝塚 北四軒。▼瀧不動 約六軒、慈覺大師作といふ不動明王を安置し古木鬱蒼とした中に丈餘の瀧が懸る。

津田沼 (つだぬま) ▼鐵道第二聯隊 驛附近。▼習志野騎兵聯隊 東北二軒餘。

いが縣内滿の大集散地として知られて居り、之に對する施設が多い。▼縣社千葉神社 南半軒、天之御中主命を祀り、千葉氏の氏神である。▼鐵道第一聯隊 驛附近。▼陸軍歩兵學校及氣球隊 北約二軒。▼猪鼻臺 東南一軒七、千葉氏の城址で今公園となり袖ヶ浦の風光を見渡され、展望よく園内に石器時代の砥石がある。▼千葉醫科大學 東南二軒餘、自動車がある。旅館 梅松屋、加納屋。名物 袖ヶ浦おこし、粟漬。

京成電氣軌道 東京市内押上から總武本線に並行して千葉まで及途中津田沼から成田へ行くものと尙途中から白鬚、金町、谷津海岸への支線が出てゐる。

千葉縣廳は千葉市にあつて、安房、上總及下

幕張 (まくはり) 附近は青木昆陽の甘藷試植地で驛附近に昆陽神社がある。

稻毛 (いなげ) ▼稻毛海水浴場 南約半軒、袖ヶ浦の海濱は松林などがあり、遠淺で婦女子の游泳に適する。木花咲耶姬を祀る淺間神社はこの海濱にあり、子育ての神として知られ、七月十五日の大祭には七五三にあたる子女の參詣が多い。旅館 海氣館、一二三館。

千葉 (ちば) 三六軒六 房總線分岐點、京成電氣軌道接續點。

市は東京灣の東北に位し、人口四萬三千(三、一二調)東京との間には省線の外に京成電軌の往復するあり、交通の要路をなしてゐる。商工業としては特に見るべきものはな



總國の大部を管轄し、南半の房總海岸には木更津、北條、館山の漁港がある。北半の平野には森林原野多く湖沼亦尠くない、印旛沼、手賀沼など魚鳥の産が多い。海濱河岸の地は土地低平にして關東第一の米産地となつてゐる。九十九里濱は特に鱸の漁場として名高く、その他の漁場に於ても鯉、鯖、鮪、鯨の漁獲多く、水産の利甚大である、銚子からは醬油、鯉節を産出し、野田、流山、また醬油、味淋の醸造地として知られてゐる。

佐倉 (さくら) 五二軒 成田線分岐點。

もと堀田氏十一萬石の城下で、城址は北二軒、自動車がある、今歩兵第五十七聯隊を置く。將門山の古城址は東三軒三。旅館 藤屋、兼坂。

成田線

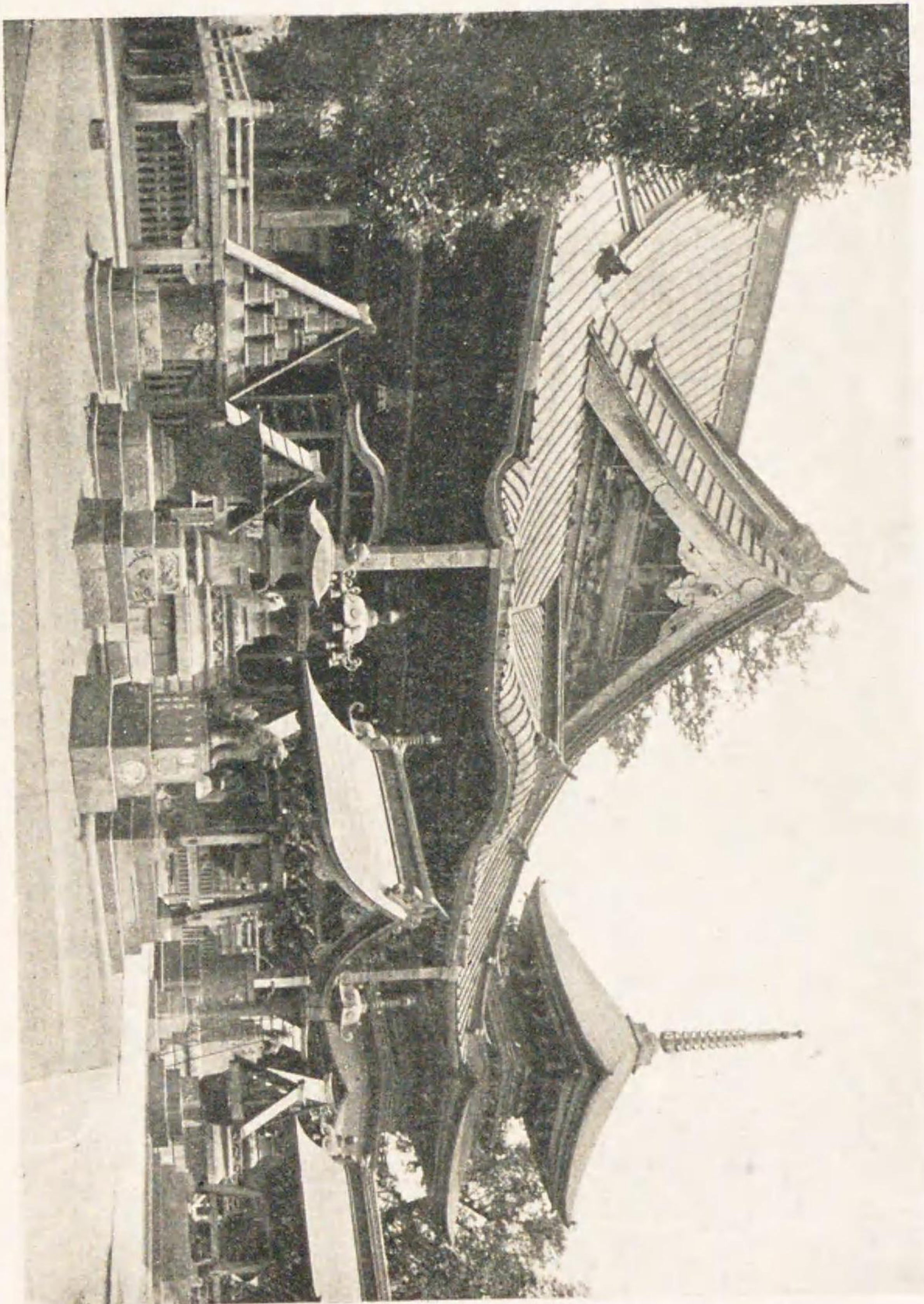
この線は佐倉から分岐し、關東第一の流行佛で名高い成田を経て我孫子に至るものと成田から佐原に至るものとの總稱である。成田山參詣客の爲には兩國橋から十回と、別に上野から我孫子經由で十二回の各直通列車がある。何れも二時間を要する。

成田 (なりた) 佐原方面及成田鐵道接續點
▼成田不動 東約一軒、電車六錢、別に乗合自動車がある。本尊不動明王は嵯峨天皇の御宇、弘法大師が一刀三禮の下に彫刻したものと傳へられ、本堂は五間五面入母屋造、銅板葺、結構壯麗である。斷食堂や、節分會の豆撒の賑ひなど世に知られてゐる。

旅館 大野屋。梅屋。
名物 栗羊羹。

▼宗吾靈堂 西四軒、成田鐵道電車十三錢、別に京成電車もあるが稍離れてゐる、又乗合自動車もある。義民木内宗吾とその妻子とを祀り、香華の絶えることがない。附近に宗吾の舊宅がある。宗吾の義烈に感じた渡守甚兵衛が藩命を犯して彼を渡したといふ甚兵衛渡しは堂の北二軒餘のところにある。

成田鐵道 成田から八日市場まで三〇軒一、途中三里塚から八街まで一三軒八。三里塚 (さんりづか) ▼下總牧場 驛を中心として約四〇萬アール(四千町歩)、數々の名馬を産し産馬界にその功績を認められて居り、尙場内五萬本の櫻によつて花の名所として知られてゐる。



成田不動

る、花下に放牧馬の悠遊する様は畫中の景である。▼芝山仁王尊 八軒自動車がある。天台宗に屬し、山門の仁王尊によつて名高い。染井(そめい) ▼貝塚 驛附近、太古民族の遺跡で小丘の全部が貝殻から成つてゐる。多古(たこ) もと久松氏一萬二千石の城下。▼多古の城山 驛附近、千葉胤宣その子胤直と共に悲惨な最後を遂げたところ。▼妙光寺 驛附近日蓮宗の巨刹、「御肉鬚の御祖師」を安置する。▼日本寺 一軒三、法華三正山の一。▼妙興寺 一軒七、日蓮宗の名刹、寺内に加賀見山お初の墓がある。▼山倉大六天 約八軒、乗合自動車がある、傳教大師の開基といひ「悪疫退治のお守り」は有名である。▼飯高檀林 四軒、日蓮宗關東十八檀(いひたか) (しもふさよしだ)

總 武 線

林の一。▼七面大明神 安産の神。

安食 (あじき) ▼印旛沼 驛から半軒、周

回六〇軒餘、沼に沿うて佐倉、酒々井、下總松崎、安食の各驛があるがその内最も近いのは安食驛である。沼には鮒、鯉、鯰、鰻などを産する、又一種の淡貝もある。舊幕時代之を開拓して水田にする計畫が空しくなつたのは有名な話である。

木下 (きおろし) こゝは下利根の沿岸手賀

沼の水が注ぐところで寛文(二六〇餘年前)の頃はこゝで船を仕立て、鹿島、香取、息栖の三社及銚子浦に遊覽する者が多く繁盛を極め同時に銚子方面から利根川を溯つて魚類を江戸に搬出する陸揚地であつた。

布佐 (ふさ) ▼手賀沼 約半軒、次の湖北驛まで線路に沿ひ、鰻、鯰、鯉などを産する、冬

は雁や鴨がゐる狩獵家が集る。

滑河 (なめがは) ▼滑川觀音堂(天台宗)

約一軒、坂東二十八番の札所で、仁王門は國寶。

▼別格官幣社小御門神社 南二軒餘、自動車がある。吉野朝の忠臣藤原師賢を祀る。

佐原 (さはら) 北總第一の繁華地、兩國橋

から約三時間を要する。利根水路交通の要衝である。本邦地理學の泰斗伊能忠敬翁はこの地の出身で家に翁の遺品がある。附近には景勝の地が多く香取、鹿島に詣でる人や水郷探勝客などで賑はつてゐる。

旅館 金田樓、木内樓。

▼官幣大社香取神宮 東三軒六、自動車が行復してゐる。經津主命を祀る。社殿は權現造。境内は老杉にかこまれて神々しく參道の兩側は櫻の並木

で花が美しい。櫻馬場は流鏑馬を行ふ苑地で香雲閣がある。閣上から北は、香取浦から水郷一帯、西は遙かに筑波の先峯が見渡される。旅館 笹川屋。

▼官幣大社鹿島神宮 佐原から汽船四十五錢、牛堀潮來を経て大船津に着く、和船で行けばこの邊一帯水郷の情趣に浸つて一層興が深い。モーター船貸切往復八圓以上十五圓、神宮は大船津から二軒、宮は香取と併稱される關東の大社、武甕槌命を祀る拜殿は入母屋造、本殿は流造、域内老松古杉並び立ち神寂びてゐる。清冽な御手洗の池、鹿島七不思議に名高い要石などの名所がある。旅館 小堀、鹿島館。

潮來 踊 (常陸)

潮來出島の真菰の中で、アリヤサー

草薙咲くはしほらしや、シヨンガイー

揃うた揃うたよ、踊子がそろた

踊子「アリヤサー

秋の出穂より好くそろた

踊子「シヨンガイー

(合唱)よく揃た、秋の出穂よりよく揃た。

シヨンガイー

しほらしや、草薙咲くはしほらしや

シヨンガイー

潮來出島のさんざら真菰、アリヤサー

誰が刈るやら、うすくなる、シヨンガイー

うすくなる、誰が刈るやらうすくなる

シヨンガイー

八街 (やちまた) 成田鐵道はこゝから三里塚

に至り更に八日市場に行く。

日向 (ひらが) ▼布田藥王寺(顯本法華宗)

西南約三軒、眼病に靈驗があるといはれ毎年九月七

日の施餓鬼には參籠者が多い。

成東 (なるとう) 東金線はこゝから岐れ、大

網に至つて房總線に接続する。(東金線記事大網驛参照) ▼浪切不動尊 東南半軒餘、自動車がある、

奇岩相倚る一小丘の上に朱塗の堂宇が聳え、登れば兩總の山水が眸中に入る。▼成東鑛泉 不動堂の下にある、胃腸病などに効く。

旅館 成東館。

八日市場 (やうかいちば) 成田鐵道接続點。

干潟 (ひがた) 附近は干潟八萬石の稱があり

落花生、甘藷などの産出で知られてゐる。

旭町 (あさひまち) ▼九十九里濱 南約三

軒三。

飯岡 (いひをか) ▼岩井不動尊 北約三軒、

自動車がある、弘法大師の建立、大師修行の際現出

したといふ四十七條の瀧は今僅かに數條を残すに過ぎないが腦病に靈驗があるといつて參詣者が多い。
 ▼飯岡海水浴場 東六軒自動車がある、九十九里濱の盡きる所、遙に犬吠岬と相對して風光がよい。
 松岸 (まつぎし) 往時利根川上下の舟が繫泊したところ、今は川畔りの妓樓に昔の名残を止めてゐる。

銚子 (てうし) 一一七軒二 銚子鐵道接續點。

この線は外川まで六軒四、銚子は利根川の吐口、本邦最東の岬端、町は東海岸の要港として水陸の便を備へ漸次發展した。附近の海岸美によつて來遊者も多く又こゝから利根川及霞ヶ浦沿岸への汽船便があり、利根の大江を溯つて鹿島、香取、息栖の三社巡りをするも興が多い。尙こゝの醬油は品質及産額の多い點に於て名聲があり、その他銚子縮、海産物、

甘藷、メ粕、肥料、瓦、石材、籐表下駄などがある。旅館 銚子館、川安。

名物 烏賊、鰹、鰹の鹽辛、醬油、甘露びしを。

磯巡り 銚子の海岸は勝地多く、その風光を巡覽するのを銚子磯巡りといふ。行程約一六軒、飯沼觀音は東一軒三、自動車がある、銚子鐵道四錢、銚子第一の大伽藍である。川口明神は東一軒七、銚子川口は東四軒、眺望がよい。旅館 川口館。銚子無線電信局は東四軒、目戸ヶ鼻臺上にある。犬吠岬燈臺は東南六軒、自動車がある、銚子鐵道二十錢、銚子鐵道犬吠驛から約一軒、君ヶ濱の盡きるところ、岬端海拔五十一米の燈臺あり、光力六十三萬燭光、光達距離三六軒八、毎日午前十時と午後二時に觀覽を許してゐる。犬吠岬に連る一帶の松林を後にし縹緲たる海波を望む所を酉明ノ濱といひ、附近の犬若、黒

生、外川の濱など何れも海水浴の適地である。又大岩から徒歩二十分の愛宕山は展望臺としてよい。

旅館 曉鷄館、御風館、犬吠館。

大漁節 (下總)

- 一ツトセ 一番づゝに積立て、川口おしこむ大矢聲、此の大漁船、コリヤ〜イ
- 二ツトセ 二葉の沖から外川まで續いて押こむ大矢聲、此の大漁船、コリヤ〜イ
- 三ツトセ 皆一同にまゆをあけ、かよはせ船の賑かさ、此の大漁船、コリヤ〜イ
- 四ツトセ 夜ひる焚いても焚き餘る、三ばい一ちよのおほ鯛、此の大漁船、コリヤ〜イ
- 五ツトセ いつ来て見ても干鯛場は、あき間もすぎ間も更らない、此の大漁船、コリヤ〜イ

房總線

驛名の下に記した軒程は千葉からの近距離による

千葉 (ちば) 總武本線分岐點。

蘇我 (そが) ▼大巖寺(淨土宗) 一軒六、關

東十八檀林の一。

大網 (おほあみ) 二三軒二 東金線分岐點。

▼本國寺 西方約一軒、顯本法華宗の古刹、江戸時代寺内に大檀林を開き、宮谷檀林の名海内に知られたところ。

東 金 線

東 金 (とうがね) 九十九里軌道接續點。

▼八鶴湖 驛附近、湖中の一小嶋に辯才天を祀る湖の周圍にある櫻は附近の名所である。

九十九里軌道 東金から太平洋岸上總片貝まで八糎五。

上總片貝 (かづさかたかひ) 片貝町は漁業

地として九十九里沿岸中第一位を占めてゐる、尙海水浴場としても好適のところ。

旅館 片貝館、加納屋。

茂 原 (もはら) ▼藻原寺 西一糎七、自動車

がある。日蓮宗の巨刹、俗に東身延といふ。▼鷲山寺 藻原寺に近く日蓮宗八品派の大本山である。

▼稱念寺 約五糎、浄土宗の別格本山。▼笠森寺

内に犬吠岬を眺められる。岬脚暗礁亂立、怒濤之に激して舟行甚だ危険である。

旅館 太平館。

長者町 (ちやうじやまち) ▼海水浴場 東南一

糎七。

旅館 小松館、梅本樓。

三 門 (みかど) 附近一帶は海水浴に適し、まだ俗化してゐない。

大 原 (おほはら) 一帶の海濱は南總隨一の海

水浴場である、東約一糎、自動車がある。▼八幡岬

驛から一糎、絶壁岬々として海中に突出して遙かに

太東岬と相對し眺望の變化に富んでゐる、岬頭には

譽田別命を祀る八幡神社の祠がある。▼大聖寺不動

堂 東約八〇〇米、名匠建田番匠の手に成り框間三

間造り、内部の施工珍らしく、國寶である。▼大多

西一二糎、自動車あり、天台宗、上總屈指の靈刹、觀音堂の柱礎四面皆懸崖に架造し、構造異様で國寶になつてゐる。

旅館 大和、武田。

上總一ノ宮 (かづさいちのみや) もと加納氏一

萬三千石の城下。▼國幣中社玉前神社 西北半糎、祭神は玉埼神で、碧波縹緲とした九十九里濱は社境

から程近い。▼一ノ宮海水浴場 東一糎七、一宮川から舟便がある、一ノ宮川口附近は避暑、避寒地として知られてゐる。

旅館 一ノ宮館、一ノ宮俱樂部、青松館。

太 東 (たいとう) ▼太東岬 東約三糎、太平

洋に突出して高さ約四〇米の懸崖削るが如く遠く北總飯岡岬と相對して九十九里濱の起點をなし、その間六六糎、長汀白砂一丘の隆起するなく時に烟霞の

喜町 西北二〇糎、もと大河内氏二萬七千石の城下で自動車が通つてゐる。

旅館 竹樓、花村、綿屋、翠松館。

御 宿 (おんじゆく) ▼網代灣 半糎余、日本

三網代灣の一にして灣内水清く波靜かで月の名所である。

勝 浦 (かつうら) 七一糎三 勝浦灣に臨む近

海は鱈、鯉の漁場である。海濱は櫛濱といひ、海水

浴に適する。灣内一帶の風光よく眺望は驛の南丘明

神山に登つてするがよい。▼高照寺の乳銀杏 東北

一糎半。

旅館 勝浦館、一文字屋、松野屋。

鶉 原 (うばら) 驛附近鶉原理想郷がある。

旅館 鶉原館。

上總興津 (かづさおきつ) ▼妙覺寺 西南八八

○米、日蓮宗最初の寺、毎年九月十二日の御難會は賑ふ。

▼興津海水浴場 驛附近。

名物 興津人形。

安房小湊 (あはこみなと)

▼誕生寺 (たんじやうじ) 一軒半、

自動車十五錢。小湊山の麓にあつて堂宇壯麗である。境内に日蓮の誕生井戸がある、貞應元年(約七〇〇年前)日蓮上人誕生の場所。▼妙ノ浦 誕生寺附近の海濱で日蓮が鯛漁を禁じたところと傳へ、近海の鯛が多くこゝに集まり、大なるものは長さ一米以上に及ぶものがあり、舟行數百米、舷を叩いて餌を投ずれば群を成して浮び來る、この鯛は指定の天然記念物である。海上乗合船賃一人二十五錢。

旅館 清海樓、小湊ホテル、伊勢屋。

▼おせんころがし 誕生寺の東三軒餘、附近一帯地

勢急峻、妙景に富んでゐる。この地方の口碑によれば昔お仙といふ孝女があつたが、この斷崖の上で草刈中、烈風に襲はれて崖下に墜落したのでこの名があるといふ。

安房天津 (あはあまつ)

▼清澄寺 (せいじやうじ) (新義眞言宗)

北六軒餘、自動車往復一圓四十錢。清澄山(海拔三六三米)の頂上にあり、伽藍壯大。寺内に安置する虚空藏尊は不思議法師手彫のもので日本三虚空藏の隨一である。こゝから見た房總半島の大觀は立派である。寺邊の朝日の森は日蓮上人が太平洋上の波濤に躍り出た旭日光に對し「南無妙法蓮華經」と立宗大願の第一聲を擧げたといふので名高い。

旅館 (天津) 油屋。(清澄山上) 清澄館、小梅館。

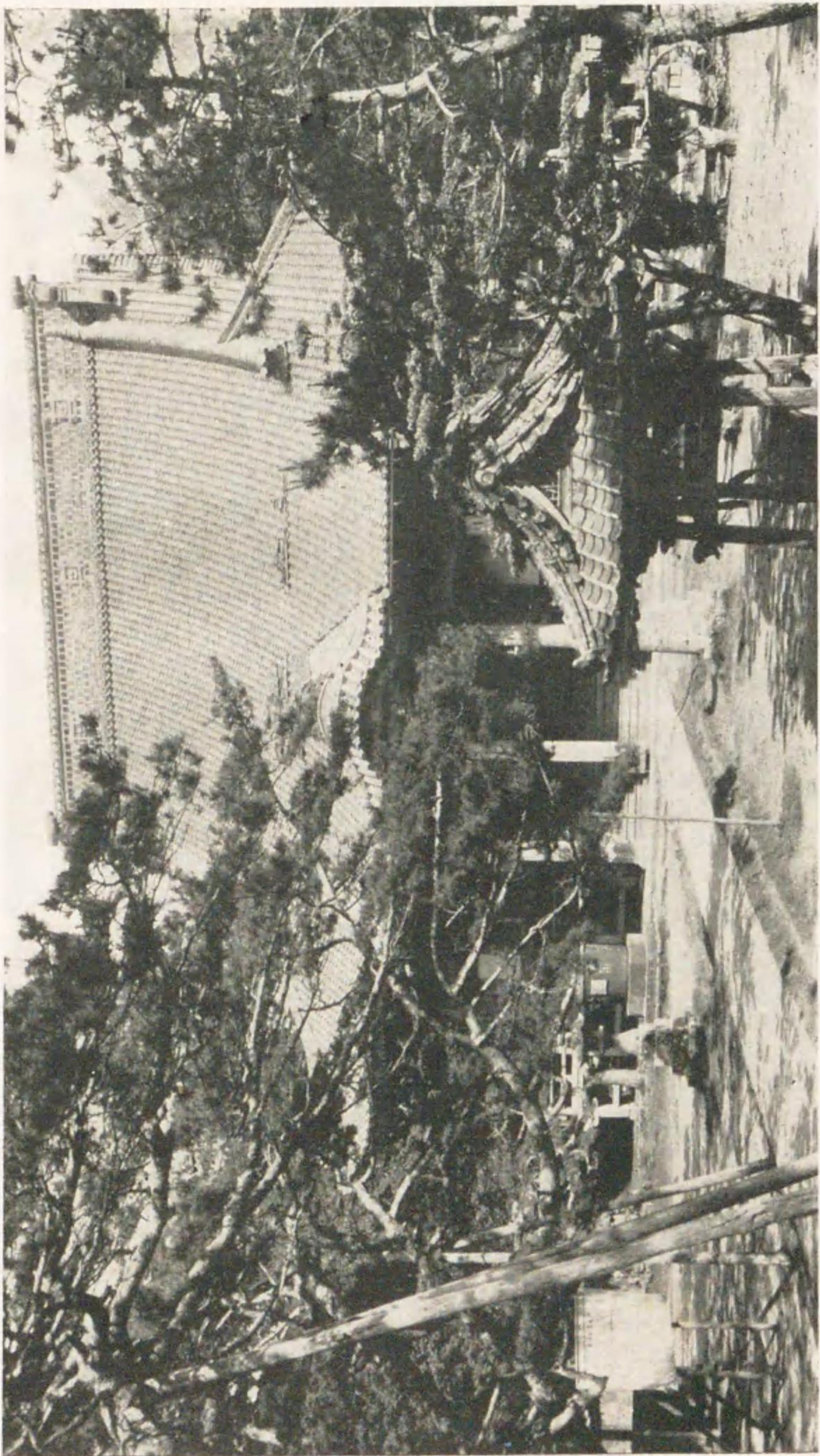
安房鴨川 (あはかもがは)

九三軒六 太平洋に

面した風光のよいところ。▼鏡忍寺 (きやうにんじ) 西北八八〇米



寺 澄 清



文永年間（約六六〇年前）工藤吉隆及日蓮の子鏡忍
殉教の地であると共に日蓮上人四大法難中の一遺蹟
である。旅館 吉田屋、相模屋。

太海（ふとみ） ▼仁右衛門島 東南半軒、海岸
から一〇〇米餘を隔て周圍約一軒二、治承四年（七
五〇年前）源頼朝石橋山上に敗れてこゝに逃れ島主
仁右衛門が匿まつたと傳へる、太平洋の怒濤に洗は
れ風光がよい、渡船賃往復二十錢。

江見（えみ） 北は秋葉山、犬塚山など蜿蜒連
互し南は渺茫たる外洋に面し、そこには大小の島嶼
點々とし北方の連山と近く相對し、山水の景勝に富
み眺望絶佳。▼鹽屋子安觀音しほやこやすくわんのん 西一軒三、子寶、安
産の佛として近郷からの參詣者が多い。

和田浦（わだうら） ▼大久保遊園地 驛附近、
外房の大洋に面し伊豆諸島を望み得て眺望雄大。

千倉（ちくら） ▼千倉鑛泉 南二軒二、自動
車がある、皮膚病に効く。附近眺望佳。
旅館 千倉溫泉旅館。

安房北條（あはほうでう） 九〇軒一 安房第一
の都會で鏡ヶ浦かみうらに臨み、海濱は驛から三〇〇米、波靜
かに渚清く海水浴の適地である。旅館木村屋、幸田
館。名物枇杷の罐詰、枇杷羊羹。▼館山町たてやままち 西南約
三軒、もと稻葉氏一萬石の城下で北條町の南に續き、
里見氏の居城地で附近にはその史蹟がある。▼安房
高野山 西南約三軒、自動車がある。館山町にあり、
境内櫻楓多く山上の眺望がよい。▼官幣大社安房神
社 西南一二軒、自動車六十錢、安房開拓の神あめのかむと天太
玉命を祀る。▼安房南海岸 北條から南、布良、根
本、白濱、乙濱、白間津、平磯などの海岸を経て千
倉に出るは興味ある旅行で、自動車が通つてゐる。

▼野島崎燈臺 自動車の便がある。房總半島の南端にあり、光達距離三三軒。

那古船形 (なごふなかた) 鏡ヶ浦に臨み驛から直ちに海水浴場へ行ける。▼那古寺 東半軒、那古

山の中腹にあり、坂東三十三所観音の一、展望濶大である。▼延命寺 四軒、里見氏の菩提寺、典籍遺器を藏する。▼崖の観音 約一軒、北嶺山々腹、自然岩窟中に堂宇があり、高い絶壁をなして、伊豆諸島が一眸の中に入る。

旅館 山田屋、大黒屋。

岩井 (いはゐ) ▼高崎鑛泉 約一軒、旅館清涼館。

▼富山 山麓まで約二軒、自動車がある、海拔三四二米、八犬傳で著名な山で、伏姫の岩窟などがある。山頂の眺望がよく、附近枇杷の産が多い。

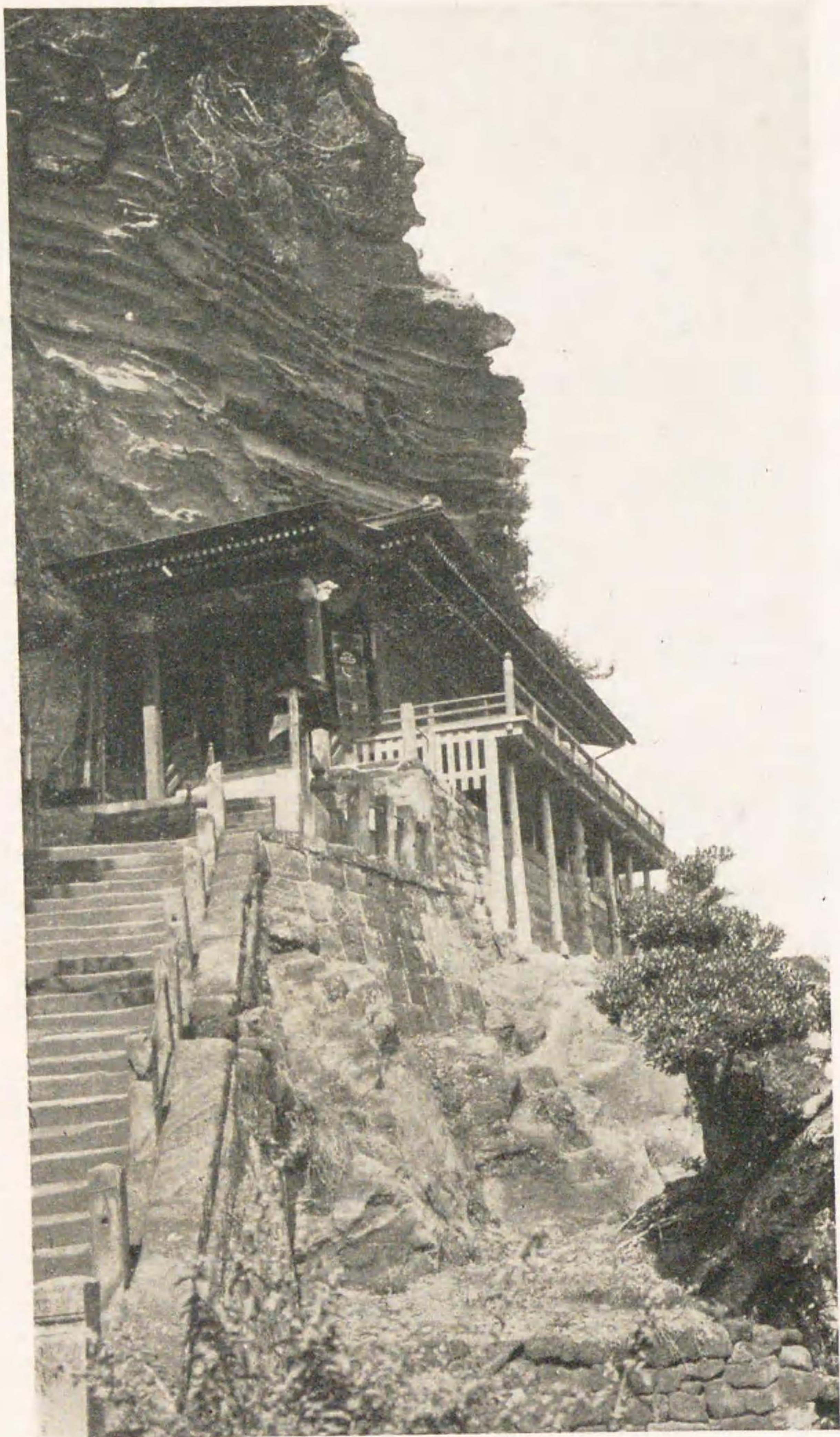
旅館 富山閣。

安房勝山 (あはかつやま) もと酒井氏一萬二千石の城下で、灣内左に龍島の奇勝があり、浮島その灣口を扼し風光頗るよく海水浴に適し、避暑避寒の適好地である。

旅館 稻松樓。

保田 (ほた) ▼鋸山 山麓まで約二軒、表道

で登山容易、濱金谷驛からは裏道で峻坂である。山は海拔三二四米、東京灣の門戸を扼し、山骨露出腰部から上は分れて數峯となる。峯の背は恰も鋸齒を列ねたやうである。半腹に乾坤山日本寺があり、聖武天皇の勅願所で行基の創建。今その域内を公園とし風景頗る奇、山の西端は明金岬といひ、嶋岩海中に斗出し、眺望最も壯偉、十州一覽臺の名があり、富士の秀峯を雲表に仰ぎ、函嶺、天城、淺間、日光、筑波の諸峯を一眸に收め得られる。



船形觀音



三 六 大 壱

▼妙本寺(本門宗) 南二軒餘。

旅館 松音樓、保榮館。

上總湊 (かづさみなと) 約一軒、海濱風光に富

み、遠淺で水清く海水浴に適する。

旅館 福本樓、萬歳樓。

佐貫町 (さぬきまち) もと阿部氏一萬六千石の

城下。▼鹿野山 東四軒、自動車一圓、海拔三五二

米、幽邃の境で山上に神野寺(眞言宗)あり、その

四脚門は國寶である。寺の門前を山宿といひ旅館軒

を並べ、避暑客が多い。

旅館 大塚屋、丸七旅館。

青堀 (あをぼり) ▼青堀鑛泉 半軒餘、ラヂ

ウムを含有し皮膚病、婦人病に效く。旅館 靜養園、

喜樂。▼富津 沙洲海岸に斗出すること約三軒、三

浦半島の觀音崎と相對し風光がよく、避暑避寒の好

適地である。

木更津 (きさらづ) 三五軒五 久留里線分岐

點。上總西海岸第一の繁華地、日本武尊東征の際、愛

妃弟橋 姫を海神の爲に失ひ、悲しみに堪へず海洲

をさまよひ給ひ、去るに忍びざる御有様であつたか

ら、後人君不去と名づけたのが地名の起りだと傳へ

る。海岸へは約半軒餘、眺望がよく海は遠淺であ

る。▼吾妻神社 北一軒七、弟橋 姫を祀る。

旅館 鳥飼、寶屋、石井樓。

名物 干海苔、蜷刺目(蜷の目刺)、梅びしほ。

木更津甚句

ア、木更津照るとも、東京はくもれ

可愛い男が、ヤツサイモツサイ、ヤレコラゴツコイ、

コリヤコリーヤ、未だ見ぬ。

總武線

久留里線

上總清川、横田、馬來田、小櫃、俵田を経て、亂山重疊の間にある久留里まで約一時間を要する。馬來田（まくた）▼下足阿彌陀如來 驛から一軒七、佛體は毘首羯摩の作で印度から傳はつたといふ、婦人病に御利益あり、毎年八月十四日の縁日には近郷から參詣客が多い。久留里（くるり）小櫃川上流の名邑でもと黒田氏三萬石の城下。▼久留里城址 驛から一軒餘、城山公園ともいふ。里見、松平、土屋、黒田氏が相次いで城主だつた處である。旅館 山徳屋、金子屋、松井屋。

五井（ごゐ）もと有馬氏一萬石の城下。小湊鐵道接續點。

坂東三十三所觀音

- 第一番 杉本寺 横須賀線鎌倉驛から約二軒餘。
- 第二番 岩殿寺 横須賀線逗子驛から約一軒餘。
- 第三番 田代寺 横須賀線鎌倉驛から電車大町停留所下車約六〇〇米。
- 第四番 長谷寺 横須賀線鎌倉驛から電車長谷停留場下車三三〇米。
- 第五番 勝福寺 熱海線鴨宮驛から約二軒。
- 第六番 新長谷寺 東海道線横濱驛から神中鐵道又は自動車にて厚木に到りそこから約八軒。
- 第七番 光明寺 東海道線二宮驛から湘南軌道は又自動車にて秦野に到りそこから約一八軒。
- 第八番 星谷寺 中央線新宿驛から小田原急行電鐵により座間停留場附近。
- 第九番 慈光寺 山手線池袋驛から東武鐵道東上線松山驛下車約一八軒、自動車の便がある。
- 第一〇番 正法寺 同東上線高坂驛下車約二軒餘。

總武線

小湊鐵道 五井から房總第一の養老川に沿うて上總中野まで三九軒一、尙この鐵道は房總線安房小湊まで延びることになつてゐる。沿線柿を産し又養老川は鮎漁が出来る。鶴舞町（つるまひまち）もと井上氏六萬石の城下、丘陵の上にある小さな町である。八幡宿（やはたじゆく）▼縣社飯香岡八幡宮 驛附近、譽田別尊、息長足姫命、玉依比賣命を祀る。社殿壯麗、東京灣の靜波に臨む、境内梅樹多く、又陰陽合抱の大公孫樹があり、海濱は袖ヶ浦の一部である。旅館 東屋。

- 第一番 安樂寺 高崎線鴻巣驛から約八軒。
- 第二番 慈恩寺 常磐線北千住驛から東武鐵道粕壁驛下車約四軒自動車がある。
- 第三番 浅草寺 東京市電雷門停留場前。
- 第四番 弘明寺 横濱市電弘明寺停留場附近。
- 第五番 長谷寺 信越線高崎驛から市電により白岩方面行自動車發着所前下車、こゝから約二軒餘。
- 第六番 水澤寺 上越線濱川驛から伊香保行電車により水澤停留場下車、約四軒。
- 第七番 満願寺 兩毛線栃木驛から鍋山まで人車鐵道及自動車の便がある、鍋山から約六軒。
- 第八番 中禪寺 日光線日光驛から一六軒、自動車の便がある。
- 第九番 大谷寺 東北線宇都宮驛から八軒、自動車、軌道の便がある。
- 第二〇番 西明寺 眞岡線益子驛から約三軒。
- 第二一番 日輪寺 水郡南線常陸大子驛から町まで自動車

總武線

第二番	佐竹寺	あり、そこから約二〇軒餘。
第三番	立勝寺	水郡南線河合驛から約二軒餘。
第四番	樂法寺	水戸線笠間驛から約二軒。
第五番	大御堂	常磐線土浦驛のりかへ筑波鐵道雨引驛から約三軒
第六番	清瀧寺	同筑波鐵道筑波驛から約三軒餘、自動車がある。
第七番	圓福寺	同筑波鐵道常陸藤澤驛から八軒。
第八番	龍正院	總武線銚子驛から約二軒餘。
第九番	千葉寺	成田線滑河驛から約一軒半。
第十番	高蔵寺	總武線本千葉驛から約二軒。
第十一番	笠森寺	房總線木更津驛から約一二軒。
第十二番	清那古寺	房總線五井驛から小湊鐵道にのりかへ鶴舞町驛下車約四軒。
第十三番	那古寺	房總線長者町驛から約六軒。
		房總線那古船形驛から約二軒。

寺に就いて

寺は佛像を安置する建物の稱で、精舎、道場、伽藍などいふ。我國に於ける最初の寺は、欽明天皇の十三年に蘇我稻目が大和向原の自宅を捨て、寺院としたのが始めである。爾來公私の造寺、造佛が盛に行はれ、推古天皇の三十二年には四十六ヶ寺、鎌倉幕府の頃は一萬三千餘、徳川幕府時代には四十餘萬の巨數に達した。寺院を建立するにはその境内を結界するを例とする。結界とは佛の法を以てその地域を清淨にすること、結界の内へは多く女人の出入を禁じてゐる。すべて寺には稱號があり、大抵一寺一號であるが、往々一寺で數號を稱するものもある。年號を以て寺號とするのは必ず勅願寺に限られてゐるが後世に至つてさうでなくて寛永寺、元祿寺など、いふのが出來たがこれは勅願寺に準じたのである。また寺には山號がある。初めはその所在の山を呼んだのにつたのであるが後世には山上になくても別に山名を稱した。また院號もある、後世に出來た寺は寺、山、院の三つを兼有してゐるが、この外に堂號、庵號、軒號、齋號などを以て呼ぶものもある。

磐越線

- 一 磐越東線 郡山 平間 八五軒六
- 一 磐越西線 郡山 新津間 一七六軒三
- 一 會津線 會津若松、會津柳津間 三三軒三
- 一 西若松、上三寄間 一〇軒五

東北本線郡山から左右に岐れて、一は平に至つて常磐線に接し、一は新津に至つて信越線、羽越線に接し、常磐線、東北本線、信越本線、羽越線を連絡する線で、日本海と太平洋を連絡させる東北地方横斷鐵道の一である。

磐越西線

この線は東北本線郡山から分岐し、磐梯山の麓猪苗代湖畔を走つて會津若松に至り、それから阿賀野川に沿うて新津に至り信越線、羽越線に接する線で、上野、新潟間には信越線の外に、この線を通じて三回の直通列車があり、十二時間を要する。

郡山を後にして熱海から峯巒重疊の間を走り、中山宿を経て上戸に至れば、初めて猪苗代の湖光に接し、關戸に至れば右方又磐梯山の半空に聳えるを仰ぐ、翁鳥を出てからは鐵路稍下りとなり、會津盆地は車窓の眺めに入る、盆地の中心は會津若松である。若松からは鐵路會津盆地を横ぎり、右に猫間ヶ嶽の岬々たるを仰いで進み、山都から初めて阿賀川に沿ふ。萩野を過ぎてこれを渡る。野澤を後にすれ

磐越線

ば風光の美漸く加はり、上野尻からは再び峯巒の間に入り、阿賀川の峡谷に沿うて走る。徳澤を過ぎて更に川を渡るところは即ち岩越の國境で、豊實からは急傾斜の山腰に沿うて迂繞し、左旋北行飯豊山脈の一脈延びて河溪に突出する所、隧道を穿つて日出谷に出る。線路は左折して三たび川を渡り、延長約二軒、本線最長の平瀬隧道を過ぎ四たび川を渡つて津川に出る。津川から白崎までの沿岸特に峡谷美に富む。五たび川を渡つて五十島を過ぎ馬下に出づれば、漸く峡中隘谷の境を脱して廣濶なる越後平野に入り五泉を経て、沿道油井櫓の林立するを見つ新津に達する。列車は郡山、新津間五時間乃至五時間半を要する。

郡山 (こほりやま) 東北本線及磐越東線の分岐點。

岩代熱海 (いはしろあたま) ▼熱海温泉 驛前胃腸病、神經諸病、皮膚病などによい。旅館 一力ホテル、松本屋、東館、元湯、榮樂館。▼高玉温泉 西北約一軒、自動車の便がある、胃腸病、婦人病などによい、秋季紅葉の美がある。旅館 蓬萊館、春山館。▼高玉鑛山 東北約四軒、日本鑛業會社經營の金銀鑛山で年産額百萬圓。▼安積山スキー場 西南約四軒餘、期間一月から三月上旬まで。

上戸 (じやうこ)

猪苗代湖舟遊 西八〇〇米、湖は周回六八軒、海拔約五一四米の高所にあり、磐梯の山影湖面に映じて、山光水色の美がある。湖上一周に約四時間を要し、五十人乗和船一隻に發動機船を附し賃金二十五圓、三十人乗和船一隻を附けるときは更に七圓増。上戸濱から舟津、福良を経て翁島を廻り、戸ノ口、

小平瀨に立寄つて上戸に寄港する。小平瀨には小平瀨天満宮があり、東約三軒で關都驛に出られる、戸ノ口から翁島驛へは三軒三である。毎年七月から九月まで、避暑及探勝を目的とする人々のために上戸濱(上戸驛下車)から湖の風景を代表する赤崎を経て長濱に至る汽船を運行し省線と一時限の連帶運輸をする。(長濱に上陸翁島驛から乗車)

川 桁 (かはげた) 日本硫黄耶麻軌道(川桁、沼尻間一五軒六) 接續點。本軌道の終點沼尻の東北六軒に日本硫黄會社の經營する沼尻硫黄山がある。年産額二十二萬圓。

耶麻温泉巡り この温泉めぐりは主に耶麻軌道による。川上温泉はその樋ノ口から五軒、徒歩を要する、猪苗代驛からすると西北一〇軒である。こゝは磐梯登山口で噴火後の實況、並に小野川、秋元、檜

原三湖を眺望する。旅館瀧ノ湯、湯本。こゝから尙四軒で磐梯山の中腹に磐梯温泉があり、この方面からの磐梯登山が出来る。

中ノ澤温泉は沼尻から約一軒、自動車の便がある。旅館 西村屋、花見屋、白城屋、朝日屋、平澤屋、翁屋、安積屋。

沼尻温泉は沼尻から二軒餘、中ノ澤から約一軒、徒歩容易である。早大山岳スキー部の開設以來我國有数のスキー地として知られ早大初め各スキー俱樂部が合宿して冬季は頗る賑ふ。安達太良山登山及吾妻山越五色温泉へのスキー旅行などによい。近くに湯沼の壯觀が見られる。

旅館 田村屋。

横向温泉は沼尻から五軒、山路徒歩を要する。旅館瀧川屋。横向から約四軒で野地温泉に出る、旅館

加藤屋。更に八軒で土湯温泉に出る、土湯からは吾妻山東麓の温泉廻りが出来る。(奥羽線庭坂驛参照)

猪苗代 (みなはしろ) ▼猪苗代城址 北約二軒

自動車の便がある。猪苗代町にあり、猪苗代湖を望む形勝の地で、今猪苗代公園又は龜ヶ城公園ともいはれる、もと鎌倉時代の築城で、徳川時代からは會津若松の支城として城代が居つた。▼縣社土津神社 猪苗代城址の北約一軒半、西見禰山にあり、會津若松藩主保科正之を祀る。猪苗代湖を見晴す形勝の地である。

旅館 伊勢屋、江戸屋。

磐梯登山、磐梯山は海拔一、八一九米、山の中腹

からは登路急峻であるが頂上に至れば四望開闊、北側に見える檜原、小野川、秋元の三湖は、明治二十一年七月大噴火の時、檜原川、長瀬川などの溪谷

を塞いで出来た湖である。登山口は東西北の三つがある。

(一)東口 これは最も容易な路で指導標が完備してゐる。驛から頂上まで一〇軒半、二軒餘の土津神社に至れば、こゝから約六軒、案内人あり、神社から一合目天ノ岩、天狗の堀割を経れば二合目赤埴山頂に達する。猪苗代一帯の風光が眼下に展ける、山を下り沼の平に出で烏帽子岩を左に見て登れば三合目の天狗岩に至る。北方に湖水が美しく見える、脚下には噴火口があつて斷崖壁立して硫黄の臭氣鼻を衝き噴煙の音響を聞く、四合目の弘法の水から登路半軒餘で山頂に達する、驛から頂上、噴火ノ湯、大噴火口經由約九時間を要する。

(二)西口 翁島驛から八軒、行路急峻ではあるが最も近路である。驛から押立温泉に近く猪苗代から

来る道と合し、中腹の拜殿に達する。之から山谷道

つて路は愈々険しいが、鬼ヶ膝を攀ちて賽ノ河原に至れば展望開闊となる。それから岩角を繞つて東北に進むこと三軒餘で頂上に達する。驛から頂上の噴火ノ湯へ大噴火口を經由して、約七時間半を要する。

(三)北口 川桁驛から川上温泉を経て山路火山岩を踏んで進む、噴火後の實況はこの口に於てよく見える、噴火口を経て道を左に取り、中ノ澤の湯を過ぎて丸森、湯桁の谷間を辿り、絶頂の北裏で東口に合ふ。行程一四軒。

翁島 (おきなじま) 磐梯山を後に仰ぎ前に猪

苗代の湖光あり、近年避暑地として知られて来た。磐梯登山の西口。▼西ノ澤温泉 約半軒、鹽類泉、旅館西ノ澤。▼長濱、(猪苗代湖畔)南五軒、自動車三十六錢。風景よく高松宮家の御用邸がある。附近

に名倉山、翁島などの勝地がある。旅館烏萬、湊屋會津屋。▼野口英世博士誕生地記念碑 南二軒半。

▼押立温泉 北二軒、磐梯山の裾にあり、神經諸病、婦人病などによい。附近磨上原はスキーの適地であり、磐梯山へスキー登山が出来る。旅館鷺ノ湯、山形屋。尙こゝで會津領主蘆名義廣が伊達政宗に敗れた際、忠死した蘆名方三勇士を弔ふために建てた三忠碑がある。▼磐梯温泉 約八軒、旅館は冬季休業する。

大寺 (おほでら) ▼東京電燈猪苗代第一發電所 東南一軒七。▼東京電燈猪苗代第二發電所 西一軒七。同第三發電所 西北約三軒。▼日本曹達株式會社會津工場 西約半軒。▼惠日寺(眞言宗) 北約一軒半。弘仁年間(一、一〇〇年前)の創建で、江戸時代には大きな寺であつた。

廣田 (ひろた) 空也上人の舊蹟 北二軒。

會津若松 (あひづわかまつ) 六五軒三 會津線

分岐點。會津盆地にあり、四面山を繞して自らの別天地、古來要害の地と稱せられ、蘆名、蒲生、上杉、加藤の諸侯相次いでこゝに居り、威を東北に振うたものである。保科正之、二十三萬石の封をこの地に



受けて以來明治維新に至つたが、戊辰の役に大兵をこの一城の下に集めて苦戦旬日、會津武士の氣風尋常ならざるものあるを示した。

人口四萬七千(四、三調)會津塗、會津燒、藥用人參、繪蠟燭、鋸、煙管、綿織物、身不知柿などを産する。漆器は耐久力強く消金蒔繪を用ゐるのが特徴で年産額三百五十萬圓に上り、蒲生氏郷の移封當時大に改善獎勵につくしたのが今日の因を成してゐる。遊覽

には飯盛山、東山、舊城址、市内の順に巡るが便利である。以上廻遊賃金自動車一圓。

旅館 清水屋、伊勢屋、大阪屋、榭屋、湊屋。

▼鶴ヶ城址、南約三軒、自動車がある。もとは黒川城とも稱し、蘆名直盛の築城以來、蒲生氏郷、上杉景勝、加藤嘉明、松平正之等の居城であつた。内郭の大部分即ち本丸の石垣や、濠壘などが現存して當年の雄大を追想せしめる。▼飯盛山 東約三軒、自動車二十錢。明治元年戊辰の役に白虎隊の十有七士が年少の身を以て義に殉じ、封建時代最後の光彩を放つた所で、その墓や碑がある、墓の下に榮螺堂があり、堂の西側宇賀神社には白虎隊の木像を安置する。昭和三年に建つた伊太利首相ムツツリニ氏からの國際的贈物ともいふべき記念塔は、山上に異彩を放つてゐる。▼蒲生氏郷の墓 南一軒七、興徳寺(臨

會津線

西若松 (にしわかまつ)

上三寄方面への分岐點。

上三寄 (かみみより)

▼蘆ノ牧温泉 小谷温泉

泉 南三軒、大川の流を隔て、相對してゐる。

會津本郷 (あひづほんがう) 會津燒及碍子の

産地、年産額約六十五萬圓。

會津高田 (あひづたかだ) ▼龍興寺(天台宗)

南約半軒、寺寶に紙本墨書の妙法蓮華經があり、國寶となつてゐる。▼國幣中社伊佐須美神社 南

一軒半、古來奥州二ノ宮といはれ延喜式の名神で、祭神は大彦命と建沼河別命とである。

新鶴 (にひつる) ▼田子藥師堂 東北約一

軒、室町時代のもので須彌壇及厨子は國寶になつ

濟宗) 市内にある。▼東山温泉 東南約五軒、自動

車五十錢。奥羽三樂境の一、遊樂的の温泉場で、婦人病、リウマチス、神經諸病によい。旅館は湯川の兩岸に建ち並び、秋は紅葉の眺めがよい。温泉附近に二、三小規模なスキー練習場がある。

旅館 向瀧、新瀧、有馬屋、二八屋、福住。

てゐる。

會津坂下 (あひづばんげ) ▼勝常寺薬師堂

(新義真言宗) 東四軒半、自動車がある。會津五薬師の一、室町時代の造替で、本尊薬師如来及脇士日光、月光の二菩薩、聖観音及四天王は本堂と共に皆國寶である。尙観音堂内の木像十一面観音立像も國寶となつてゐる。

塔寺 (たふでら) ▼立木観音 東北一軒餘

堂宇は鎌倉時代の建築物で國寶になつてゐる。

▼調合寺 東約二軒、薬師堂にある本尊は高さ四米の坐像で國寶である。

會津柳津 (あひづやないづ) ▼柳津虚空藏

東南半軒、圓藏寺と稱し、會津地方屈指の大寺である。堂は只見川に臨み巖上に建てる舞臺造の大

堂宇である。二月八日及四月十四日の縁日には雜

沓を極める。辨天堂は室町時代の特徵を具へ國寶である。こゝから磐越西線野澤驛まで西北一四軒

(約半道は縣道、他は山路で車馬の便はない) そこから南六軒の大山祇神社に詣でるがよい。社は正中村舊大久保の山上にあり、參詣すれば人生一代に一度の願望は必ず成就するとて參詣者が多い。

喜多方 (きたかた) ▼熱鹽温泉 北一一軒、自

動車一圓。リウマチス、婦人病、胃腸病などによい。

旅館 笹屋、海老屋、叶屋、榎屋。▼日中温泉 熱

鹽から四軒奥、車六十錢。皮膚病、眼病、創傷などによい。

旅館 湯本屋、中屋。

山都 (やまと)

▼飯豊山 北三二軒、途中一三軒の一ノ木から川入を経て山頂まで一九軒、福島、新潟、山形の三縣に

跨る群峰の總稱で、飯豊山(二、一〇五米)がその

主峯をなしてゐる。山谷が豊かに飯を盛つたやうなのでこの名があり、頂上に縣社飯豊神社がある。登

路は山都驛からと徳澤驛からとの二途がある。別に羽越線の支線赤谷線又は奥羽線米澤方面からも登れ

る。夏季登山者が多く、山骨男性的で谷が深く森林と溪谷とが美しい。山頂には高山植物が多く北に朝

日連峯、西に日本海を望み景觀雄大である。

上野尻 (かみのじり) ▼銚子ノ口 三軒三、阿

賀野川相迫つて峽をなす所で、之から下流數軒の間は巖石層重、崖壁駢列し、紅葉がよい。

豐實 (とよみ) ▼全海堂 北約一軒、菱湯觀

音境内にあり、全海法師の即身佛を安置する。

津川 (つがは)

阿賀川舟遊 津川は阿賀川峡谷の主邑で舟遊はこ

ゝから次驛白崎驛までの間がよい。遊覽經路は先づ

驛の東約二軒の麒麟山城址を訪ねる。城址は今公園となり阿賀川の清流に臨み、斷岩起伏して屏風を立

てたやうで、その形が麒麟に似てゐる。川下りはこの山下に舟を泛べて小花地に至り、白崎に出るので

ある。この間兩岩絶險、岩石亂立、本尊岩、經岩、衣岩、大黒岩、惠比須岩などの勝があり、蒼松その

間に聳え頗る佳景である。夏の躑躅、秋の紅葉は又

一段と景趣を添へる。所要時間約四時間、舟賃午前

七圓、午後二十圓、白崎の次驛五十島まで十圓、何れも貸切である。津川遊船組合に申込むこと。

旅館 菱屋、立花屋。

白崎 (しろさき) ▼御前ヶ鼻 北約一軒、阿

賀川の急流奔激集つて深淵となる所、風光清雅である、餘吾將軍の妻が身を投じたのでこの名がある。

磐越線

五十島 (いがしま) ▼平等寺 (びょうどうじ) 北東約一軒、餘吾將軍平維茂の墓がある。

馬下 (まおろし) ▼小山田櫻 西南四軒半、菅名山 (すがなみやま) にあり、越 (こし) の小吉野の名がある、開花四月下旬頃。

五泉 (ごせん) 蒲原鐵道接續點。機業地で羽二重、五泉平袴地、絹、紗などを産する年産額六百六十萬圓。▼慈光寺 (じくわうじ) (曹洞宗) 東南一二軒、境内幽邃夏期大學が開かれる。

蒲原鐵道 五泉、村松間四軒二。村松 (むらまつ) (むらまつ) 村松町はもと堀氏三萬石の城下、古來村松縞 (むらまつじま) の産がある。町の東南に風致に富んだ公園がある。

新津 (にひつ) 一七六軒三 信越本線、羽越線分岐點。

磐越東線

この線は郡山から右に岐れて阿武隈川を渡り、舞木から山峽を貫いて山間の高原に出で、阿武隈、夏井兩流の分水嶺を越えて、夏井からは夏井川に沿うて走り、小川郷 (せがが郷) からは田圃の間を進み、赤井 (あかゐ) から丘陵起伏の間を過ぎて、やがて平 (たひら) に達するのである。列車は郡山、平間直通十三回の運轉があり、約三時間を要する。

郡山 (こほりやま) 東北本線、磐越西線分岐點。(東北本線参照)

三春 (みはる) もと秋田氏五萬石の城下で、三春馬、煙草、繭、砒石などを産する。馬は舊藩時代にその飼育を奨励した結果で乗馬用によい。煙草の栽培は約三百年の古い歴史をもち年産額約八十萬圓

に達する。又盆踊の盛んなことで知られてゐる。▼三春城址 東南約三軒 市街の東方丘上にあり、室町時代三春田村氏の築いたものである。▼瀧櫻 南六軒、紅枝垂櫻で四百年來の古木、幹の高さ約九米、根本の周囲約一〇米、指定の天然記念物である。

盆踊唄 「大輪に、パラツミセ」 聲ぢや聞ききれ、姿ぢや見きれ、歌の文句でさくらんせ ささりあれども今この身では出るに知られぬ籠の鳥

盆が来たのに、アララット、踊らぬ奴はチヨイチヨイ、猫か、鼠か、お稻荷さまか スットコドッコイ、ドッコイシヨ。 切つて見やがれ、アララット、唯置くものかチヨイチヨイ、藁の人形に、五寸釘。 スットコドッコイ、ドッコイシヨ。

磐越線

神俣 (かんなた) 驛附近一帯石灰石を産し、無盡藏と稱せらる。年産額約十五萬圓。▼仙臺平の石灰洞 東北四軒、丘上に十餘のドリーネがあり、その中、瀧根不動洞 (たきねふどうどう) は昭和二年の發見で洞内に多くの鍾乳石、石筍、石幕などがある。

大越 (おほこえ) ▼王子神社 (堂山神社) 西約四軒半、明治初年堂山寺を廢して、堂宇をそのまま社殿としたもので、従つて堂山神社の稱もある。桃山時代の雄大な風格を有し、國寶に指定せられてゐる。

小野新町 (をのにひまち) ▼東堂山觀世音 西北五軒、俣がある。坂上田村麿が夷の爲に喪つた愛馬を祀つたもので、附近に馬の産地を控へてゐるので、馬の神として遠近の崇敬が甚だ篤い。 夏井 (なつゐ) ▼夏井川溪流 こゝから次驛

磐越線

川前まで夏井川相迫つて峽をなすところを瀧ノ平といひ、下流二〇餘料の間には溪流の勝、紅葉の美がある。▼武田の地藏尊 半料、東堂山と並び尊ばれる馬の守護神で、東堂山に参拜する人々の大部分はここへ詣るを常とする。

小川郷 (をがはがう) ▼福島炭礦 西二料二。

▼二ツ矢神社 北四料。海拔七一三米の二ツ矢山にあり、眺望美に富んでゐる。

赤井 (あかゐ) 驛附近には白煉瓦會社や炭礦が多い。▼赤井嶽 西北六料、山は海拔六〇五米、

その東山腹に薬師堂があり、寺は眞言宗で常福寺と稱する。境内は眺望がよく夏秋の候夏井川を溯る龍燈を見るのは美觀である。毎年舊七月末日の祭は、お籠といひ、龍燈を見物する爲山上に徹夜する者が約一萬人に達するといふ。

平 (たひら) 八五料六 常磐線分岐點。

相馬節 (磐城)

竹に雀は仙臺さんの御紋

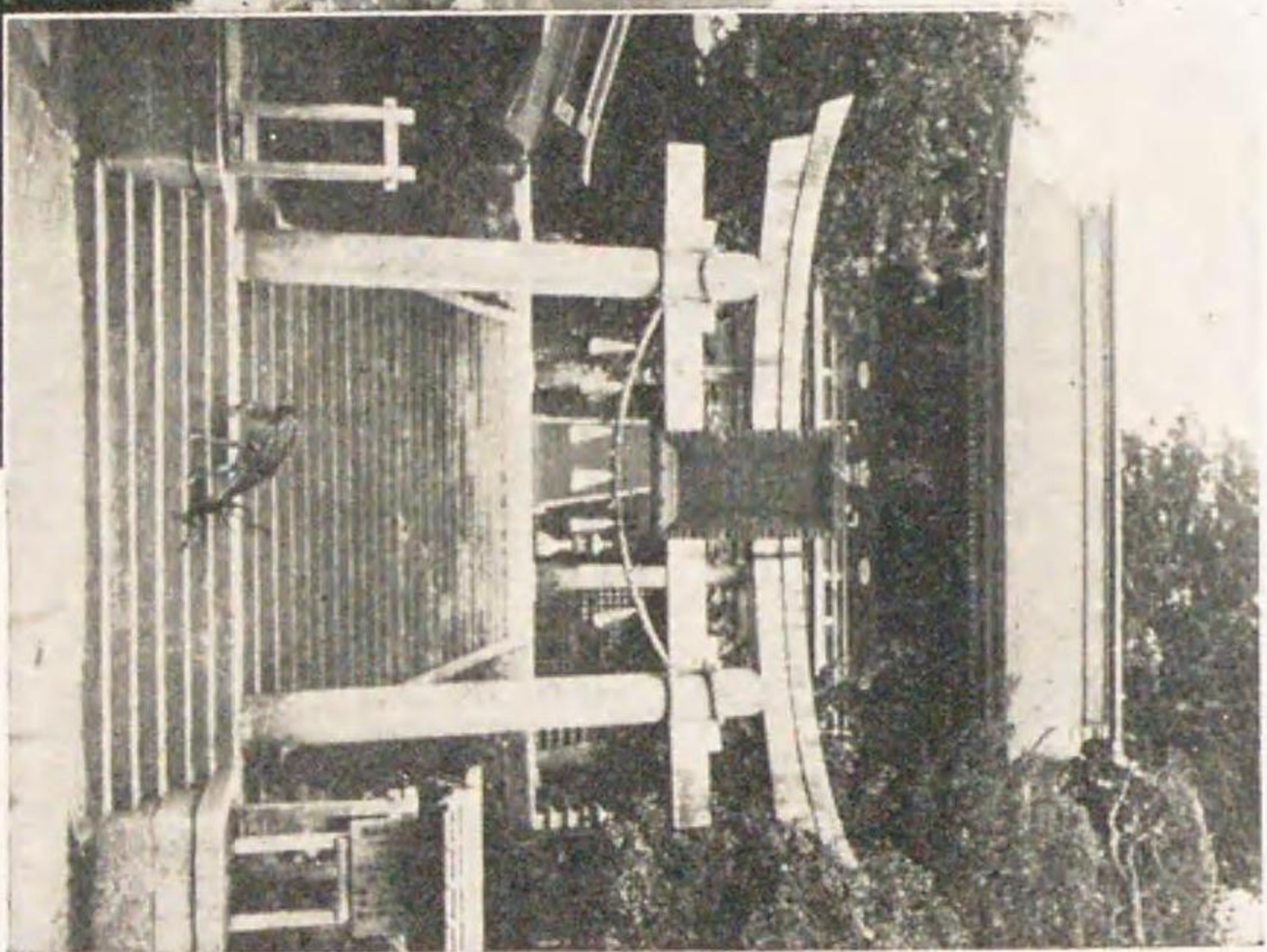
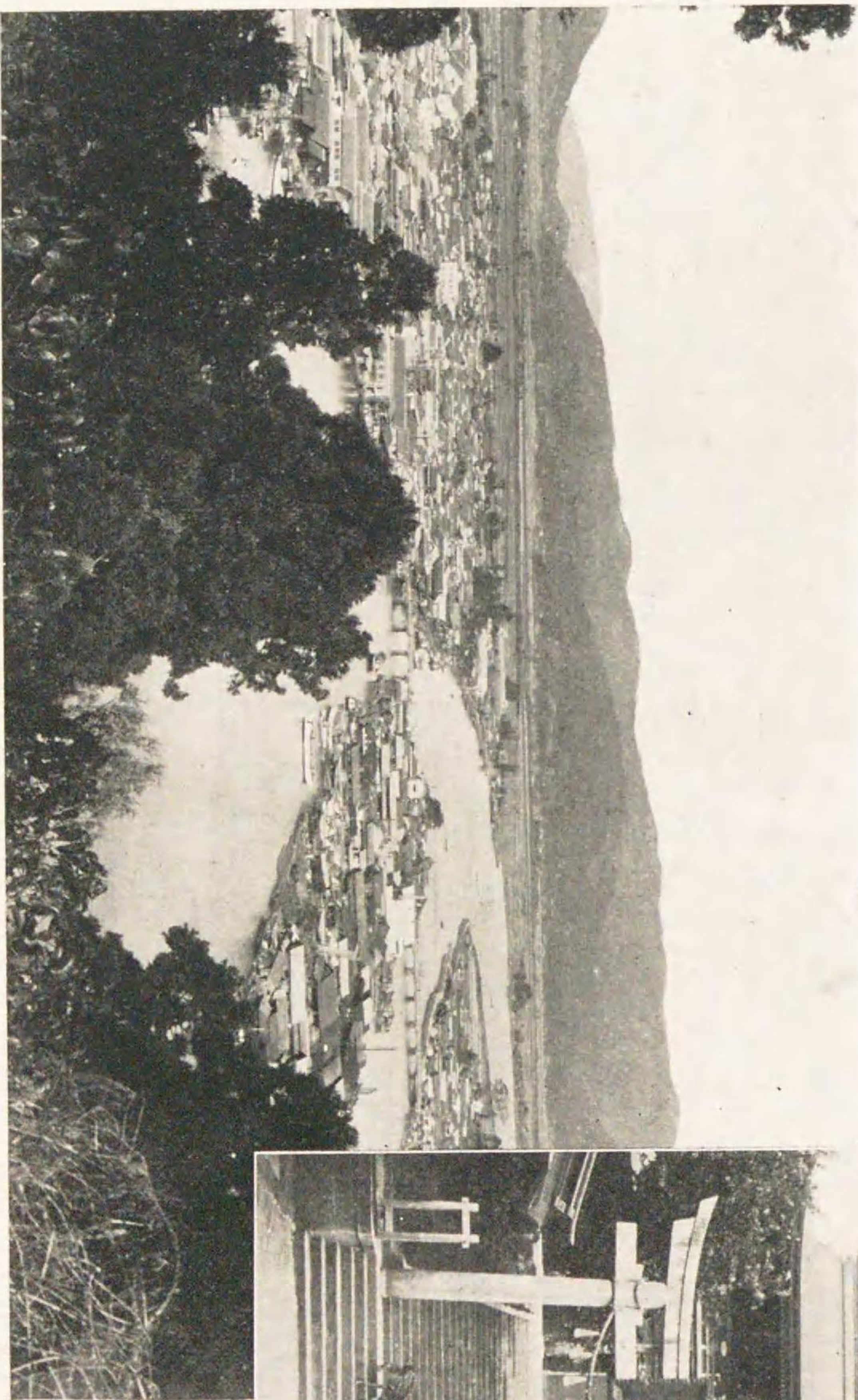
相馬六萬石九曜の星。

夜遊び歸りに東を見れば

ほんに凄いとツちや鶏の聲。

なんと太郎七豆腐の豆よ

天保二枚で百六十。



黄金山神社

陸羽線

一 陸羽東線 小牛田、新庄間 九四籽一
 一 陸羽西線 新庄、余日間 四三籽〇
 一 石卷線 小牛田、石巻間 二七籽九

石巻線は東北本線小牛田から東に向つて石巻港に達し、陸羽東線は小牛田から西して宮城、山形の兩縣界に於て、陸羽分水嶺の天嶮を越えて新庄に至つて奥羽線に接し、陸羽西線は更に新庄から最上川の流域に沿うて余目に至つて羽越線に接する。記事は小牛田から東する石巻線から始め、次いで東線西線にうつることとする。

陸羽線

石巻線

小牛田 (こごた) 東北本線及陸羽東線分岐點。
 涌谷 (わくや) ▼縣社黄金山神社 西北約四
 籽、笹嶽の西麓に位し天照大神、金山彦命、猿田彦命を祀る。▼笹嶽觀音 東北一〇籽、笹嶽山(海拔二三二米)の頂上にあり、笹峰寺といふ。▼城山公園 亘理伊達氏の城址で園内に仙臺騷動の忠臣伊達安藝を祀る涌谷神社がある。また見立寺にはその木像がある。

石巻 (いしのまき) 金華山軌道接續點。石巻港、女川間一三籽五。

鎌倉時代葛西清重が居城を構へてから世に知られ後伊達政宗が北上川の流をこゝに引き、こゝから江戸大阪方面への航路を開いてから、米穀の輸送地と

して築えた。現今町内では鯉節、鮪節、竹輪蒲鉾などの製造が盛んである。人口約二萬六千。▼日和山公園 南約二軒。葛西氏の城址で、郷社鹿島御兒神社があり風光がよい。▼吉野先帝菩提碑 約一軒餘多福院境内にあり、吉野朝の忠臣葛西氏が後醍醐天皇の御冥福を祈つたものである。▼石巻海水浴場 東南約三軒、金華山軌道伊原津驛の南約半軒。

▼渡波海水浴場 金華山軌道渡波驛の南。旅館 海水館、鳳鳴館。

金華山軌道の終點女川は天然の良港で漁船の出入多く、又金華山へはこゝからも船便がある。

▼鮎川港 海上約二五軒、牡鹿半島の突端に位し金華山沖に出働する捕鯨會社の根據地で捕獲した鯨は大部分こゝで處理される一ヶ年の捕鯨高約七百頭。

▼金華山 海上五一軒、汽船便がある。(東北本線

鹽釜驛参照)

陸羽東線

小牛田 (こごた) 東北本線参照。

陸前古川 (りくぜんふるかは) 九軒八 ▼緒絶

橋 西八八〇米。

中新田 (なかにひだ) 仙臺鐵道接續點。

岩出山 (いはでやま) 伊達氏、仙臺移封前の治

所、伊達家に因みある岩出山城址、伊達家廟所、有

備館、八幡神社、實相寺などがある。▼宮城縣種馬

所 南四軒。

川渡 (かはたび)

玉造八湯 小牛田から汽車約一時間にして山紫水

明の一温泉郷に達する。そこには青巒重疊し、荒雄

川の清流その峽間を流れてゐる。東は川渡から西は

中山に至る約八軒の間、山腹に河畔に、平地に、田

園に靈泉が湧く。中に古來有名なるは川渡、田中、

赤温、元車湯、新車湯、鳴子、川原湯、中山の八箇

所で玉造八湯の名がある。

▼川渡温泉 西約一軒半、自動車がある。中森山の

麓、荒雄川畔にあつて、八湯の咽喉をなし、古來脚

氣に特效があるとされ「脚氣川渡、瘡鳴子」と諺は

れてゐる。

旅館 藤島、新湯、川渡ホテル、桔梗屋、高久。

▼田中温泉 西南二軒、鳴子驛から東約三軒、效能

川渡に同じ。

旅館 田中湯、高友。

鳴子 (なるこ) 鳴子から堺田に至る九軒七の

間は翠巒高く大谷川の溪流に臨み、奇巖絶壁の間老

松楓槭を交へ、細瀧懸り、熱泉噴騰し、特に紅葉の

美があり、本線中の景勝地である。

▼鳴子温泉 鳴子驛所在地、食鹽含有アルカリ泉、

硫黄泉、酸性泉など一區劃の中で泉質が多種に岐れ

て居り、皮膚病、腺病、リウマチス、婦人病などに

よい。

温泉から南へ約一軒半登つた上野々附近一帯はス

キー練習の好適地で、仙臺方面からのスキー客で賑

ふ。附近に火口湖湯沼があり、浴客の散策地である。

旅館 鳴子ホテル、横屋、遊佐屋、源藏湯、遊泉閣

▼河原湯温泉 東北約半軒、リウマチス、婦人病、

腺病などによい。

旅館 姥ノ湯、河原湯。

▼新車湯温泉 東北約一軒、荒雄川畔にあり、胃腸

病、婦人病、リウマチスなどによい。

旅館 菅原、高繁。

▼元車湯温泉 新車湯に接し、效能は新車湯に同じ
旅館 金忠、三階、三塚。

▼赤湯温泉 東約二軒、自動車の便がある。婦人病
胃腸病、神経諸病によい。

旅館 大正館、丸宮、大沼。

▼濁沼 八八〇米、鳥谷ヶ森山頂にあり、舊噴火口
である。▼尿管關址 西約二軒餘、「番馬馬の尿する枕も
こ」の芭蕉の吟詠に名高い。

鬼首から栗駒五湯へ 鳴子、川渡の奥、名馬の産
地として知られた鬼首には温泉が多い。山中交通の
便を缺いた地であるから大部分徒歩の外はない。鳴
子温泉から神瀧温泉まで八軒、自動車の便がある。

神瀧から轟、宮澤、吹上の各温泉へは西四軒、吹上
は間歇泉のあるところ、荒湯温泉は神瀧から東北八
軒。以上の温泉へは川渡驛からすれば路は約四軒遠

くなるが、六角峠を越える途中の風光がよい。

荒湯温泉から國見峠越えをして山路一六軒栗駒山
の麓から中腹にかけ一迫川に沿うて温湯、湯倉、湯
濱、三迫川の上流に駒湯、新駒湯の五湯がある。無
論山中の温泉で設備は整うて居らぬが、學生などの
草鞋旅には面白い處である。温湯から湯倉まで八
軒、湯倉から湯濱まで一二軒、湯濱から駒湯、新駒
湯まで間道二〇軒である。湯濱又は駒湯から山道一
二軒で酢川温泉に達し、酢川から東四四軒餘で東北
本線一ノ關に出る。嚴美溪はこの途中にある名勝で
ある。

以上の湯廻りは一週間の豫定で十分である。或は
又鬼首から別路鬼首峠を越えて秋田に入り、稻住、
湯ノ岱、鷹ノ湯の諸温泉に浴して奥羽線横堀驛に出
るもよい。

中山平 (なかやまだひら)

▼中山温泉 東約一

軒、自動車の便がある、玉造八湯の西端に位し、皮
膚病、リウマチス、創傷、特に蛇毒に效くといふ。

旅館 松本、仙庄館、中山ホテル、浩養館。

塚田 (さかひだ) 宮城、山形の縣界、海拔約
三三米。

富澤 (とみさは) 赤倉温泉 南二軒、附近に
スキー練習場がある。

旅館 高橋、阿部、寺尾。

瀬見 (せみ) ▼瀬見温泉 西南約一軒自動車
の便がある。リウマチス、皮膚病、胃腸病、特に痔
疾と婦人病によい。

旅館 觀松館、喜至樓、やく屋、ゑびす屋、小川屋
松葉館。

新庄 (しんじやう) 九四軒一 奥羽本線、陸

羽本線分岐點。

温泉療法の起原

我國に於ける温泉療法の起原は遠く神代に發してゐる。
舒明、孝徳、齊明、文武の天皇が有馬、牟婁、伊豫の温泉
に屢々行幸せられたことが國史に見え、又聖徳太子が伊豫
の温泉に來浴し、碑を湯岡に建てられたことが伊豫國風土
記に載せてある。又中古以後は官吏の浴湯に休暇を賜ひ、
その往還には官符を給したことが古書に残つてゐるのを見
れば、温泉療法といふことが中々重要視されてゐたやうで
ある。

泉質效能及浴法に就いてはすつと後世に、江戸の醫後藤
良山(享保十二年歿)姫路の醫香川太仲(寶曆五年歿)
等の研究に始まつたのである。

陸羽西線

新庄 (しんじやう)

奥羽本線参照。

升形 (ますがた)

▼肘折温泉 二四軒。

旅館 村井、松井。(奥羽線船形驛参照)

古口 (ふるぐち)

最上川畔山ノ内の風光

古口驛から清川驛まで一

四軒は、最上川畔の風光最も勝れ、兩岸の山脚相迫り水は溶々として流れ、瀑布の落下四十八を數へ、特に紅葉の美がある。この行路中石渡別邸附近から白糸の瀧までの間最も麗しく、白糸の瀧の對岸に草薙温泉がある。清川に上陸後は幕末の勤王家清川八郎の墓に詣で、その生家齋藤家で遺墨その他の遺品を見せて貰ふもよい。

清川 (きよかは)

▼白糸の瀧 東約三軒。

▼清川八郎の墓 東五五〇米。

狩川 (かりかは)

▼光星寺

南二軒餘、曹洞

宗の古刹。▼草薙温泉 東三軒、皮膚病、婦人病などによい。

旅館 瀧澤屋、大和屋。

出羽三山

出羽の三山とは羽黒山(四一九米)、月山(一、九八〇米)、湯殿山(一、五〇四米)をいひ、手向(羽黒)、

注連掛(田麥侯) 本道寺(志津)、岩根澤、肘折の五登山口があるが、(本道寺口は奥羽線参照) 陸羽西線開通後は主に手向口により登ることになった。

清川驛から羽黒山まで一二軒、いはゆる羽黒の裏掛で登山の最捷徑路であるが健脚者以外には困難な路である。手向口は狩川驛から南一〇軒、自動車一圓。鶴岡驛からは一二軒、自動車七十錢。手向から

羽黒山まで約三軒餘(山路四軒) 徒歩一時間半、羽黒山から月山まで一四軒(山路二四軒)、途中六合目の合清水まで徒歩六時間、こゝからは頂上まで徒歩三時間、月山から湯殿山まで四軒(山路八軒)、徒歩三時間。以上で三山を巡拜したら歸途は田麥侯から鶴岡に出るがよい。湯殿山から田麥侯まで一二軒(山路二〇軒) 徒歩四時間、田麥侯から鶴岡驛まで二四軒、途中落合まで一六軒の間自動車五十錢、徒歩六時間、以上の時間中には途中の風物探勝などの時間を含んでゐる。羽黒山には羽黒神社がある。國幣小社出羽神社がこれで、伊氏波神を祀る。月山、湯殿山を合せ祀つた三山合祭殿がある。蜂子皇子の御墓もある。羽黒だけは別に山開、山閉はない。羽黒から合清水までは坂も緩であるが、御田原附近からは高山氣分になり、高山植物も多い。九合目からは

所々の大雪溪を踏んで頂上に達する。月山は山開七月二十日、山閉九月十五日頂上に官幣大社月山神社があり、月讀命を祀る。月山と湯殿山との間は全くの下りで、坂を下り盡すと月山小屋があり、高山植物が多い。装束場から下り終りの河邊までは最も難所で鐵鎖、鐵梯子による。金日光、水日光を経ると湯殿山に達する。湯殿山の本社は別に社殿がなく山腹梵字川原の湧湯の靈窟を賣前と唱へてゐる。山開二月八日、山閉十月二十日、湯殿山から仙人澤までは道路最も峻嶮で鐵鎖によつて上下する所が二箇所ばかりある。仙人澤からはいはゆる下り道で極めて樂である。

以上の行程中宿坊、旅舎のある所は手向、合清水田麥侯で、健脚者は手向を早曉に出發すれば三山に參詣して田麥侯に泊られるが、普通は合清水か又は

田麥俣に一泊するのである。休茶屋は羽黒から月山まで一合目毎にあり、湯殿山から田麥俣までにも二箇所ある。旅舎には蚊が多いから蚊取線香と除蟲粉とを携帯する必要がある。道案内を兼ねた強力は宿泊料その他本人持である。

余 目 (あまるめ) 四三料 羽越線接續點。

芭 蕉

涼しさやほの三日月の羽黒山

雲の峯巖つ崩れて月の山

かたられぬ湯殿にぬらす杖哉

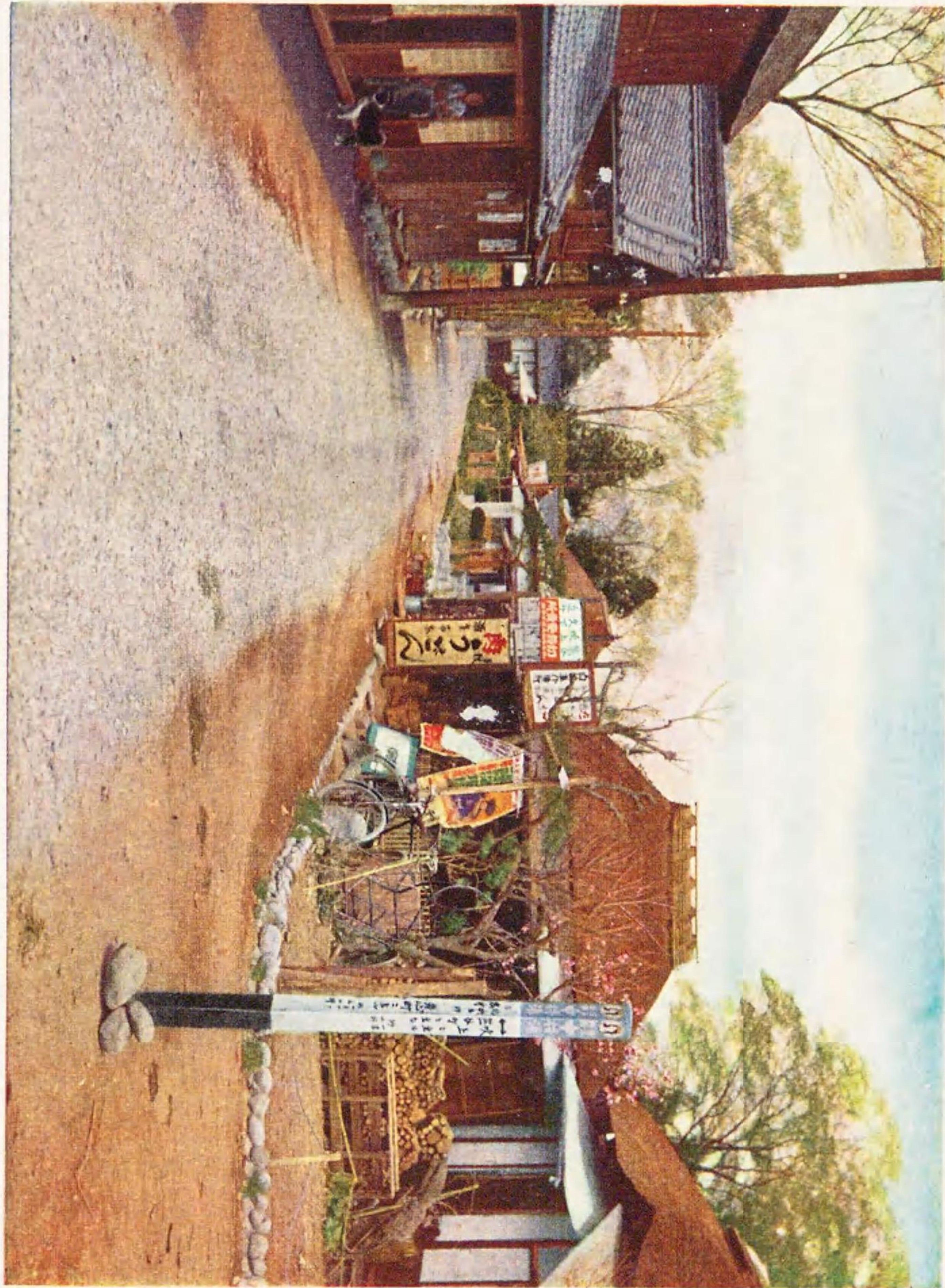
熊 谷

昔は宿内約二料(十七町半)に及び、江戸の方を本町、次を新宿、その次を寺門前町と稱し、人家九百七十軒兩側に連り、宿驛として大に繁榮したといふが、今でも埼玉縣下第一の商工業地となつて以前に勝る賑ひを見せてゐる。町の北部にある熊谷寺は熊谷次郎直實が草庵を結んだところと傳

へる。

膝 栗 毛

熊ナントト、に評判のそばがあるといふことだ。いづはいくつていかうか。北ヲテその梅本よ。ハニ、コが布施田だ(これも評判のい、やびやだ。ヤアそばはこれだ)。(ト、打つてかか梅本へはいり)彌、モミぶつかけをあつくして二ぜんたのみやす。そば屋ハイハイかじ(まりまじした)ト、さつそく二ぜんもつてきたる(北)なるほ(い)、蕎麥だ。そしてめ(さうにもりがい)。したぢのあんはいも申分なした。彌、コリヤ一昔やらそばなるめへ。
熊谷の宿に名だかきゆゑにこそ
よくもうたりありあつり蕎麥



八熊^の坡^阻道^中
 丁堀^者景
 英泉^画

高崎線、兩毛線

高崎線は東北本線の^{おほみや}大宮驛から分岐して左し、^{さきの}武藏野の平野を走つて高崎に至り、^{たかき}兩毛線は^{おやま}小山から東北本線に岐れて左し、^{あしが}足利、^{きりふ}桐生、^{いせざき}伊勢崎の機業地を經、^{まへはし}前橋を過ぎて高崎に至つて共に信越本線に接続する。この兩線はいはゞ東北、信越二線の仲介線である。更に兩毛線新前橋から上越南線の岐るゝあり、^{きりふ}桐生からは足尾線の岐るゝあり、列車も上野から高崎廻り、^{おやま}小山行もあり小山廻り高崎行もあり、高崎を経て上越南線への直通列車もあり、相携へて北武藏及兩毛南部の交通路となつてゐるから、こゝに兩線を通じて別に記載することゝした。

高崎線

大宮 (おほみや) 東北本線参照。

桶川 (をけかは) ▼石戸の蒲櫻 西北五軒

半。石戸村堀ノ内にあり、四月中旬に咲き壯觀を呈する。天然記念物に指定されてゐる。

鴻巣 (こうのす) ▼吉見の百穴 西一〇軒

自動車の便がある。本邦に於ては有名な横穴で、穴居時代の遺蹟と傳へられてゐる。穴の數二百六十餘丘腹全面に規則正しく排列して居り、神代文字の彫刻ある穴もあれば、^{ひかりごけ}光藓の生ずる穴もある。

熊谷 (くまがや) 秩父鐵道接続點。

繭、織物、米穀の取引が盛んで製絲、製粉、製麵の會社、工場がある。人口約二萬。

▼熊谷寺(淨土宗) 約一軒、熊谷次郎直實が草庵を

結んで入寂した處。天正年間(約三五〇年前)幡隨
意上人の再興にかゝる。熊谷直實、後の蓮生坊の墓
がある。▼熊谷堤の櫻 驛附近、荒川上流の堤防四
料に互り、樹は染井吉野で約千株といはれる。

▼歡喜院(妻沼聖天、古義眞言宗) 北約一料、舊
正月元日には浴油の修法があり參詣人が多い。

旅館 田鳥屋、今井屋、松坂屋。
名物 五家寶。

秩父鐵道 秩父線 熊谷、影森間四七料六。羽生
線 熊谷、羽生間一五料。秩父入りの線路は、主
に荒川の上流に沿ひ諸所に鮎漁場がある。

寄居 (よりの) ▼寄居鮎漁場 南半料。

▼象ヶ鼻ノ奇景 西一料。長瀨 (ながとろ)

▼長瀨 東二二〇米、荒川上流の溪谷で、秩父赤
壁の稱があり、指定の名勝地である。結晶片岩の

河床の上を河水が緩かに流れ對岸の懸崖には小瀑
がかゝつてゐる。

河原の岩盤は甌穴や皺曲を示し、水際の虎岩は
綠泥絹雲母片岩、黒雲母片岩などの互層を現して
ゐる。

舟遊は長瀨から波久禮まで下るので、水流急、
兩岸の奇勝を眺めるによい。▼縣社寶登山神社
西約一料、寶登山の麓にあり、神武天皇及大山祇
命を祀る。旅館(長瀨) 長生館。親鼻 (おや
はな) ▼親鼻鮎漁場 西北三三〇米。秩父
(ちちぶ) ▼秩父町 秩父驛所在地、昔から秩

父銘仙の産地として名高い秩父三十三所觀音の札
所は秩父町を中心に八料四方の地に散點してゐ
る。▼國幣小社秩父神社 西二二〇米、思兼命及
知知夫彥命を祀る。老杉に圍まれて境内が廣い。

旅館 竹壽館、關根本店。 影森 (かげもり)

▼武甲山 四料、海拔一、三三六米、秩父の名山で
その山貌武人が怒り立つたやうである。山頂の眺
望廣く關東の高峰を一眸に収めることができる。

▼橋立觀世音 西南一料半、堂の背後の武甲山の
西麓。石灰岩の洞窟には、鍾乳石、石筍、石柱な
どがある。

縣社三峰神社 西二〇料、途中約一四料の強石
まで秩父から自動車がある。

詣道は隅田川の上流なる荒川に沿ひ、兩岸の盤
巖高く對峙し高さ一〇米から三〇米に及ぶ所があ
り、頗る奇景である。

境内幽邃、社殿宏壯實に武州第一の靈地で、關
東地方には信徒が多く、三峰講が盛んである。古
來火防盜難除の神として知られてゐる。

三峰山とは妙法ヶ岳(一、三三二米)、白岩山(一、
九二二米)、雲取山(二、〇一八米)の總稱で、神社
は妙法ヶ岳の裾に、奥院はそれから東南約四料の
地點にある。

奥秩父探勝 三峰登山口から南荒川奥落合まで
自動車があり、そこから徒歩栃木まで五料、栃本
から舊秩父往還を約一二料、七時間で雁坂峠に達
する。峠から甲州側笛吹川の谷に出れば廣瀬を經
て約四四料で中央線鹽山驛に出られる。雁坂峠か
ら東には所謂東京市水道水源林である笠取山、雲
取山など二、〇〇〇米級の山岳重疊し、山小屋の設
備もあるからそこを縦走して三峰山へも戻れる。

西には甲武信岳、國師岳から金峰山などの高峰
連り途中山小屋二泊で甲州側の黒平鑛泉へ或は信
州梓山部落へ出られる。甲府盆地、富士、南アル

プス、八ヶ岳などの眺望よく森林と溪谷美は優れてゐるが、山路険しく踏迷ふ恐れがあるから精確な地圖を携帯する必要があるし、一人旅は危険である。

深谷 (ふかや) ▼平忠度の墓 深谷町にある。▼榊井戸 八基村鹿島神社境内にある。榊の大木が空洞をなして、内に古井戸がある。

本庄 (ほんじやう) 本庄電軌接續點。本庄、兒玉間七軒一。▼官幣中社金鑽神社 西一二軒、兒玉町まで本庄電氣軌道の便がある。兒玉町から六軒馬車の便がある。神社は武藏國二ノ宮で天照大神、素盞鳴尊の二座を祀る。境内に國寶の二層塔婆がある。▼塙保己一誕生地 西南九軒、金屋村保木野萩野茂重郎氏邸宅、萩野氏はその子孫で、附近に「塙先生百年祭記念碑」と刻した碑や墓碑がある。

舊城主大河内氏の祖源三位頼政を祭神とした頼政神社がある。▼清水觀音堂 西約二軒、郊外觀音山の中腹にあり、附近景勝第一の地である。養蠶の爲に祈願するものが多い。▼駿河大納言忠長墓 北約半軒、大信寺境内にある。忠長は徳川秀忠の次男で、駿河、遠江の五十五萬石を領してゐたが、後高崎城主に預けられ死を命ぜられた。

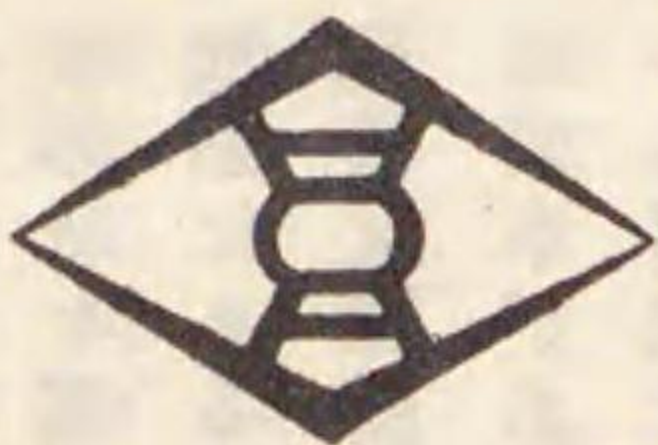
この他驛前には高崎繭市場、西北七七〇米には高崎絹市場がある。旅館 高崎館、三浦屋、信濃屋。名物 竹の子餅、鉢の木。

上信電氣鐵道線 高崎、下仁田間三三軒六。根小屋 (ねこや) ▼金井澤の碑 西南約八〇〇米、神龜三年(一、二〇〇年前)のもので指定の

新町 (しんまち) 八鹽鑛泉 一六軒、自動車がある。路は神流川の溪谷に沿うて行く、鹹味があり、胃腸病、神経系統病などによい。

旅館 八汐館、櫻雲閣。▼三波石 鑛泉から約六軒、利根の支流である神流川溪谷の奇勝である。

高崎 (たかさき) 七四軒七 信越本線、兩毛線分岐點。上信電氣鐵道、東武鐵道伊香保線の接續點。もと大河内氏八萬二千石の城下で、古來中山道の要衝に當り、今人口六萬一千(四、三調)を有し生絲、生絹、太織、繭の産出が盛んである。



▼高崎公園 西南約半軒、城址の南隣にあり、内に

史蹟である。**山名** (やまな) ▼山上碑 西約一軒半、創建は天武天皇の九年、或は聖武天皇の天平十三年の二説あり、未だ確定してゐない。指定の史蹟である。▼七輿山古墳 南約二軒半、瓢形の古墳で指定の史蹟である。馬庭 (まにまに) 馬庭念流劍道の發祥地として知られてゐる。▼吉井 (よしゐ) ▼多胡碑 東北約二軒、和銅四年、即ち千二百年前のもので、碑身二尺角の方柱狀の切石へ六朝體の文字が刻されてゐる。金井澤の碑、山上碑と共に上野三碑として知られ指定の史蹟である。上州富岡 (じやうしやうとみをか) ▼富岡町 我國最初の模範製絲工場がある。一ノ宮 (いちのみや) ▼國幣中社貫前神社 西五五〇米、延喜式内の大社で、一宮拔鉞大明神ともいはれ經津主命を祀る。今の社殿は徳川家光の

兩毛線

再建で、華麗を極め國寶に指定されてゐる。下仁田（しもにた） ▼黒瀧山不動寺 鑄川に沿うて一〇軒、途中六軒の小澤まで自動車がある。風景美に富んだ所でそより立つ五老峰、屏風岩の奇、裏山九十九谷の勝などがある。旅館（下仁田）新杉原、下仁田館。名物 蒟蒻、葱。

雜 話

男伊達ならあの利根川の

水の流れを留めて見ろ。

糸引終へは洗湯がたより

洗湯がへりは主のそは。

兩毛線

驛名の下に記した行程は上野驛起點

高崎（たかさき） 高崎線參照。

新前橋（しんまへばし） 上越南線分岐點。

▼縣社總社神社 西北一軒半、自動車の便がある。

延喜式内の古社で經津主命を祀る。江戸時代の建築

で、毎年十月十日には流鏑馬、舊十一月朔日には御

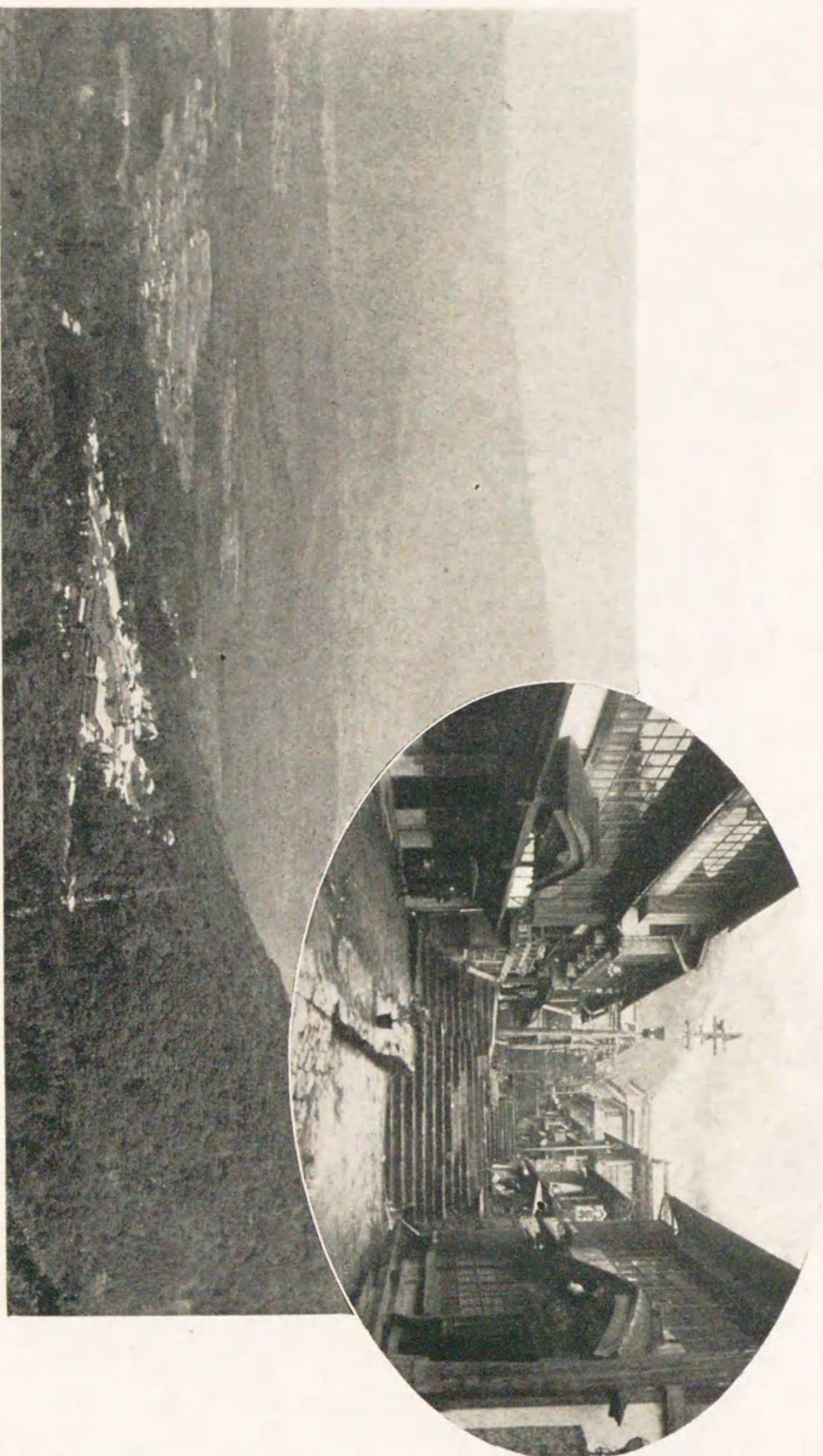
神迎神事がある。▼上野國分寺址 約三軒、地域は

東西約一〇九米。南北約一六三米で礎石が残てゐる。

上越南線

この線は近い將來に清水峠を越えて信越本線宮内驛から岐れる上越北線と接続するもので今水上まで開通してゐる。

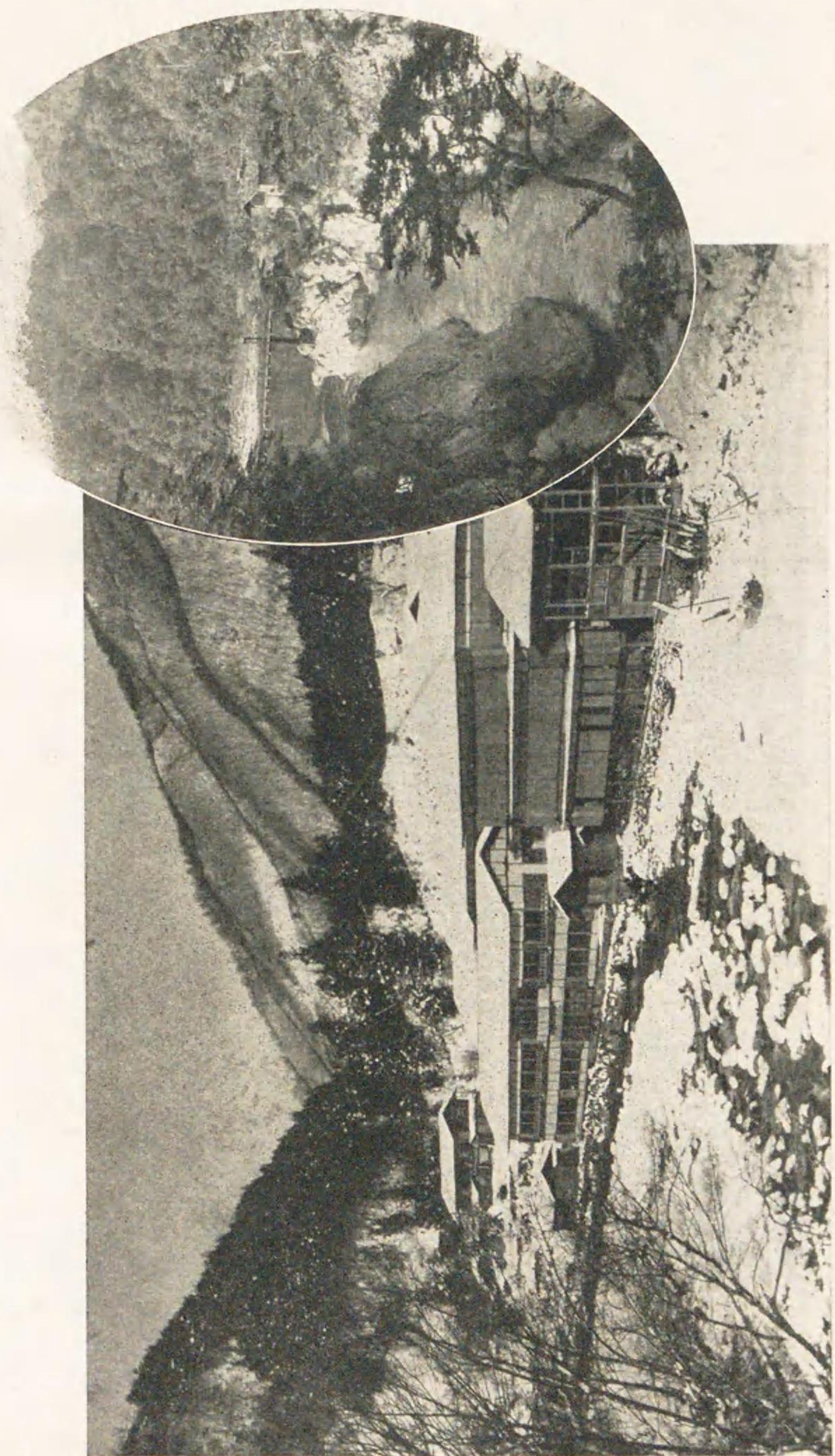
澁川（しぶかは） 一二二軒五



伊香保の湯街

伊香保温泉

谷の溪流上流の利根



伊香保温泉

澁川から伊香保へは東武鐵道伊香保線電車の便があり、賃七十錢、夏季は八十錢、別に自動車もあり賃一圓。

温泉は榛名山の東腹、海拔六五〇米の地にあり、人家急坂に據つて建てられ、乙樓、甲樓の上に聳え、丙樓、乙樓の上に駕してゐる。従つて何れの旅館も眺望を害されず、小野子、子持の山々から赤城の連峯を見渡して開濶であり、夏は涼しく好箇の避暑地である。

泉源は二嶽の下なる溪間にあり、樋を伏せて各旅館の浴室に導いてゐる。

貧血症、胃腸病、婦人病、腺病などによい。附近には湯元公園、伊香保神社、物聞山、見晴し、七重瀧、水澤觀音（坂東三十三所觀音第十六番）などがある。一日の遊覽地としては榛名湖、榛名

神社などがある。

旅館 木暮別館、本館、蓬萊館、千明、千登世館塚越。

名物 わらび。

榛名湖 伊香保から登路八軒、温泉からケーブルカーがある。榛名火山の火口原湖で周回約四軒海拔一、三六五米の高處にあり、水色、山影優麗の趣に富んでゐる。湖畔から山中の最高點榛名富士に登る途がある。山は圓錐形をなし、三十度内外の傾斜で湖面より高さこと約二四〇米である。湖の西北南には烏帽子、鬘櫛、硯、掃部嶽などが峯を連ね、掃部嶽山腹に縣社榛名神社がある。祠邊には奇巖怪石多く葛籠岩、鞍掛岩、雷電岩、大黒岩など最も世に知られてゐる。榛名山附近は冬季〇、五米の積雪がありスキー練習に適し、十二月

下旬から三月上旬までを可とする。

▼四萬温泉 澁川から北約三六軒、中之條まで東京電燈會社線電車があり賃六十錢、自動車もある。中之條から北一六軒、自動車一圓八十錢。温泉は山口、新湯、日向見の總稱で四萬川、新湯川に沿ひ、避暑の適地として、又溪流美と紅葉の美を以て知られてゐる。胃腸病、リウマチス、神經諸病、貧血症、婦人病などによい。附近には嘉滿淵、楓泉峽、澁砥泉、摩耶ヶ瀧がある、日向見には鎌倉時代建築の薬師堂があり國寶になつてゐる。旅館 賽陵館、積善館、山口館、鐘壽館。

▼河原湯温泉 中之條から西一八軒、自動車がある。吾妻川の溪谷に枕み風光勝れ特に紅葉の頃は一層の美觀を呈する。この邊數軒の間は所謂關東の耶馬溪といはるゝ勝地である。

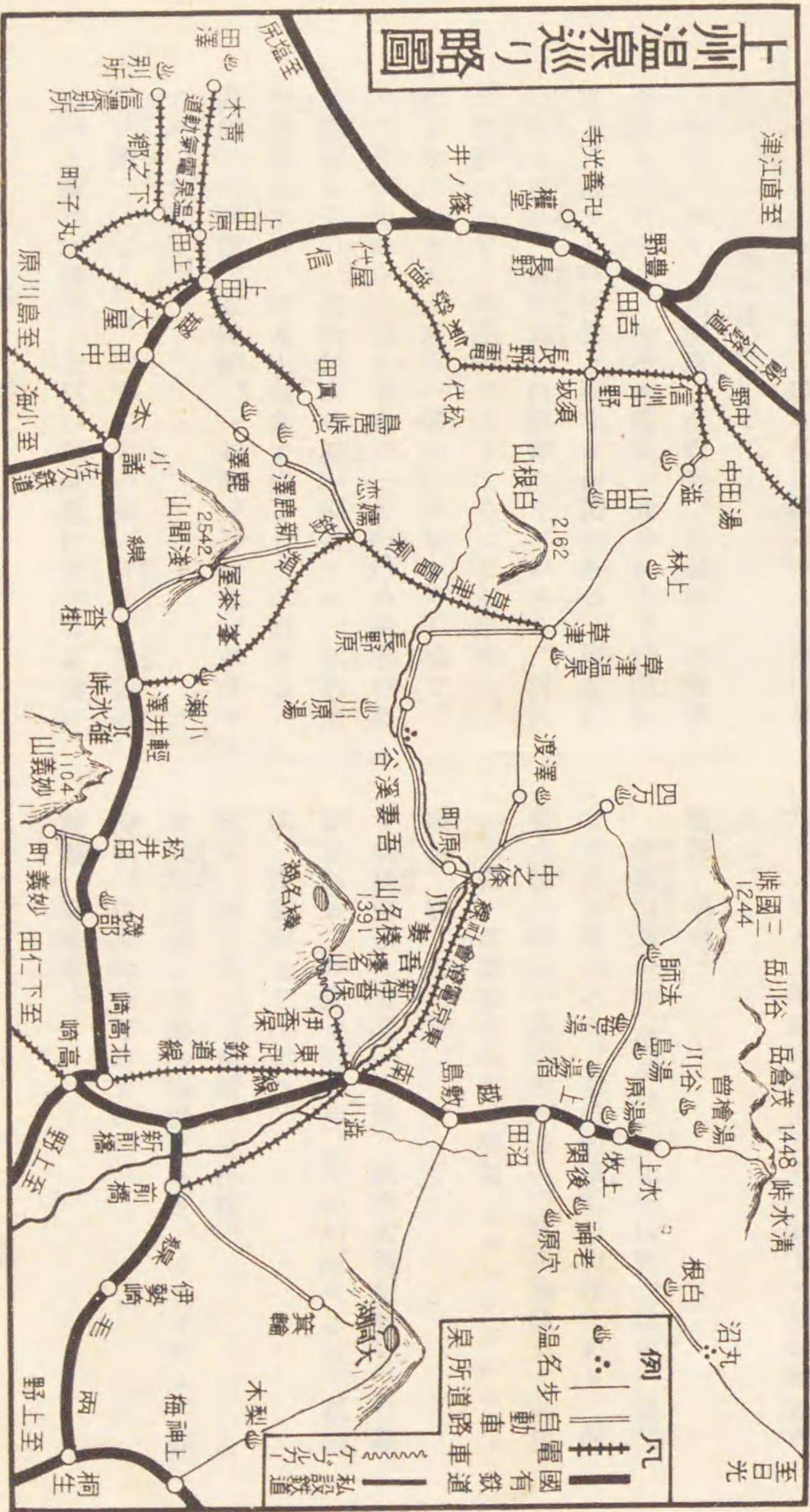
温泉は胃腸病、リウマチス、婦人病などによい。別に虎湯は創傷によい。以前は草津歸りの浴客が湯爛れを治す爲に賑はつたが交通が便利になつたためか昔のやうに人足が止まらない。

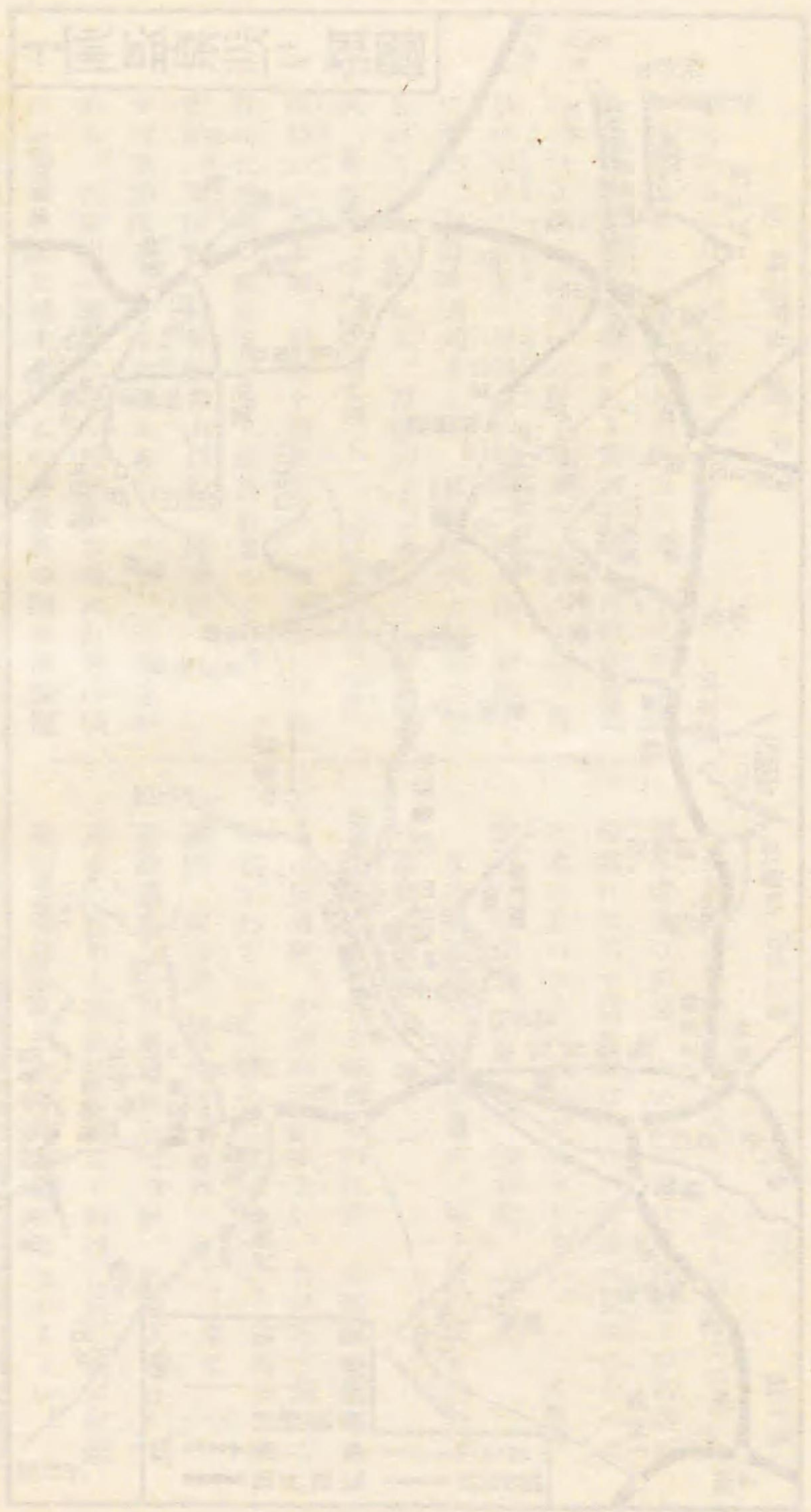
旅館 敬業館、山本館、養壽館、山木屋。なほ川原湯附近には川中、松ノ湯、鳩ノ湯などの温泉が散在してゐる。

▼澤渡温泉 中之條から約八軒、自動車の便がある。皮膚病、花柳病などによい。昔は草津歸りの浴客がわざわざ立寄つた處であつた。旅館 福田屋、龍鳴館、よろづ屋。

草津温泉 川原湯から一六軒、自動車がある。別に四萬から暮坂峠を越えて約四〇軒。或は信越線輕井澤驛から出る草津電鐵によるのもよい。

「お醫者さんでも草津の湯でも」と語はれ、古來有名な温泉





である。避暑地として知られた輕井澤より更に高く一、二〇〇米の高原にある。

熱度が高く、花柳病、皮膚病、胃腸病、神経衰弱症などにきく。浴法に湯長の命令により時間を限り入浴する時間湯と稱する奇観がある。附近には賽ノ河原、翁仙瀧、白根神社などがある。活火山白根山へも八時間位で上下することが出来る。温泉を中心とする高原一帯は好適なスキー地で、十二月中旬から三月上旬まで一米内外の積雪があり雪質もよい。又白根山や濫峠附近には二米以上の積雪があり、四月上旬まで滑ることが出来る。旅館 大東館、望雲館、一井館、日新館、草津ホテル、大坂屋。

沼田 (ぬまた) 利根川の東、片品、薄根の二水を南北に帯び、上州から越後に通ずる要衝に

兩毛線

當る、もと土岐氏三萬五千石の城下で沼田城址がある。

旅館 鳴瀧。

迦葉山彌勒寺(曹洞宗) 北一八軒、途中の東門まで自動車がある。寺は迦葉山の山腹にあり、慈覺大師の開創で參詣者が多い。▼川場温泉 東北一三軒、自動車がある。脚氣、リウマチスによい。旅館 關、山市屋。

▼老神温泉 東北一六軒、途中太原新町まで自動車がある。外湯で湯は片品川の川原にある。花柳病、皮膚病などによい。

旅館 朝日屋、上田屋、老神館。
▼穴原温泉 老神の對岸にあり、リウマチス、花柳病、皮膚病などによい。
旅館 東秀館。

▼白根温泉 東北三六軒、自動車がある。
旅館 星田館、白根館。

尚こゝから金精峠を越えて日光湯元へ出られる
▼追貝の吹割瀑 東二〇軒、片品川の河床の裂隙
に懸る奇瀑。

尾瀬沼 沼田から追貝を経て鎌田まで二八軒の
間自動車がある、尙鎌田から金精峠の丸沼まで一
五軒、自動車を通じる。鎌田から更に北へ約二〇
軒徒歩又は駄馬で會津街道を辿れば幽邃郷尾瀬沼
及尾瀬ヶ原の勝景に出る。

そこには森林の美と沼澤の美とで他の追隨を許
さないものがある。尾瀬ヶ原一帯は濕原植物研究
の寶庫で、周回二〇軒に及び、濕原一帯に咲くニ
ッコウキスゲやカキツバタの美觀は正に驚異の景
觀である。

の路から北三三〇米ばかり山を超えて赤谷川畔へ
下つた處、胃腸病、婦人病、脚氣などによい。
旅館 桑原館。

こゝから北約三軒餘に川古温泉がある。

▼法師温泉 西北二〇軒、冬季を除き自動車があ
る。三國峠の麓、西川に沿うたところ、弘法大師
發見の傳説があり、極めて原始的な温泉場である。
こゝから赤澤山を越して四萬温泉へ行くか(約一
四軒)又は三國峠を越して越後の淺貝及湯澤(湯
澤まで約四〇軒)方面へ出る草鞋の旅は面白い。
腦病、胃腸病、逆上引下げなどによい。

旅館 長壽館。

上 牧 (かみもく) ▼利根及大室温泉 西方
半軒、利根川を挟んで河岸にあり、川向ひが大室
である。何れも胃腸病によい。

旅館 長藏小屋。
後 閑 (ごかん) ▼茂左衛門地藏堂 驛の西

利根川の對岸月夜野にあり、こゝは義民茂左衛門
が處刑せられた地で供養の爲に地藏尊を安置した
のである。

尙附近の下新田には鹽原多助の墓や生家の址な
どがある。▼湯宿温泉 西北八軒自動車がある。
胃腸病、婦人病、リウマチスなどによい。

旅館 金田屋、湯元館。

▼笹ノ湯 西北一二軒、自動車がある。赤谷川に
かゝる相生橋下の形勝地にある。鹽類泉と湯島か
らの引湯との二者がある。前者は眼疾に後者は胃
腸病、リウマチスなどによい。

旅館 相生館。

▼湯島温泉 西北二軒半自動車がある。笹ノ湯へ

水 上 (みなかみ) ▼湯原温泉 南一軒半、

利根川畔にあり、胃腸病によい。

旅館 水上館、古屋。

對岸の小日向に小日向温泉がある。

旅館 湯元館。

▼谷川温泉 西北二軒半、谷川嶽の麓にあり、胃
腸病、婦人病によい。

温泉から七軒で上越の峻峯谷川嶽へ登れる。谷
川、湯原附近はスキ一の適地として近來知られて
來た。

旅館 谷川館、金盛館。

▼湯檜會温泉 東北五軒、湯檜會川畔にあり、胃
腸病、婦人病などによい。

旅館 湯元本家、林家。

▼寶川温泉 東北一四軒、利根の支流、寶川の上

流にある。その東北六軒に湯ノ小屋温泉がある。共に木賃式の旅舎が各一軒づゝある。寶川及湯ノ小屋温泉からは奥利根の探勝によく武尊山や至佛岳、尾瀬沼方面への登山者の訪れる處である。

▼越後路へ 水上驛から東洋一の清水トンネル口の土合を経て湯檜曾川の谷を溯り、清水峠を越して上越北線の越後湯澤驛まで三八軒、徒歩約八時間乃至十時間を要するが健脚家には面白い山旅である。



前橋 (まへばし) 一一一
軒二 東武鐵道前橋線接續點。
田中町(前橋)澁川新町間一五軒。
利根川の左岸にあり、越後と下野の交通の要路に當つてゐた。

もと松平氏十七萬石の城下で、上毛生絲市場の中心地をなし、生絲工場の數も多い。今人口八萬(三、一二調)を有してゐる。

▼前橋公園 西北二軒、舊城址で利根川に臨み赤城榛名、妙義の三山及淺間の噴煙を望む、園内に公會堂臨江閣がある。旅館 住吉屋、白井屋、昭和館。

赤城山 北二五軒、途中箕輪まで一八軒、自動車がある。箕輪から新坂峠を経て大沼湖畔まで約二時間で登れる。赤城登山路の中最も徒歩の距離が少い。

別に足尾線上神梅驛からは北一二軒、途中梨木嶺泉がある。同水沼驛からは西約一三軒。山頂數峯に分れ中央に大沼があつて水を湛へてゐる。これが火口原湖の大沼で周回約四軒。海拔約一、三一〇米、酷暑の時でさへ水蒸氣は直ちに凝結して屢々湖面の模糊たるを見る。毎年十一月下旬から湖面結氷し、

結氷期の早い理想的なスケート場として世に知られてゐる。

湖畔幽寂の境を占めて赤城神社がある。沼の北に小黒檜、東に大黒檜、南に地藏(一、六七三米)、西に鈴鹿峯聳え、鈴鹿の西に更に荒山、鍋割山がある。大黒檜は海拔一、八二八米、實に上毛三山中の最高峯である。神社から三軒三、その頂上に達すれば天高く地濶く氣宇頓に豪壯なるを覺える。

外輪山諸峯の山頂附近は十二月下旬から、四月上旬まで一米内外の積雪があり、雪質もよく、スキーに好適である。ジャムプ臺も二三設備され、地藏嶽南面の大ジャムプ臺は五〇米以上の飛躍が出來理想的といはれてゐる。旅館 猪谷、青木。

群馬縣廳は前橋市にあつて、上野國を管轄してゐる。縣は三面山を繞し唯東南の一面のみ平坦である。赤城、榛名兩火山中部に相對峙し、西南部の妙義の奇峯と鼎立してゐる。縣下一般に養蠶、機業甚だ盛んに、前橋は繭、生絲の市場をなし、伊勢崎は銘仙を以て名高く、桐生は關東第一の絹織物産地として知られてゐる。

伊勢崎 (いせざき) 一二四軒 桐生に次いで機織業の盛んな地で、伊勢崎銘仙及大島紬は特に名高い。織物會社工場が多く工業學校もある。旅館 新井屋、泉樓。

桐生 (きりふ) 一四〇軒二 足尾線分岐點。上毛電氣鐵道(中央前橋、西桐生間二五軒四)接續點



關東第一の機業地で、京都西陣に匹敵してゐる。人口四萬八千(三、一二調)織物、染織、製麵の會社工場が多く、また桐生高等工業學校がある。

▼西ノ宮神社 北約一軒 ▼桐生天満宮 北一軒三。旅館 相生館、東屋、藤文、丸啓、田中屋。

足尾線

いはば足尾銅山鐵道である。汽車桐生を後にすれば、やがて赤城山麓を縫ひ、渡良瀬川の溪谷に入るので、青嵐時に窓を襲うて山氣透徹心氣自ら爽快を覺える。庚申山は原向驛から西北一〇軒、紅葉の美がある。

通洞、足尾、間藤の三驛は何れも足尾銅山への下車驛である。

互り野州花、石楠花多く殊に紅葉の美最もよく、絶頂からは八州の風光を一眸の下に收める。その景趣雄大なるは馬琴の八大傳にある通りである。また庚申草と稱する食蟲植物がある。

足尾 (あしを) 原向、通洞、足尾、間藤及

足尾本山の五驛は何れも足尾町にある。

▼足尾銅山 慶長年間の發見で、初めは徳川幕府の直轄であつた。今は古河鑛業會社の經營である。通洞の選鑛場、本山の製鍊所など何れも規模壯大使役の鑛夫三千六百人、年産の粗銅二二、〇〇〇噸 價額一千萬圓に達する。

足利 (あしかが) 一五四軒九 地は良渡瀬川の北岸にあり、足利氏勃興の地で機業地として知られ、織物や、撚絲、紡績の會社工場が多い。人口四萬二千(四、三調)を有する。▼足利學校遺跡 北

大間々 (おほまゝ) ▼高津戸の勝景 東北約三三〇米、大間々高臺の突端、渡良瀬峽の咽喉をなす處にある。その釣橋に立てば懸崖奇岩怪石など風趣掬すべきものがある。附近に要害山の史蹟がある。

上神梅 (かみかんばい) ▼梨木鑛泉 北西四軒、乘馬駕籠の便がある。赤城山の南麓、海拔約四五〇米の地にあり、慢性粘膜炎加答兒、婦人病、呼吸器病などによい。赤城登山者の勞を癒すにもよい。

水沼 (みづぬま) ▼赤城山 赤城神社まで約一三軒、神社から最高峯黒檜山頂まで約三軒餘。(前橋驛参照)

原向 (はらむかふ) ▼庚申山 社務所まで約一二軒、海拔一、九〇一米。探勝區域八軒餘に

半軒、王朝時代諸國に置かれた國學の遺跡と稱し、



或は淳和天皇天長九年(約一、〇九〇年前)小野篁が勅を奉じて建立したものと傳へその他數説ある。今圖書館となり、古珍書一萬二千餘冊を藏し、中にも

論語義疏十冊、古文尙書二冊は最も珍重されてゐる。(以上國寶) ▼大日堂(饗阿寺) 西半軒、足利義兼の創建になり、大御堂、鐘樓、一切經藏、樓門など鎌倉時代の古建築がある。▼足利公園 西約二軒、櫻、楓、躑躅が多い。▼足利城址 東北四軒。▼行道山 西北八軒餘、山頂に關東有數の靈刹淨因寺があり、關東の高野といつてゐる。足利學校、大日堂、足利公園遊覽の自動車があり、約一時間で廻れる。

▼太田呑龍及金山神社 西南八軒、渡良瀬川の南岸から自動車の便がある。(總武線龜戸驛參照) 旅館 初谷本店、足利屋、巴屋。

佐野 (さの) 東武鐵道線接續點。館林、葛生間二二軒。機業地として知られてゐる。▼別格官幣社唐澤山神社 北六軒、東武鐵道田沼驛からは山下まで一軒半、そこから山上まで一軒半、俾ならば二人挽を要する。下野掾押領使たる藤原秀郷をその居城址に祀つたもので、社頭の眺望が展けて殊に春秋の美觀は一入である。▼古城山公園 北三三〇米。旅館 佐野館、久内屋。

栃木 (とちぎ) 東武鐵道日光線接續點。大麻、石灰の集散地、麻殻を原料とする懷爐灰の工場が多い。

▼錦着山公園 西北二軒二、躑躅が多い。▼太平山

公園 西約五軒、自動車がある。太平下驛からは西北二軒、山上に縣社太平山神社がある。小山 (をやま) 東北本線接續點及水戸線分岐點。(東北本線參照)

雜 語

宮で咲く花、栃木で散れる

散れて流るゝ巴波川

散れて流るゝ巴波川。

信越線

一 信越本線	高崎、新潟間	三二八軒九
一 越後線	柏崎、白山間	八一軒
一 彌彦線	彌彦、越後長澤間	二五軒三
一 魚沼線	來迎寺、小千谷間	一三軒一
一 上越北線	宮内、越後湯澤間	六八軒四
一 十日町線	越後川口、十日町間	二一軒四

その本線は高崎を起點として、長野、直江津を経て新潟に達してゐる。列車は上野驛から高崎線を通じて新潟に直通するもの三回あり、内一回は急行で約十二時間を要し、別に上野からこの線を経て金澤に至る急行一回、東海道線米原へ一回、新潟から北陸線を経て山陽線姫路に至るもの一回、青森から羽

越線及この線を経、北陸線を廻つて神戸に至るもの一回、大阪に至るもの一回、直江津から明石行一回、米原行二回がある。

上毛三山赤城、妙義、榛名の觀望臺ともいふべき高崎から信越線に入ると、汽車は烏川を渡り、碓氷川に沿うて磯部に至れば、妙義の奇峰は明に車窓の眺めに入る。妙義を見るには松井田附近が最もよく、金洞、金鶏兩山の起伏、その間に聳える蠟燭岩にかかるちぎれ雲、白雲山の山腹にある妙義神社の森林など南宗の墨畫である。尙妙義町の人煙も、注意深い旅客の目には映ずるであらう。

碓氷峠は坂東平野と信濃高原との通路に當り、古來中山道第一の天險と稱せられてゐる。今鐵道は山麓に横川驛を置き、中腹に熊ノ平驛を置き、峠を横斷して信州の輕井澤に至る、その間一一軒二、我國

有鐵道線路中第一の難所で、アプト式鐵道により急勾配の傾斜線を登り、二十六の隧道を出入し、一時間半の間に二十六の明暗に遇ふ。この間仰いでは妙義の峻嶺を望み俯しては深谷に對し、嵐氣たなびき、白雲湧き、坂東平野の平凡な景色に倦んだ旅客をして、襟を披いてこれに向はしめるの趣がある。嶺上には楓樹が多く、紅葉の時最も美觀である。横川、輕井澤間には電氣機關車を使用してゐるから、車内煤煙の侵入に惱まされることなく、心靜にこの風光を觀賞することが出来る。

輕井澤は碓氷峠うすひらたけの西麓の高原、海拔九三九米、中央本線の富士見驛と共に、本邦に於ける最高停車場の一である。これから汽車は右に淺間の煙を見つつ走り、上田うへだからは千曲川ちくまがわに沿うて下り、川中島を過ぎて長野に至る。この間坂城さかき、戸倉とくら、屋代やしよのあた

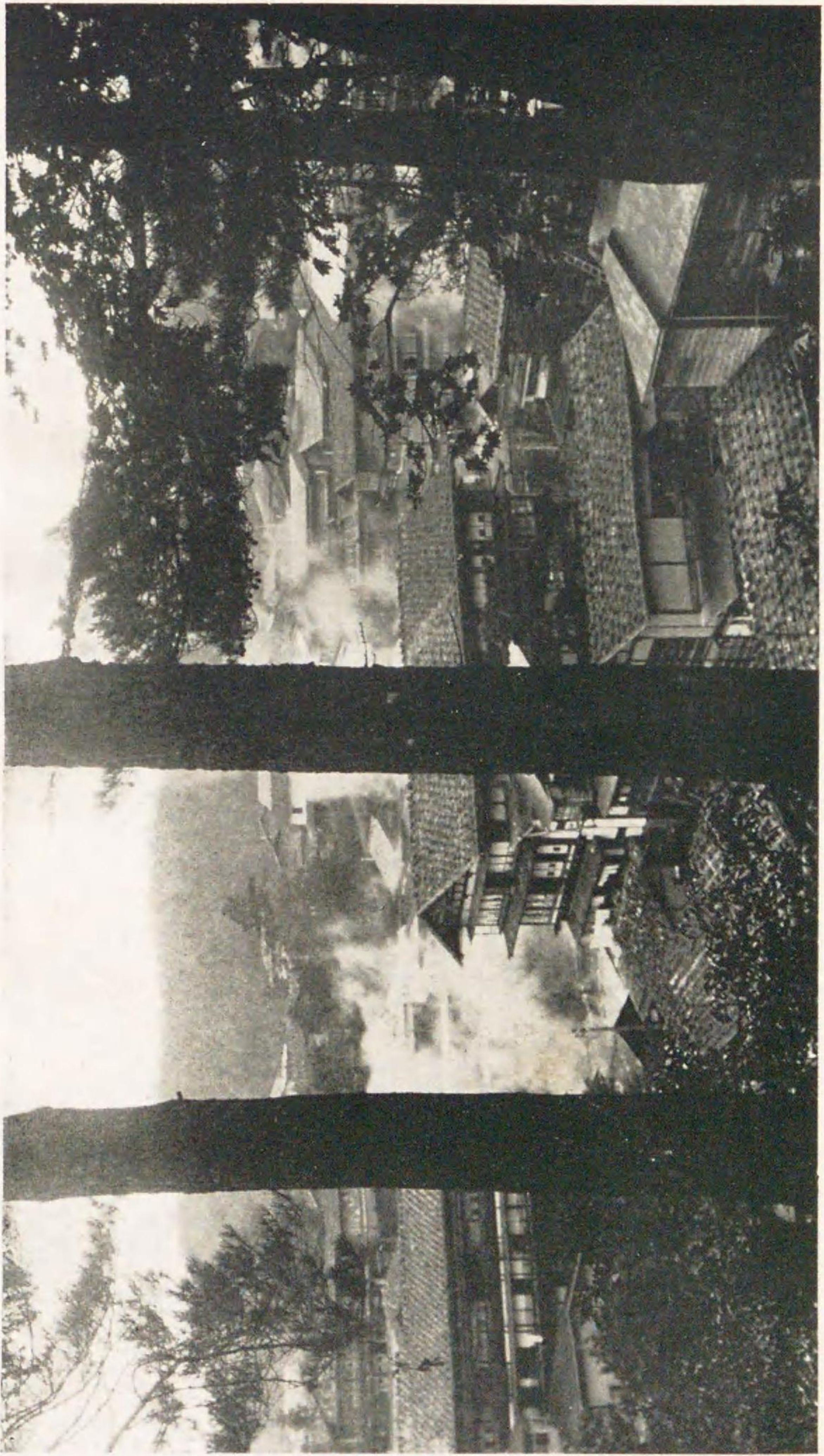
り、右に鏡臺山きやうたいあり、左に冠著山かぶりきあり、姥捨山おばすてあり遠く日本北アルプスの峰を望んで、風光甚だ佳である。

長野を後にして柏原かしはらに至れば南に飯綱いづな、北に妙高めうかう西に戸隠とがくし、東に斑尾まだらを、各數十料を隔てて對向し、黒姫ひめその中央にあつて驛の前面に聳立し、思はず人をして車窓を開かしめるのである。特に大雪の朝左窓から望めば山高く野濶く、滿目皚々世に稀な壯觀を現ずる。柏原から信越の境を越えて田口たぐち、關山せきやまに至る間は冬季積雪甚しく、汽車亦しばしば進行を阻止せられるので、所々にスノーセツド(雪除隧道)を設けてある、田口に至れば妙高山正面に聳え、富士に似た山容秀麗である。

直江津から鐵路右に折れて日本海岸に沿ひ、米山よねやまの麓を縫うて柏崎かしはさきに至る間眺望濶大である。鉢崎はつさきを



三 義 妙



信越本線

驛名の下に記した料金は上野驛起點

磯部 (いそべ)

▼磯部鑛泉 北約半斤、胃腸病、神經痛などに效く
碓氷川に面し、榛名、妙義、淺間の諸山が望める。
旅館 鳳來館、林屋、イツベ館。
名物 磯部煎餅。
▼妙義山 西八斤、自動車がある。

松井田 (まつゐだ)

妙義山 西南五斤、自動車五十錢、山は海拔一、
一〇四米、白雲、金洞、金鶏の三つに岐れる。各山
ともに、その皮肉となつてゐる土壤が、殆んど跡なく
洗ひ去られた骨髄のみで、岩盤は累々とした礫塊の

過ぎると澎湃とした日本海の狂瀾は鐵路に通り、飛
沫時に車窓を打ち、四邊の風光豪壯をきはめる。中
に青海川驛附近勝景第一と稱せられてゐる。柏崎か
らは海岸に沿うて越後線が岐れ、本線は日本海から
離れて信濃川の流域なる越後平野に出で、來迎寺か
らは魚沼線、宮内からは上越北線を岐ち、途中越後
川口から十日町線を岐け、本線は進んで長岡、三條
及新津を経て新潟に達するのである。新津は磐越西
線及羽越線の接續點である。

一集群になつてゐる。従つて山勢の秀拔、峭壁の削立岩柱の競峙、洞門の開通など神斧鬼鑿を極めてゐる。

三山の中金鶏は最も低いが最も峻険、何枚折かの屏風を立てたやうである。金洞は石門の奇を以て三山中最も名高く、石門の數幾十、蠟燭岩もこの山にある。この岩のあるところは願望によく前に北甘樂の谷が開け、谷の中に下仁田町がある。第四門の邊奇景を極め、登山者は大抵この邊で引返すが、このあたりは關八州を一眸のうち収め村から村へ、野から野へと縫つて行く銀色の利根の流れは美しく光り、彼方には富士の秀峰が悠然と聳え、日本アルプスの連峰はその高さを競つてゐる。白雲は最も高くして最も幽邃、山麓に妙義神社がある。

要するにこの山は火山岩の奇秀を極盡するもので、之に配するに樹々の綠美があり、殊に紅葉の大

観は秋季おびたしい登山者を招く。

旅館（妙義町）菱屋、玉屋、東雲館。

横川（よこかは） 碓氷嶺を越える電氣機關車の準備驛である。驛の南には鼻曲山、妙義裏山が聳

え、碓氷の溪湖深く山色水聲俗塵を絶つてゐる。

旅館 萩野屋。

▼霧積温泉 一六軒、旅館 金湯館。▼鑛泉澤鑛泉

六軒、旅館 仙湯館。

熊ノ平（くまのたひら）

碓氷の紅葉 驛附近十數軒の間。紅葉狩には輕井

澤に下車して舊街道を横川又は熊ノ平に出るがよ

い、輕井澤から約三軒を登つて碓氷嶺の絶頂に至れ

ば熊野神社がある。輕井澤の高原を西にし、碓氷の

溪谷を脚下に、前面には妙義の奇峯を始め、秩父、

甲斐の連山聳え、東北には榛名、赤城の諸峯連亘

昔の輕井澤宿は今の輕井澤驛から約二軒。上州路から碓氷峠を越え信濃路に入れば、その夜の泊りは淺間根の三宿である輕井澤、沓掛、追分のいづれかにきまつてゐたものである。維新後交通機關の變遷は、宿驛としての輕井澤の繁榮を根柢からくつがへして、貝原益軒の所謂「……寒き極しく五穀不生、たゞ稗蕪麥のみ生ずる故畠少し……不毛の地といつべし」そのまゝの寒村に成り了したが、その北歐的風光と大陸的氣分とが理想的の避暑地として認められるに及んで、今度は最も近代的な姿を海抜約一、〇〇〇米の高原に現はすことゝなつた、この山中における小街頭の商店の看板に横文字が用ゐられてゐるのも、こゝなればこそである。

輕井澤



拾九
 未曾海道六九之内
 經井澤

東洋堂
 印

し、茫漠とした關東平野を展開する。世に日本武尊が弟橋姫を追慕せられた處と傳へる遺跡は、社邊數軒を隔て、尊の倚られたといふ思婦石がある。峠から下り二軒の間は、薄が多く、満目悉く秋の陽に光り、時に碓氷の溪流涼々たるを聞く。熊野神社前から熊ノ平に行く道は紅葉道といひ約四軒餘、道は山の背を縫うて稍峻しいが、見渡す所左も右も満山これ紅葉である。

名物 力餅。

輕井澤 (かるゐざは) 一四二軒三 草津電鐵接續點。上野から約五時間、昔は追分、沓掛と共に淺間根の三宿といはれたところ、海拔九四〇米の高原で大氣新鮮、水清く、間近に淺間山の噴煙を見る。毎年避暑の内外人多く、その別荘が相望んでゐる。驛の西北にある離山の東北面にゴルフリンクがあ

り、附近にテニスコート、野球グラウンドなどの設備がある。

旅館(新輕井澤) 油屋、丸本、一田屋。(舊輕井澤) 三笠ホテル、萬松軒、鶴屋。

▼淺間山 西北一六軒。(沓掛驛參照)

草津電氣鐵道 海拔九四〇米の輕井澤から一、三七〇米の草津まで五五軒五、その間上信國境一〇〇〇米餘の高地を馳せ、吾妻仙郷の六里ヶ原の高原を過ぎるので、或は鬱蒼とした森林の間に入り、或は潺々の音を立てる溪流を涉り、或は淺間の山容を窓外に仰ぐなど、車窓の眺觀に富んでゐる。

小瀬 (こせ) 附近に小瀬鑛泉がある。旅館蓬萊館。**北輕井澤** (きたかるゐざは) 附近一帯は吾妻仙郷の名を以て呼ばれ吾妻川の支流地藏川を挾んで別荘地避暑地に適し、西八軒にして鬼の押出

しの熔岩溪に行かれる。燗懸（つまごひ）

▼新鹿澤温泉 西南一二軒、途中六軒の間は自動車の便がある。旅館 ますや。石津平（いしづだひら）

▼萬座温泉 西北一六軒、乗馬又は槽馬の便がある。白根山の中腹に位し海拔一、八一八米、原始林に抱かれた静寂境である。旅館 豊國館。草津温泉（くさつをんせん） 驛は草津温泉場の入口にある。▼草津温泉（上越線澁川驛参照）温泉から北西へ約一四軒で白根登山も興が多く、或は澁峠を越えて信州澁温泉への二八軒の旅も面白い。

▼浅間山 北約一三軒、杓掛から峯ノ茶屋まで約八軒、自動車があり、徒歩僅か五軒で山頂に達する。

杓掛（くっかけ）もと浅間根の三宿の一つ、附近には天然水を産する。

▼浅間山 北約一三軒、杓掛から峯ノ茶屋まで約八軒、自動車があり、徒歩僅か五軒で山頂に達する。

この他追分、御代田、小諸などからも登山が出来る

山は海拔二、五四二米、活火山で時々降灰二〇〇軒内外に互ることもあるが平素は平穩で登山者が多い。

火口は俗にお釜といひ周圍約二軒、深さは時に變化があるが約二四〇米、壁面には熔岩や噴石が累積し、口底の裂け目から噴く白煙は濛々として凄絶の限りをつくしてゐる。山頂の眺望は宏濶豪壯で、富士、秩父、八ヶ岳、北アルプス及上信越國境の山々、日光諸山などが望める。

▼千ヶ瀧遊園地 北約二軒、土地高燥、氣澄み水清い避暑地で、園内には貸別荘、旅館、俱樂部、共同浴場、運動用具などがあり、自動車の便がある。

▼星野温泉 北一軒半、夏季自動車がある。旅館 明星館。

信濃追分（しなのおひわけ）

中山道と北國街道

信濃追分

昔の追分宿は信濃追分驛から約一軒三、中山道、

北國街道の追分で、曾ては諸大名の參觀交代や旅

人の往來で、旅舎軒を並び、宿中の三丁目は高樓

が紅燈を連ねて絃歌湧いてゐたところ。

「浅間山さんなぞ嬉しやんす、裾に三宿持つながら」の三宿

中最も賑ひ、今でも當時の大がかりの旅籠屋、本

陣、追分節に名高い榊形の茶屋などの建物がその

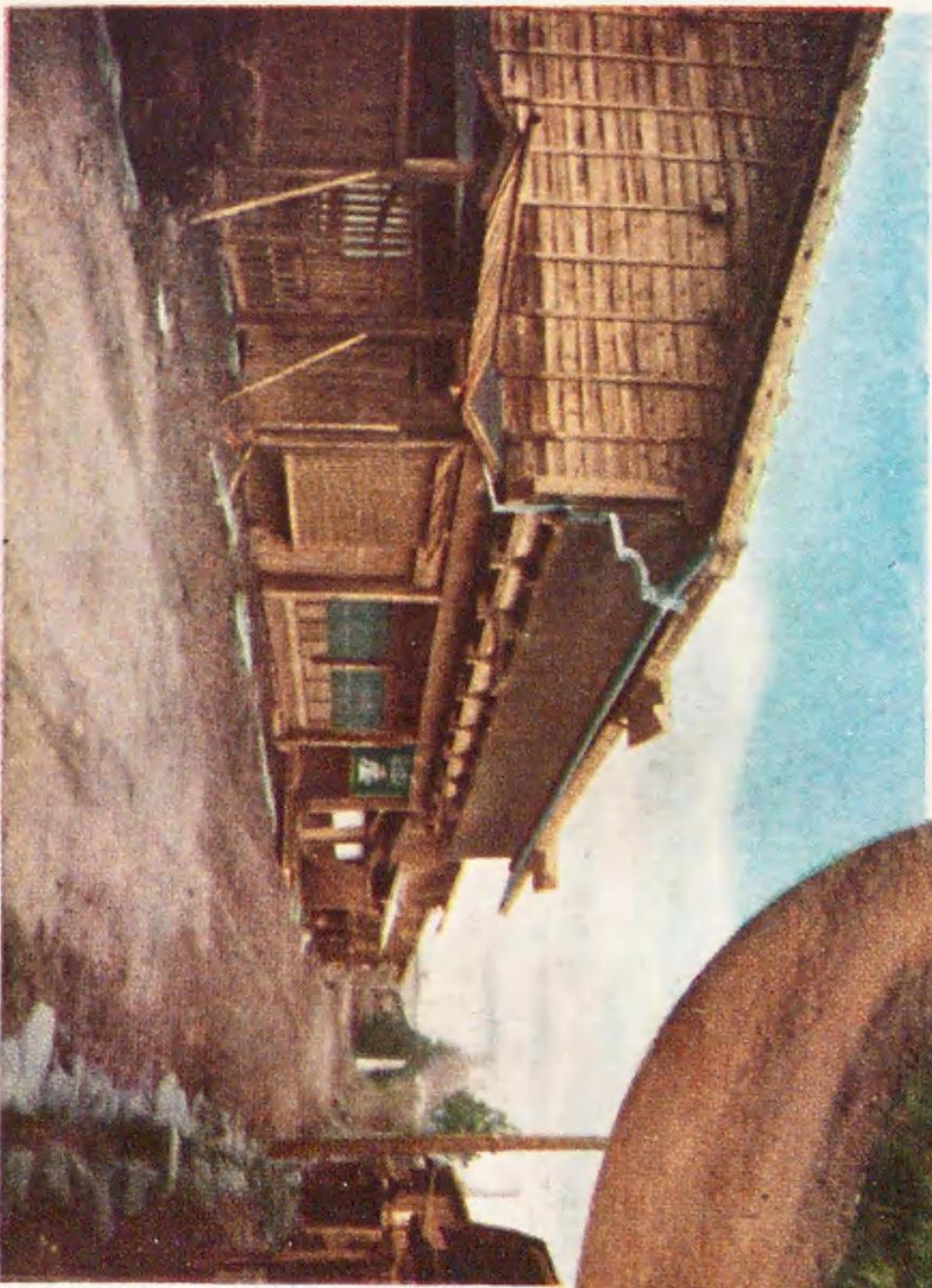
まゝに残つてゐる。

晩春から初夏にかけて附近の薄と落葉松の高原

には、一面に鈴蘭が匂ひ、つゞじが妍を競ふ、夏

季は避暑に適する。浅間登山は追分、杓掛、小諸

何れからも容易である。



木曾街道
 追分宿
 淺間山眺
 岳泉馬



との追分で昔は木曾路と北國街道との岐れる浅間根の宿驛として人馬絡繹とした紅燈の巷で、絃歌は日に夜についだ一大歡樂境であつた。その追分節は津々浦々にまで唄はれ、いはゆる追分節の發祥地である。その古驛は驛から約一軒半、昔のまゝの宏大な脇本陣、その他の旅籠屋（歌に残る榊形屋なども）今尙残つて昔を懐はせる。宿の西端「わかされ」に石標あり、「更科は右に吉野は左にて月と花と追分の里と」ある。また浅間山登山口で、頂上まで約九軒、明治初年浅間爆發當時奉幣使を立てられた浅間神社が宿のはづれにあり、境内に芭蕉の句碑がある。「吹きこぼす石も浅間の野分哉」土地は海拔九四〇米を超え避暑に適する旅館 脇本陣油屋。

追分節 (信濃)
西は追分東は關所

信越線

せめて榊形の茶屋までも。
こゝはごごたご馬士衆に問へば
こゝは信州の中山道。
浅間山さん、なぜ焼けしやんす
裾にお十六持ちながら。
註「お十六」は十六乙女と三宿(三、四、九)をかけ
もたせた意
心よく持て追分女郎衆
浅間山から鬼が出る。
小諸出て見りや浅間の山に
今朝も三すぢの煙り立つ。
小諸 (こもろ) 佐久鐵道、布引電鐵接續點。
もと牧野氏二萬五千石の城下で千曲川の東邊にある。町は島崎藤村氏の「古諸の古城のほとり」その他によつて文學愛好者になつかしいところである。
▼小諸城址 西二二〇米、取残されてゐる唯一つ

の城門には懐古園といふ扁額がかゝつてゐる。旅客の思を誘ふさびしい城址である。

旅館 山城館、蔦屋、小諸館。

▼浅間山 噴火口まで一五軒、火口原の湯の平には旅館火山館があり、途中軽石まで俵がある。

佐久鐵道 小諸、小海間三〇軒六。

岩村田 (いはむらだ) 往時は中山道の宿驛で内藤氏一萬五千石の城下、今人口八千五百、内藤氏の城址上ノ城の南崖には光苔のある千疊敷がある。

中込 (なかごみ) 中込町は千曲川を隔て、野澤町と相對し、この兩町と櫻井村は鯉の産地として知られてゐる。

▼内山峽の奇勝 東四軒餘。

三反田 (さんたんだ) ▼新海神社 東約一軒

國寶の三重の古塔がある。小海 (こうみ) ▼地は海拔八九〇米、八ヶ嶽、金峯山國師嶽登山の登

路に當り、西四軒に松原湖の幽邃境がある。湖は海拔一、一二三米、八ヶ嶽の山腹に位し、空氣清澄、夏は舟遊、魚釣の楽しみがあり避暑に適する、又冬はスケートによい。湖畔に松原鑛泉があり、自動車を通つてゐる。

布引電氣鐵道 小諸、嶋川原間七軒六。

布引 (ぬのびき) 附近に布引觀音がある、「牛に引かれて善光寺詣り」の佛話に名高いところ、千曲の激流に臨む。

滋野 (しげの) ▼力士雷電爲右衛門の碑 東北半軒。

田中 (たなか) ▼鹿澤溫泉 驛から新張まで四軒自動車がある。新張から約一二軒、地藏峠を越えて行く、乗馬あり賃三圓五十錢。地は海拔一、五

三六米、舊鹿澤と新鹿澤とに分れる。新鹿澤は舊鹿

澤から四軒ばかり下の高原に分湯したもので雄大な環境を持ち浅間の噴煙を遠く望む、夏は避暑によく、冬は附近一帯スキーの適地として近來著名である。二、〇〇〇米級の三峯、湯ノ丸などの山々連り雪質よく各學校の合宿練習が盛んである。別途本線上田驛から一六軒、澁澤まで自動車があり、そこから六軒で新鹿澤溫泉に、更に四軒で舊鹿澤溫泉に行ける。

旅館 (舊鹿澤) 紅葉館。(新鹿澤) 増屋、小樹屋。

大屋 (おほや) 丸子鐵道接續點。▼信濃國分寺 西北二軒、殘存せる三層の經塔は國寶となつてゐる。▼千曲川の鮎釣 南一〇〇米、四月下旬から

十月上旬まで。

丸子鐵道 大屋、丸子町間六軒四、大屋、上田東間五軒五。

丸子町 (まるこまち) ▼靈泉寺溫泉 一一軒、

自動車がある。奇峯獨鈞山の南麓谷合の深い林の中に、こゝからは梅ノ木峠を越えて別所溫泉へ行ける山旅の面白味もある。旅館おもだかや、中屋。▼鹿教湯溫泉 靈泉寺溫泉から更に四軒、丸子町から自動車がある。旅館 齋藤、龜屋。溫泉に近く大鹽鑛泉がある。

上田 (うへだ) 一八二軒七 上田溫泉電軌接續點。市はもと眞田氏の城下で後、松平氏五萬三千

石の城下として榮え、人口三萬四千(三、一〇調)信州に於ける



養蠶、機織業の中心を爲し、蠶絲専門學校がある。蠶種及蠶卵紙の取引が盛んで上田綿を産する、關ヶ原の役に眞田氏が秀忠の西下を阻止した上田城址は西北一軒、自動車がある。國分寺は東約

二軒、自動車がある、國幣中社生島足島神社は西南約六軒、電車がある。生島神、足島神を祀る、市の近郊には松茸を産する。

旅館 観水亭、都筑、上村。
名物 みすゞ飴、松茸、串柿。

▼小牧城址 驛から千曲川を距てた對岸。▼別所温泉 西南約一軒、電車、自動車がある。古い温泉で「枕の草紙」の七久里の湯、「春雨抄」の相染川の歌枕もこの湯とそこの小流だといはれてゐる。附近の安樂寺(曹洞寺)は俗に別所觀音といひ、堂宇が北面するので北向觀音ともいふ。國寶になつてゐる。

旅館 柏屋、朝日ホテル、花屋ホテル。▼田澤温泉 西南一六軒、青木まで電車、青木から二軒餘自動車がある、婦人病によい。旅館 ます屋、たまり屋。

▼沓掛温泉 西南一二軒、青木まで電車、そこから

途中信州中野から湯田中まで七軒六。

岩野 (いはの) 東に川中島合戦の折謙信が本陣を置いた妻女山が聳えてゐる。松代(まつしろ)川中島の首邑でもと眞田氏十萬石の城下、佐久間象山の生れたところ。山本勘助が築いた甲州流築城の模範といはれる海津城址や、象山がその雅號に因んだ象山など見るべきものがある。須坂(すざか)須坂は北信第一の製絲業の旺んところ、林立する煙突は「絲の町」なる名を如實に示してゐる。▼山田諸温泉 東方一二軒、白根山麓に山田温泉があり、自動車の便がある。旅館湯本館、風景館。こゝから七味温泉を経て萬座温泉へ一二軒である。信州中野 (しんしゅうなかの) こゝから岐れる平穩線の湯田中は平穩諸温泉の門戸である。(長野驛参照) 木島 (きじま) 飯山町は驛の

二軒餘自動車がある。旅館 おもとや。▼菅平スキー場 上田温泉電軌の北東線眞田まで電車、眞田から土合まで約四軒自動車、そこから約六軒馬橋が行く。菅平から猫嶽、四阿山へ約六軒、廣大なスロープが開け、日本北アルプスから、信越國境の山岳を一眸にあつめ展望最も優れ、雪質もよく、頂上附近の樹氷の美觀もあり、本邦有数のスキー地である。

戸倉 (とぐら) ▼戸倉温泉 西南約二軒、自動車がある。旅館 戸倉ホテル、笹屋。▼上山田温泉 西南二軒、自動車がある。旅館 三好屋、萩原。兩温泉共千曲川畔にある。

屋代 (やしろ) 長野電氣鐵道河東線接続點。▼武水別神社 西南四軒半、自動車がある。

長野電氣鐵道 この鐵道は屋代から千曲川の東邊を走つて松代、須坂を経て木島に至る五〇軒四

北半軒、もと本多氏二萬石の城下で北信地方物資の集散地である。

篠ノ井 (しののゐ) 二〇七軒九 篠ノ井線分岐點。上野から普通列車で約七時間。驛は千曲川、犀川の中洲なる川中島の中央にあり、謙信、信玄の古戰場は東北四軒餘のところにある。

川中島 (かはなかじま) 驛附近一帶の地は川中島の古戰場で、諸角豊後守の墓は東約三軒、八幡原甲越兩將直戰地は東四軒にある。

長野 (ながの) 二一七軒二 上野から急行で六時間餘、飯田町から十三時間、名古屋から約九時間、海内著名の靈刹善光寺があるので昔は善光寺町といひ越後、越中から江戸に通ずる驛路にもあたつてゐる。



たのだが主として門前町として發展した街で、地方では伊勢の神都にならつて佛都と唱へる向もある。人口七萬三千（四、三調）陶土、箆筒、杞柳、木通細工、麻絲、干杏などを産する。

旅館 藤屋、犀北館、花房屋。

名物 蕎麥、林檎、杏羊羹。

善光寺 北約二軒、自動車がある。天台、淨土二宗の僧尼が奉仕し、大勸進と大本願とに分れてゐる。本尊は一光三尊佛と稱せらるゝ閻淨檀金の阿彌陀如来で、約四五四種の靈像である。この像の緣起については神皇正統記欽明天皇の條に「むかし佛在世に天竺の月蓋長者鑄たてまつりし、彌陀三尊の金像を傳へて渡し奉りける、難波の堀江におくられたりしを、善光と云者とりたてまつりて、信濃國に安置しける、今善光寺是なり」とあつて、我國に渡來し

た最初の佛像であるとされ、寺號は善光（姓は本田）の名に因んだものといはれてゐる。

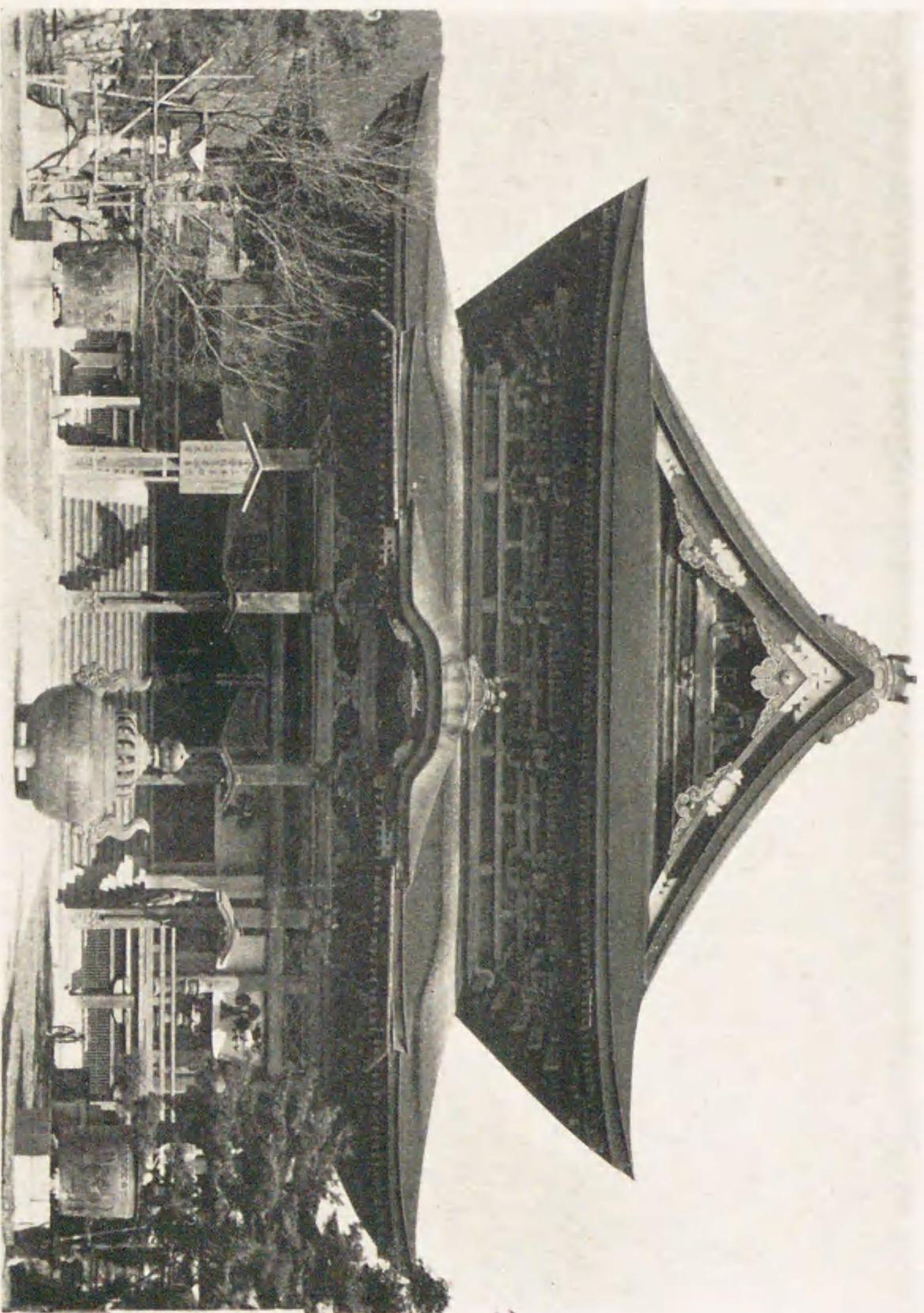
本門 仁王門の後に山門が高く聳え、その後は本堂である。堂の中央一段高いところは内陣で、その西方に本尊を安置し、厨子は七重の戸張で被はれ世に祕佛といつてゐる。

大勸進 山門の西側にあり、善光寺別當職で天台宗である。鎌倉時代の初め再建に當り、諸國を募緣したので大勸進の名が起つたといはれてゐる。

大本願 二王門下西側にある善光寺寺務職で淨土宗、住職は代々尼僧と定められてゐる。

賽者は四時織るが如く、この寺に詣らなければ、彌陀の淨土に至つてその光明に浴する事が出来ぬとされてゐる。

戒壇めぐりは瑠璃壇の下の暗い隧道の中を巡つて



善光寺本堂



善根を得ようとするので、心の正しからぬものは途中で迷うて出ることが出来ぬといはれ、中に入ると歩毎に南無阿彌陀佛の低唱が聞えて来る。

境内は今公園となり、その東に續いて城山公園がある。城山の中腹には城山館があり、善光寺平一帯を見下ろして風光がよい。

往生寺 北西約三軒、加藤左衛門佐重氏が草庵を結び往生を遂げた所、近くに親子地藏尊がある。

▼苜蓿堂 北西半軒、善光寺に行く途中である。加藤重氏の開基にかゝり、その子石童丸が父を訪ねて来て寂滅したところ、自動車がある。▼戸隠山 北西一九軒、柏原驛から登山、歸路長野に出るがよい

(柏原驛参照)

平穩温泉郷 平穩村に散在する温泉を總稱するもので、長野驛又は屋代驛下車、長野驛からすれば湯

信 越 線

田中まで約一時間、尙豊野驛からも自動車がある。

湯は湯田中驛から半軒乃至一二軒の間にあり、湯田中、安代、澁、上林、角間及發哺、熊の湯の七湯に分れてゐる。附近一帯はスキーに好適で、岩菅山登山は最も興味多いものゝ一つである。又夏は避暑によい。東京方面からは屋代から入るが便利である。

▼湯田中 湯田中驛から三〇〇米。

旅館 湯本、見崎屋、萬屋。

▼安代 同驛から約一軒、自動車がある。

旅館 山口屋、萬屋、安代館。

▼澁 同驛から一軒餘、自動車がある、こゝから澁峠を越えて草津へ二八軒の山旅は面白い。

旅館 龜屋、つばたや、もとや。

▼上林 同驛から二軒餘、自動車がある、こゝから一軒の地獄谷は、熱湯奔騰するさま奇觀をつくして

る。湖滿瀧は草津街道を行くこと四軒、懸水の風致に配するに躑躅又は紅葉の美があり、佐久間象山は之に「雲錦の瀧」と名づけてゐる、尙瀧の附近に琵琶池、幕岩など杖を曳くによい所がある。

旅館 塵表閣、上林ホテル、關屋。

以上諸温泉は何れも子宮病、皮膚病及びウマチスなどによい。

▼角間 湯田中驛から三軒餘、自動車がある、腦、胃、眼病などによい。

旅館 越後屋、山本館、和泉屋。

▼發咄 同驛から一二軒、澁峠の中腹一、三〇〇米の高所に位し、眺望展げ長野の灯まで見える。

旅館 寧靜館、湯本館。

▼熊の湯 同驛から一二軒、佐久間象山の發見になるところ、旅舎一軒、遠く塵界を離れてゐる。

長野縣廳は長野市にあつて信濃國を管轄してゐる。西境には飛驒山脈高く聳え、南部には木曾、赤石の山脈高く連り、東境には白根、淺間の活火山あり、中央には富士火山脈連互す、此等山地の間には谷狀の盆地があり、その間を千曲川、天龍川、木曾川の大河が流れてゐる。縣下は到るところ養蠶業盛んに、上田、松本は繭の集散地として聞え、諏訪湖畔の岡谷には製絲所多く、縣下の生絲産額は全國に冠絶してゐる。縣の西南部の木曾谷には有名な森林があり、木曾五木の名夙に聞え、福島はこの地方の中心地となつてゐる。

豊野 (とよの) 飯山鐵道接續點。

飯山鐵道 豊野から千曲川の西邊を走り、飯山、



湖尻野

れんげん
 心りおかに
 雪がふる
 スキーで
 行かうよね
 行おせうよね
 銀の山へ
 どりおても
 シツカツ—
 シツカツ—



垣田スキー陣

箱 櫃

峠

上境を経て十日町線十日町まで七五軒三。

信州浅野 (しんしゅうあさの) 附近に躑躅山の勝がある。**飯山** (いひやま) もと本多氏二萬石の城下で千曲川の岸邊に飯山城址があり、附近はスキー地として知られ毎年各スキー倶楽部、大學スキー部などが合宿練習する。**上境** (かみさかひ) ▼野澤温泉 驛から三軒餘、自動車がある。胃腸、皮膚病、リウマチスなどに效く。海拔六〇〇米餘、信越の高岳を望み、附近にはいはゆる野澤十二勝の散策地がある。殊に最近スキー場として知られ積雪量多く、雪質優れ、温泉旅館の設備も整ひ、スキーの中心は飯山からこゝへ移つた傾がある。旅館、野澤館、常磐屋、龜屋、酒屋、桐屋。**越後田中** (ゑちごたなか) 苗場山の登山驛である。**越後外丸** (ゑちごたまる) ▼松

信 越 線

之山温泉、西北約四軒、濕疹、リウマチスなどに效く、旅館 和泉屋。**越後田澤** (ゑちごたざは) ▼田開稻荷 南方約二軒、清津川の溪谷には「奥の景」の奇勝がある。▼小出温泉 一二軒。旅館 清津館。

柏原 (かしはばら) ▼野尻湖 北四軒、自動車がある。周回一二軒、黒姫、戸隠、妙高などの大山群をもつ高原の上にあるのがよい。近來外人の別荘が増え輕井澤の人氣は次第にこの地に移りつゝある有様で、蚊のぬないよい避暑地である。冬は又スケート場として賑ふ。旅館小松屋、野尻館。▼一茶の舊宅 野尻湖に行く途中驛から半軒餘のところにある、一茶が火事に遇つた後、住んでゐたといふ土蔵もなほ残つてゐる。

松かけにねて食ふ六十餘州かな

一茶

三二

是がまあ終の柄が雪五尺

▼黒姫山 登路八軒、海拔一、九八五米、山勢弧圓にして秀抜である。

柏原名物 蕎麥。

戸隠山 西一九軒、途中地震瀧の勝あり、山麓まで駄馬、案内者がある。山は普通戸隠表山といひ、別に五地藏岳、高妻山、乙妻山の裏山あり、山勢雄偉、男體山の秀麗と妙義山の奇峭とを兼ね、加ふるに地的變遷の勝と幾多の奇草とがある。山は海拔二、三三三米、山頂から西に北アルプス白馬連峰から後立山山脈の諸峰が最も近く望める。北は妙高山及信越國境の山々を望んで眺望がよい、山中に國幣小社戸隠神社がある、社は天手力雄命を祀る、戸隠山昔時縁起には命が天の岩戸を引き明け之を投げ飛ばし給ふと虚空を飛んで落ちたところがこの戸隠

だと傳へてある。

信濃へは地響がして日があたり

又平維茂が鬼女を退治たといふ紅葉の岩窟も荒倉山の麓にある。旅舎は舊院坊の變形したもので、中に二十一軒、寶光社に十六軒ある。

田口 (たぐち) ▼妙高温泉 西南半軒餘、自動車がある。附近にスキー練習場があり、十二月上旬から三月下旬まで妙高温泉株式會社内に妙高スキー俱樂部を置く。

旅館 加島屋、石田館、小林館、香風館。

▼赤倉温泉 北七軒、自動車一圓五十錢、妙高山腹海拔七五八米の地で北方が廣々と開け客窓から日本の蒼波を眺め佐渡ヶ島が指呼される、附近はスキーの好適地で十二月上旬から四月上旬まで滑られ、初心者には適當の指導が得られる。

旅館 香嶽樓、香雲館、赤倉ホテル、高田屋。

妙高山 赤倉温泉から絶頂まで一二軒、七時間で上下することが出来る。山は海拔二、四四六米、神奈、赤倉の兩山がその翼をなしてゐる、頂上には阿彌陀堂があり、富士、淺間、八ヶ嶽、白根、戸隠の高峰、佐渡ヶ島など眼界に入る。健脚の人は頂上から更に裏山に入り、歸路六堂の池に下り、北地獄の硫氣孔を見るがよい。山麓一帶は日本に於ける有數な豪雪地で積雪三米以上に達し、スキーの好適地として名高く、妙高、池ノ平、赤倉、關の諸温泉は毎冬三千人近くのスキー客が集る。

▼池ノ平温泉 三軒餘、自動車一圓五十錢、冬はスキー地として著名であり、妙高登山によい位置を占めてゐる。

旅館 加島ホテル、妙高閣。

關山 (せきやま) ▼關温泉 西南六軒半、夏

期自動車があり、上り一圓五十錢、下り一圓。三方に山巒をめぐらし東方が越後平野に展開し、日本海の澎湃とした眺めが大きい。避暑によく又スキーによい、季節は十二月上旬から四月上旬まで。旅館、富山屋、柳屋、笹屋。▼燕温泉 西南九軒、關温泉から二軒、土地高燥、蚊を見ない好適な避暑地、妙高登山はこゝからが便利、温泉附近にスキー場があり、十二月上旬から四月上旬までがよい。

旅館 中村屋、明治屋。

高田 (たかた) 二八五軒
五もと榊原氏十五萬石の城下
人口三萬三千(四、三調)有名
な積雪地で晩冬の候には市街は
丈餘の堆雪に埋れる。昔は「こ



の下に高田あり」の榜示を立てたときへいふ、スキーの好適地で驛の西二軒餘の金谷山附近はスキー競技によい地形をなし年々全日本の大會が催される。土地ではスキーの製作が盛んで年産額三十萬圓に達してゐる。

高田城址は東南一軒七。いはゆる稻田禪坊の淨興寺は南西約一軒、眞言大谷派の古刹。親鸞上人遺跡、東本願寺別院は同一軒二。岩の原葡萄園は東一四軒。自動車四十錢、約二、〇〇〇アール(二千餘町歩)に約三百五十種類七萬餘株あり、菊水印葡萄酒を醸造する。

旅館 高田館、いばらきや。
名物 毛拔、笹飴、栗飴、スキー菓子。

直江津 (なほえつ) 二九二軒二 北陸本線分岐點。上野から約九時間、荒川の吐口にあり、北越の

要津で直ちに日本海に臨んでゐる、佐渡の小木へ汽船便あり、四時間で行かれる。賃三等一圓六十六錢、二等二圓五十三錢、外船賃三十五錢。

▼直江津海水浴場 西約一軒。▼五智國分寺 西一軒七、自動車二十錢、今往古の壯麗はないが三重塔、經藏、仁王門などを存する。▼小丸山西本願寺別院 西約二軒、親鸞上人配流の地として門徒の崇敬するところである。▼春日山城址、林泉寺 西南四軒、自動車賃切二圓五十錢、高田驛からは西六軒、俣がある。上杉謙信の據つて府城としたところ、春日山上にあつて平時居住の地勢ではないが四境有事の日に立籠るべき防禦陣營である、山麓の林泉寺は長尾家累代の菩提所で謙信幼時の學修所である、寺寶「春日山」第一義の額は謙信の自筆で、謙信の自畫像にも英雄の面目が髣髴としてゐる。

黒井 (くろゐ) 頸城鐵道接續點。▼日本石油製

油所 東約三軒。▼信越窒素肥料會社 西南二二〇米、年産五〇、〇八〇吨。

頸城鐵道 黒井、浦川原間一五軒。

浦川原 (うらがはら) 附近の曹洞宗名刹顯聖寺内には二代杉といふ大杉がある。また驛から東南二八軒には松山鏡の傳説を有する松之山温泉がある。(本線豊野驛飯山鐵道参照)

柿崎 (かきざき) ▼米山藥師 東一四軒、内

六軒は自動車(三十五錢)がある。別途柏崎からも行ける、道程一二軒。米山の絶頂は山海の展望がよい。▼親鸞上人七不思議ノ一川越の御名號 東三三〇米、淨善寺にある。

米山菴句

(越後)

行かうか參らんせうか米山の藥師

一つア身のため、ササ主のため。

ぬしのためなら米山さまへ

はだし參りも、ササイとやせぬ。

頸城や見をさめ、米山三里

峠こえれば、ササ柏崎。

鉢崎 (はつざき) ▼大清水觀世音 東約南二

軒餘。 附近は海水浴場である。

鯨波 (くぢらなみ)

▼福浦八景 西南約一軒。

旅館 蒼海ホテル、若松屋。

柏崎 (かしはざき) 三二八軒五 越後線分岐

點。柏崎附近には油田多く、日本石油製油所がある、番神ヶ島は西二軒半、海水浴場で日蓮上人の遺跡である。

旅館 天京、岩戸屋、天屋。

信越線

三界節

(越後)

閻魔前なる茶屋の囁ささやかれを地獄へやらぬは
さりこは閻魔のよてひいきぢやア。
柏崎から椎谷まで
間に荒蕪あら砂
あくたの渡しが無かよからう。

越後線

柏崎かしはざきから越後平野を殆んど信越本線に平行して日本海近くに走り、新潟市の西南隅白山驛はくせんに行つてゐる。沿線には油田多く名利も尠くない。

西山にしやま (にしやま) 石油の産地として知られてゐる。▼超願寺てうがん(眞宗大谷派) 東南約三軒、織田信長の將戸次將監の建立、寺寶多く八月七日蟲干をなし觀覽を許してゐる。▼常樂寺じやうらく(淨土宗)

辭世を残して逝つた。

大河津おほかはづ (おほかはづ) 長岡鐵道接續點(本線來迎寺驛參照)

▼横瀧山 東一〇米、頂上に古墳があり、曲玉、管玉、神瑤などが出土する。

地藏堂ぢざうだう (ぢざうだう) ▼國上寺こくじやうじ 西北四軒、眞言宗の古刹、國上山の中腹にあり登山路、東坂、西坂の二つあり、和銅二年(一、二二〇年前)の草創で往古は七堂伽藍完備し、規模頗る宏大であつた。

西坂の中段に萬元上人まんげんや良寛上人りやうくわん隱棲の五合庵の遺跡がある。

西吉田(にしよしだ) 彌彦線分岐點。(東三條驛參照)

矢作(やはぎ) ▼慈眼寺じげん 東北三三〇米、

信越線

南二軒餘、越後第六番の札所。
禮拜(らいはい) 西四軒餘の椎谷町は觀世音と馬市とで知られてゐる。椎谷觀音は六月と八月とに人出が多い。

出雲崎(いづもざき) 有數の漁業地。▼善勝寺(日蓮宗) 西約五軒、日蓮上人佐渡へ流されたとき、弟子日朗(にちらう)こゝに泊つたことがあると傳へ、境内に日朗上人塚がある。▼光照寺(眞宗大谷派) 西約四軒、良寛上人の得度した處。

出雲崎節

(越後)

茶屋に腰かけ、酒の肴は何ぢやいな、問はれて番頭の云ふこゝにや、海は荒れるし、漁はなし前の前の松の木に、小枝に鷹さめて、小鳥捕らして、トコあんちやん酒肴。

小島谷(をじまや) ▼良寛りやうくわんの墓 北五五〇米、隆泉寺境内にある。奇僧良寛は天保二年正月「かたみこて何か残さん春は花、山ほとぎす秋はもみぢは」の

曹洞宗の古刹で玄翁和尚の開基と稱する。▼法圓寺ほふえん 東北二二〇米、眞宗佛光寺派の名利、親鸞上人自作の像、火中出現善導大師繪像、その他の寺寶がある。

越後會根(ゑちごそね) ▼角田かくたの三題目 西六軒、次驛越後赤塚あかづかからも六軒、日蓮上人文永八年(六五〇年前)佐渡配流の途中、寺泊てらどまりから出船して難風に遭ひ、この地に漂着した舊蹟で、岩頭に、上人の筆蹟と稱する南無妙法蓮華經の文字がある。

關屋(せきや) ▼逆竹さかたけの舊蹟 南約三軒、信濃川の對岸鳥谷野とやのにある、親鸞上人に因む傳説により、地上に挿した紫竹の枝が、後に根が生え枝葉倒さかさまに茂つたといふ。

白山(はくさん) (本線新潟驛參照)

越後廣田 (五ちごひろた) ▼中村の大杉 一軒半、中村の白山神社境内にあり高さ約六〇米、根元の周圍約一米、樹齡約一千年と註される大木で天然記念物に指定されてゐる。▼廣田鑛泉 約一軒半、天然瓦斯を燃して加熱してゐる、濕疹によい。旅館 奥ノ湯、角屋。(主として自炊制) 來迎寺 (らいかうじ) 魚沼線分岐點及長岡鐵道接續點。

魚沼線

終點のおちや小千谷は夙におちや小千谷縮の特産を以て天下に名を知られてゐる。長岡鐵道 來迎寺から長岡市の信濃川對岸なる西長岡を経て北走し、大河津で越後線と接續し更に寺泊てらどまりに至る三九軒三。沿線至るところ石油礦が多い。輿板 (よいた) もと井伊氏二萬石の城下で鐵器を産する。▼長生山萬歲閣 西半軒。大河津 (おほかはづ) 信濃川分水路閘門まで約二軒。寺泊 (てらどまり) 日本海に臨む要津、北に彌彦やひこの秀嶺を仰ぐ、この地は佐渡に最も近く、順徳上皇も日蓮上人もこゝから渡られた、附近に史蹟が多い。▼順徳院御遺蹟 北一軒 聚感園内にあり、

一隅に行宮址がある。▼日蓮上人硯井 北七七〇米、文永年間(約六五〇年前)上人佐渡へ配流の際硯水にした井戸で、後祖師堂が建てられ北國宗門最初の靈場となつた。▼海水浴場 驛附近及北八八〇米、遠浅で風景がよい。▼寺泊温泉 約三〇〇米餘、旅館共樂園(長岡鐵道經營)。▼佐渡の赤泊あかどまり 小木へ汽船便がある。賃、小木まで一圓七十錢。

佐渡御勸氣鈔

日蓮上人

九月十二日御勸氣を蒙て今年十月十日佐渡國へまかり候也、本より學文し候し事は佛教をきはめて佛になり思ある人をもたすけんと思ふ。佛になる道は必ず身命を捨る程の事ありてこそ佛にはなり候らめとをしはからる。既に經文のごとく惡口罵詈、刀杖瓦礫、數數見擯出と説れて、かゝる目に値ひ候こそ法華經を讀むにて候らめと彌々信心もおこり後生も憑しく候。死して候はば、必ず各各をもたすけたてまつるべし。

宮内 (みやうち)

上越北線分岐點。

上越北線

この線は宮内みやうちから岐れて南に向ひ、信濃川の流に沿うて越後川口おちごがわぐちに至り、そこからは魚野川の流域を走つて越後湯澤おちごゆざわまで開通してゐるが、近く上越國境の清水トンネルを越えて現に水上みなかみまで開通してゐる上越南線と接續すべき豫定である。別に

越後川口から十日町まで十日町線がある。現在列車は長岡を起點として運行してゐる。

越後瀧谷 (ゑちごたきや) 驛の東邊の諸村には牛の飼育が盛んで、春秋二季鬪牛の奇行事があり、小栗山が特に盛んである。

鯉 (觀賞用) 年産額八萬三千八百圓。

東小千谷 (ひがしをぢや) 小千谷町の川東にあり、町は越後縮布で知られたところ、縮布の開祖明石次平を祀る明石堂及船岡山公園などの驛からも近い。稗生山スキー練習場は東北三三〇米。旅館 山田屋。

越後川口 (ゑちごかはぐち) 十日町線分岐點 信濃、魚野二川合流點にあつて、川合神社あり、驛の東半軒餘には名高い鮭鱒化場がある。

十日町線

越後川口から岐れて信濃川に沿ひ、十日町に至る二一軒四、十日町で飯山鐵道に接續し、信越線豊野に通ずる。

越後岩澤 (ゑちごいはさは) 愛染明王 東四軒。

十日町 (とをかまち) 飯山鐵道接續點。有名な絹織物の産地で、年産額四百三十萬圓に上る。

伊達原のつゝじ 南二軒餘。旅館 田畑屋、油徳。

越後堀之内 (ゑちごほりのうち) 根小屋鮎漁場 東北二軒、魚野川に築を設けて獲る、新潟縣下第一の鮎漁場である。

小出 (こいで) 栃尾又温泉 東北一二軒、

佐梨川の上流にあり、自動車がある。ラヂウム含有量日本第三位を占めてゐる、約一軒を隔てゝ大湯温泉がある。

旅館(栃尾又) 自在館、神風館。(大湯) 東榮館、湯元館。

浦佐 (うらさ) 毘沙門堂 驛附近、普光寺内にあり、大同年間(一、一二〇年前)の創立、本堂、山門共に國寶となつてゐる、三月三日の縁日はいはゆる押合祭で名高いものである。

五日市 (いつかいち) 八海山 東里宮まで八軒、里宮から絶頂まで一四軒、六時間を要する。浦佐又は六日町からも登れる。山頂に八海明神を祀る、山の東に接して中ノ嶽、その北に連つて胸ヶ嶽あり、いはゆる三本嶽である、この三山の奥は峯巒重疊、山谷二〇數軒の地人煙を見ず、形状

世に知られぬところが多いといふ。

長森原古戰場 東南約三軒、上杉勢と長尾勢との戦に上杉顯定の戦死したところ、こゝの管領塚は顯定の墓といふ。

名木澤の古墳 西北三軒三。

六日町 (むいかまち) 魚野川の左岸にあり、三國街道の要衝である、町に上田八幡宮がある。

鹽澤 (しほざは) 越後上布の産あり、年産額一萬反、三十萬圓に及ぶ、また薄荷の産地。

越後湯澤 (ゑちごゆざは) 湯澤温泉 昔は三國峠越の驛路にあたり、疲れを癒した温泉で、魚野川の左岸小丘にあり風景美に富んでゐる、冬は三米以上の積雪があり、スキーに適し、東北の清水越や茂倉岳登山が興多く、清水峠を経て上越南線の湯檜曾へも一日で出られ、紅葉季にも見る

べきところが多い、この清水峠は昔三國峠と相並んで上州への通路であつた。近代三國が間道とせられたので往來が杜絶えたのを明治十八年清水の山道を修理して交通の便を開いたが、現在では東洋一の清水トンネルがこの下を貫いてゐる。

温泉旅館 高半、大和屋。

三國峠越 湯澤から上州に入り上越南線の沼田に出る道は、いはゆる三國峠越で昔は中越後から坂東諸州及江戸への往來は皆この峠によつてゐた、冬季大雪の際は附近の三宿に停留する者數百人に達したといふ。今は行商人などの上州方面に往來するを見るに過ぎぬ。湯澤から國境の峠まで二〇軒、峠から沼田へ三六軒、その間には貝掛、法師、湯の原などの温泉があり、草鞋旅の興が深い。(上越南線参照)

スキー場がある。

旅館 大野屋、榎屋、野本、山本。

名物 越の雪、尙俚諺に長岡甚句がある。

見附 (みつけ) 機業が盛んで絹綿交織の新節織が出る。▼今町 二軒餘、自動車がある。風揚で名高く、毎年六月五、六、七日の三日間刈谷田川を挟み八疊敷位の風をあげて合戦する、又羽二重、木綿地、鱈を産する。

各種織物の年産額は六百萬圓に達する。

三條 (さんでう) 刃物、足袋及黄銅度器の産地、特に金物類は年産額百八十三萬八千二百圓に上る。▼本成寺 西約一軒、法華宗の本山である。▼本願寺別院 一軒三。

東三條 (ひがしさんでう) 彌彦線分岐點。彌彦線は南は越後長澤へ、北は越後線の西吉田を通過し



長岡 (ながをか) 三六五 軒二 栃尾鐵道接續點。同線は栃尾まで二三軒二、悠久山まで二軒、栃尾は紬及節織の産地であり又上杉謙信の生地、町の常安寺にはその遺物がある。

長岡はもと牧野氏二萬四千石の城下、人口五萬五千(三、一二調)附近に石油の産出多く、東山油田あり、石油市並商工業市として冷く知られてゐる。又舊越後平野の中心に位し米産年額三百萬石、主として東京、大阪、高崎方面へ移出する。舊城址は今停車場及公園となつてゐる、維新の際官軍に抗した河井繼之助の墓は榮涼寺にある。蒼紫神社は悠久山にあり舊藩祖を祀り、東南三軒二。栃尾鐵道の支線及自動車がある。悠久山は公園で櫻の名所、附近に

て彌彦に至る。

彌彦線

越後長澤 (ゑちごながさは) ▼縣立種畜場

東四軒、自動車がある。▼八木ヶ鼻 東一二軒、自動車がある。五十嵐川上流の絶勝、粗面岩質の大岩が深潭に臨んでゐる。

燕 (つばめ) ▼八王子の白藤 南約三軒、小池村安了寺境内にあり、幹の周圍數米、枝は五十米四方に蔓る、花期は五月。▼月潟の梨園 東北六軒、中ノ口川の沿岸にあり、梨の産地で年收約二十萬圓といふ。越後名物の角兵衛獅子は應永年間(五〇〇年前)月潟の角兵衛といふ者、中ノ口川氾濫し田畑の被害多く、住民疲憊を極めたので之を救はんとして、子弟に獅子舞を教へ農閑の期